一代辨人は其受取るべき手數料前貸金立替金費用及び利息の爲め委任者に渡すべき金額又は商品に對し其辨濟又は擔保わるまで留置權を有す又其現に支辨たる立替金及び費用に付ては悉く之れを受取ることを得ず商慣習又は實際の必要に依り又委任者の利益の爲め何人も正當と見認むるものに限り之を委任者の負擔に歸することを得るものとす

呉味之変　袖手傍観　式内神社　鉄鎗之利　士道之標準　神武之創業　実効之厚薄　将士之功勲　人倫之大綱

○エ之部

寃魂　英智　叡慮　叡旨　要地　榮利　延期　叡感　叡聞

只思ふことあるのみにて意の如く不相成遺憾之至に御座候併し幸に賛成員及び會員諸君に十分の老材も有之殊に官廳よりの助力を得候に付益々奮て斯道に力め度候尚又御心付きの事も斯道の爲と思召御包藏なく御說示下され度奉願上候先は不取敢右用迄如斯御座候早々拜復

豐作を賀する文

秋色日々相催し候處益御清風奉賀候扨て本年ハ近來稀なる豐秋にて中にも貴家抔は別して御收穫多く有之候由御目出度事に存上候素より今年は五風十雨之本順なる氣候なる故とは申しながら平素御勉勵御耕作遊はされ候結果にして只管御手入の行屆被成候故と賀上候尚今年の御實績を以て益御力め被成候はゝ幾久

○仲立人

仲立人とは官の認可を受け他人間の商取引の媒介を爲すを營業とする商人なり即ち仲立人は甲乙双方の中間に在りて商取引の媒介を爲し其手數料を得るを以て營業となすものを云ふなり而して唯商取引を爲す職務のみならず取引所なき地に於ては商品有價証券貨幣及び爲替の相場を定め及び之れを公にする專權を有す

○仲立人となるべき

要務　亦世　延日　役使　役夫　恐縮　援兵　永康　演武　演劇　緣故　審聖　違役　露液　英邁　謁見　嬰繩　圓象　驛卒　驛夫　燕脂　謁者　園丁　役囚　要途　要將　影嗾　妖孽　偃蹇　援糧

敷御豐作に候はんと奉存候先ゝ右御祝まで如斯に御座候恐々謹言

仝返事

尊札忝拜見仕候如貴命秋色日々增し候處御仝家樣御障も無之奉賀候扨只今は親切なる御手紙頂戴仕り奉深謝候素とこれ氣候之宜しきを得て早害風災等無之且近年之大難なる虫害を免かれ候故にて決して御贊辭に當ることは相成不申候併しながら御尊示の趣謹て拜承宜しく相勉め可申候尚最早收納の事も相濟候得は御閑暇を以て御來駕下され度奉願候先は御返事まで早々

賞狀を受けし人を賀する文

昨日の朝日新聞にて拜承致候得者去る何日より某地にて開設之聯合共進會に何品御出品被

者の資格

一何人にても年齢滿二十歳以上にして少なくとも五年間其部類の商に從事し且つ是れ迄名譽を汚したることなき者に限る但し破産したるものは復權を得たる后ちにあらざれば仲立人となることを得ず

一仲立人となるには其業務を始むる以前に保證金を差出す可きものとす其保證金の額は各地及び各商部類幷びに二个以上の仲立營業部類を兼ねしむる場合の爲め者令を以て之を定む然れとも二萬圓を超過することを得ず

○仲立人は營業を讓渡し又は相續せしむることを得る場合

一仲立人は其資格あるものに其營業を讓渡し又は相續せしむることを得ると雖ども其之れを譲り受け又は相續者は官の認可を受け及び保證金を差出したる后ちにあらされば其營業を行

雷鳴	らいめい	施設	しせつ
煙霧	えんむ	掩映	えんえい
永訣	えいけつ	遑來	こうらい
遑遽	こうきょ	遑遽	こうきょ
營作	えいさく	營業	えいぎょう
驛遞	えきてい	榮枯	えいこ
榮進	えいしん	榮枯	えいこ
盈虛	えいきょ	妖言	ようげん
轅門	えんもん	要路	ようろ
要遮	ようしゃ	要道	ようどう
驕佚	きょういつ	沿革	えんかく
榮寵	えいちょう	越俎	えっそ
榮誉	えいよ	榮辱	えいじょく
越思	えっし	偃武	えんぶ
營建	えいけん	叡斷	えいだん

成候處格外の御賞賛を受けさせられ審査之結果として遂に一等賞御拜受相成候由誠に無此上御面目の御事と奉存候全く平素の御心掛と御才識により致す所と奉賀候實に貴兄の名譽のみならず當地一般同業者の名譽とも可申候加之ならず貴兄が這回の御名譽よりして久しく沈み居り候同業者も愈奮ひ立つべくと存候尚將來十分に御研究益々斯道の發達を御圖り下され度樣奉願候此品は甚だ麁末の至に御座候へども聊か御祝儀までに進上仕り候御叱入下され度先は御祝詞まで餘は拜眉に申上候草々頓首

●全返事

御來示謹誦仕候陳ば這回之共進會に於て一等賞拜受仕候事早くも御聞込に相成早速に御祝

叡聽	えいちょう	營繕	えいぜん
頻敏	ひんびん	越隣	えつりん
銃卒	じゅうそつ	要領	ようりょう
要撃	ようげき	益邑	えきゆう
益友	えきゆう	盈尺	えいしゃく
怨謗	えんぼう	烟焰	えんえん
蜿蜒	えんえん	咄々	とつとつ
詠吟	えいぎん	宛轉	えんてん
婉然	えんぜん	宛然	えんぜん
要衝	ようしょう	遠略	えんりゃく
遠境	えんきょう	遠阪	えんぱん
遠商	えんしょう	叡覽	えいらん
叡覽	えいらん	影響	えいきょう
沿道	えんどう	沿海	えんかい
厭忌	えんき	驛程	えきてい

詞被下殊に結構の品御惠與被下候段千万難有仕合に奉存候實は意外の僥倖にて恥敷も嬉敷も有之候幸ひ此機を失はす一層勉强仕益々斯道を四方に輝すべきこと誠に吾々の銘すべき處に御座候就ては來る何日午後五時より祉家に於て心ばかりの小宴を開き聊か同業諸君に一杯を献上仕度別に賤价可差上候へ共何卒御練合御來駕下され度預め御案内申上候先ゝ御返事まで早々不悉

●農學校に入學するを賀する文

謹呈仕候時下愈御清康奉賀候昨日某氏より承り候へば御令息何某樣にハ疾く中學科御卒業相成り御秀才之程感じ居候處此度有益之學事御修業且は貴下御素志の農學蘊奥を叩かんとの御精神を以て來一日御出發御上京の上駒場

ふことを得ず

○仲立人組合の件

一一地の仲立人又は一地に於ける或る商部類の仲立人十人以上あるときは其仲立人は官の認可を受けたる後組合を成すことを得此場合に於ては其組合中より一ヶ年の任期にて少くとも三人の取締役を擧すべし總べて其地の仲立人は此組合に加入する權利及び義務あり

○仲立人及び仲立人組合の爲すことを得さる事項

一仲立人及び仲立人組合は共通計算を以て仲立營業を爲すことを許さゞるに非ざるときは仲立人に在つては其營業を禁止し組合に在つては其組合を解散し尚は其組合員の營業を禁止す然れども若し仲立人が其組合定款に從ひて各組合員の爲めに其組合員の一人か過失又は義務の不履行あるときは各組合員と

勘算（かんさん）　遠行（えんぎょう）
厭離（えんり）　遠島（えんとう）には目（め）
延齢（えんれい）の灸（きゅう）　嬰兒（えいじ）

○ヒの部

神補（おぎなふ）　神益（おやくにたつ）
非常（ひじょう）ひどく　庶隱（ひいん）
閑然（かんぜん）　庶幾（ねがふ）
非望（ひぼう）　非命（ひめい）
飛禍（ひかわざわい）　飛報（ひほう）
飛語（ひご）　飛檄（ひげき）
皇祖（こうそ）　疲弊（ひへい）
罷勞（ひろう）　嫡好（ひこう）
脾臟（ひぞう）　氷人（ひょうじん）
微行（びこう）　謬誤（びょうご）

農學校に御入學被遊候由誠に以て目出度御事奉存候何卒斯道の爲めに御研究被成下將來當地の爲めに實益を御謀り被下候樣吳々も御願申上候就ては甚た麁末之至に御座候へ共鯉魚一折酒一樽聊か御祝ひの印まで迚も進呈仕候間御笑留被下度奉願候自身參堂之上御祝詞可申上の處生憎田圃普請に着手罷在候に付乍畧儀以書面御祝申上候いつれ明朝は御送別の爲め拜趨可仕奉存候早々拜首

●全返事

華翰忝拜見仕候清明之節に御座候處益御清適奉賀候扨は此度豚兒上京仕候に付御懇篤にも御奬勵被下候段千万忝く奉謝候尚又御心にかけさせられ美事の御贐物御惠投被下何共痛入申候次第に御座候就ては豚兒初めての旅立に付心ばかりの祝宴を催し度候間御差支之趣に承知仕候得共晩景より强て御來駕被下間敷哉却て御妨仕候義に御座候得共此段奉願候以上

●農學校卒業の人を賀する文

拜啓愈御多祥の段奉賀候陳者貴兄久々駒場農學校に御入學被爲遊候所今般御卒業の上御歸省被成候由唯だ貴兄之御名譽のみならず吾村一体に肩身廣き事に奉存候實貴兄の御才學といひ御熱心といひ尋常にあらさるに況して多年の御經驗を以て斯業に當られ候はゞ其の成功偉大なるべしと一村の爲め且は國家の爲めに喜悦罷在候甚だ輕少には御座候得共此品は聊か御祝賀の驗として進呈仕候尚一両日中には拜趨萬々御祝ひ可申上候草々頓首

●全返事

共同して保證人たるの責に任することを約するは妨けなきなり

○仲立人組合に定款を設くる方法

一仲立人組合は多數決を以て其營業を行ふ爲のみ定款を設くべし此の定款は商業會議所及び取引所の中就れか一方の設けある地に在つては其商業會議所及び取引所の承諾を經且つ官の認可を受るものとす

一定款を設るには法

美質 びしつ
美事 びじ
美風 びふう
美政 びせい
比屋 ひおく
比隣 ひりん
披閲 ひえつ
披見 ひけん
披觀 ひかん
披展 ひてん
悉然 びんぜん
微勤 びきん
微賤 びせん
鼻賤 びせん
微志 びし
微俸 びほう
微祿 びろく
微裏 びり
微臣 びしん
比肩 ひけん
比音 ひいん
氷解 ひょうかい
品格 ひんかく
品等 ひんとう
品秩 ひんちつ
貧窶 ひんく
貧困 ひんこん
繙綫 はんせん

尊書拜讀仕候近來は誠に御無音ゝ打過無面目事に御座候不在中そ種々御厄介相成候趣萬謝仕候却說小生歸村仕候に付御賞辭に預り御祝品まて御惠投被成下千萬忝く拜領仕候淺學菲才の身を以て僥倖にも卒業仕候のみにて迎も御賛辭の万一にも當り候事不能候將來は各位の御指教に依り應分の勉强仕るべき希望に御座候何卒御見捨なく御助言奉願候尚今日は家族共相集り聊か祝宴相開き申旨申居候得は御差支も無御座候はゝ午後五時比より御來車被下度久振にて積る御話申度候先は御請迄匆々拜首

茶園設置を賀する文

拜啓豫て之御志望を以て愈々茶園御設置遊そされ候由奉悦賀候實に茶は我國特有の産物に

比和 ひわ
頻年 ひんねん
畢生 ひっせい
畢竟 ひっきょう
百僚 ひゃくりょう
百端 ひゃくたん
百事 ひゃくじ
百物 ひゃくぶつ
比輔 ひほ
比丘 びく
微雨 びう
微少 びしょう
美風 びふう
秘藥 ひやく
秘事 ひじ
秘方 ひほう
秘封 ひふう
筆談 ひつだん
筆語 ひつご
病院 びょういん
病憊 びょうはい
必滅 ひつめつ
憑據 ひょうきょ
吳天 ごてん
賓客 ひんきゃく
賓主 ひんしゅ
賓交 ひんこう
牝牡 ひんぼ
眼勉 びんべん

律命合商慣習及び其地の取引所定疑に背戻くことを得ず

○取締役の權利義務

第一仲立人が其職務能圍内に屬する取引に於て法律命令及び仲立人組合定款を遵守するや否やを監視すること

第二組合員中に違犯者ある時は之を懲責し且つ必要の場合に於てそ其處罰及び除名を申つること

第三取引所なき地に於ては各組合員より提

御座候へば將來御勉强益々本邦産茶の聲價を御高め被遊候樣只管希望仕候就ては此品御目にかけ候程ゝは無御座候得共到來に任せ進呈仕候御受納被下候そゝ大幸に御座候再拜

全返事

貴書拜展仕候陳は乘て御噂申上候茶園今度數畝相開き申候に付意外の御賀辭を辱ふし剩へ澤山の御酒肉御惠み被下候段厚く御禮申上候園中雨露凌ぎの小屋相建て休息所と致候此處は景色も一通りそ有之候に付御閑暇の節には御案內致すべく奉存候先は御答まで如斯御座候不一

牧畜會社開業を祝する文

謹呈過般來種々と御奔走被遊候牧畜會社愈御開業の運に相成明日は御盛式御擧行被成候由

出する證書に基き少なくとも一週日毎に爲替相場及び貨幣商品並に有價證券の相場を公にすること

第四其定めたる相場を紹へず記入する爲め帳簿を備へ且求めに應じて公定の相場書を交付すること

第五裁判所又は官廳の求に應じて商の情況を開陳し又慣習に付き意見を陳述すること

第六仲立人の認可及び員數の增減み付意見を陳述すること

第七總て組合內部の事務を管理すること

○仲立人其媒介する取引に於て双方を代理するの權利あり

一仲立人は正當の理由假令ば其商品又は其人は之れを賣買するの權利なきものと信ずる等の場合にあらざれば其嘱託に應せざる可からざるの義務あるとするなり

○仲立人の爲すことを得ざる件

實に當時の景況より推せば無くては不相成候業務に付何卒一層御奮發被遊候て蕃畜の道御立被成度偏に奉希望候小生素より無學短才殊に該業に付見聞も無御座候得共敗路の点に於ては少々心得居候に付及ばず乍ら御助勢可申候猶先日小金原地方へ旅行之砌序に一覽致候景況の一班も申上度に付不日參堂緩々御談合可申候先ハ不取敢右御祝詞まで如斯御座候早々不尽

●全返事

薫墨拜見仕候然ば兼て希望罷在候牧畜會社今般創立候に付ては早速に御祝詞下され候段奉感謝候未だ諸般の準備全く調へ候にハ無之候得共追々と取繕ひ候積にて開業丈は仕候加之ならず薄資の會社に候へば十分の働とても出

貧富貴賤と憫諒あれにも蚊蜂之援すこしの貔貅之士

○モ之部

目前めまへ　目的めあて
蒙昧もうまい　目擊もくげき
勿論もちろん　照々てら〳〵
默客だまりて　門流もんりう
門閥もんばつ　門地もんち上に出
茂才さいのかみ　蒙古もうこ
門望もんぼう　朦言もうげん
摸擬もぎ　摸寫うつす
門族もんぞく　摸範てほん
門第もんだい　摸造まねして
蒙蔽もうへい　目下めのまへ

○セ之部

政權せいけん
先帝せんてい　沐浴のあみする
沐恩もくおん　沐澤上に出ず
前件まへく　目送もくそう
門葉もんえふ　門派もんぱ
目今もくこん　蒙霧もうむ
蒙愚もうぐ
門主もんしゅ　問答もんだふ

○セ之部

政府せいふ　政治せいぢ
生民せいみん　保約ほやく
殺害さつがい　正路せいろ
聖主せいしゅ　聖恩せいおん
潛居せんきょ　潛行せんかう
潛匿せんとく　宣下せんげ

●熟語もセ之部

來不申候へ共唯だ目下の處當地方には別に競爭するもの無之是を機會と存し候販路の點に付ては御尽力被成下候趣誠に以て大慶仕候御多忙にも可有之候へ共實況御一覽も相願度に付一両日中に御賁臨被下度百事御伺申度と奉存候右御答旁御願申上候拜酬

●養蚕所建築を祝する文

拜啓承り候へば平素御志望の養蚕所愈々御建築に相成既に昨日を以て竣功の由雀躍の至に御座候候御案內の通り我國輸出品中の第一位を占め候程の物にて且つ同業者も日一日と增殖致候折柄に御座候得は向後の御奮發にて益々國産を擴張致候樣御尽力の程御願ひ申上候尚資産家にして殊に老練家の聞ひある某々氏等とも御共同被成候由將來の御繁昌指を屈して

一仲立人は自己又は他人の計算の爲めにするも自己又は他人の名義を以てするも自己に直接又は間接の利害ある取引を爲すことを得ず

一仲立人は他人の爲めに支拂若くは保証其他の擔保を受け又は爲し又は他人の爲めに商品に對して前貸を爲すことを得ず

一仲立人は代務人又は商業使用人の資格を以て他人の用を辨ずることを得ざるなり

宣言上に至り　成功に至し
整備そのひなるも　精密ものにねんなり
潛伏ひそむ　制止とどめる
先般さきだって　潛入ひそみ
賤祚こそく　先鋒いくさの
戰功たゝかひ　政令まつりごと
靜謐しづかに　聖慮てんしの御
詔書てんしのみことのり　小吏こやくにん
赤子あかご　政體まつりごと
世態よのすがた　生業たつきわい
省略はぶくこと　節義みさを
世襲よつぎ　戰爭いくさ
戰死たゝかひしめる　誠實まこと
前古むかし　征討せいしうつ
先塋いはのり

相待申候先は御祝詞申上度迄如此御座候匆々

◉訪問の部

●虫害見舞の文

近日拜顏を得す候へ共愈御安康の御事と奉賀候扨本年は春以來風雨の順氣あるに拘はらず新聞紙上にて散見仕候得は各府縣とも到る所蝗虫の害有之候趣實に農業の爲めには無上の憂と存候弊村等にも幸に未だ目につく程の事は無之候へ共往々被害の地も有之に付甚敷も至らさる内撲滅致度と申合目下驅除方に尽力仕居候御村地方は如何に共御座候や何分とも御注意遊され度奉存候某農學士の說によれば之を撲滅せんとならば燒却する外は無之候得共姑息の計をなさんとならば某物を以て驅除すれば功顯有之候由承り候得は爲御參考申上

前三項の規定を犯して仲立人の爲したる取引は總て無効とす

○仲立人委任者に對して必要の申告を爲す件

一仲立人は委任者に對して詳悉完全及び正實に必要の申告を爲すべし卽ち商品見本の性質品位相場の情況等を委任者に申告せざる可らざるの義務あるなり殊に其媒介したる取引に關しては委任者の人違にわらざること無能

世臣ふだいの　世祿たくはい
唐卷にしきまき　旋轉めぐる
旌表あらはす　昭曠はつをかける
星霜としつき　泉貨ぜにかね
消耗きえうせる　淺見あさはかなみこみ
酒藏のみくらい　焦慮こがれる
尺牘てがみ　聖代よきみよ
生擒いけどり　生靈いきみたま
瘠地やせた　整頓とゝのへる
節目ふしめ　絕交なかたがへ
紹續つぐ　說破ときやぶる
贅言くだ〳〵しきことば　賤業いやしきわざ
赤地くさきのあかつち　逍遙ぶらく
齊整ととのふ　錢布ぜに
銓衡ひとをはかりあげる　遷都みやこをうつす

候先は御見舞旁如斯御座候早々頓首

◉全返事

御紙上難有拜見仕候時下新涼を覺へ候處御閑家御安清の段欣喜此事よ御座候降て弊屋無事に相暮し候間御休神下さるべく候陳ハ御親切にも御訪問に預り忝く奉存候御來示の如く近來各地方共大に虫害に相困み申候由承り及び候折柄弊村にも客月末比より同虫發生致し最初ハ別に心に掛候程にも無御座候處一日一日と甚敷相成今日に至り候てハ著しき跋扈の勢を逞ふし殊に昨年抔とは事變り稻株を悉く嚙切候に付日夜の別なく防禦方に盡力仕居候へ共兎角效能相見へ兼一同痛心罷在候折柄某農學士演述の豫防新法御示教に預り誰一人として知るもの無之何より以て有り難く試行可仕奉

方者にわらざると及び署名捺印の眞正なることに付き責任あるものとす又面識なき人に對して取引を媒介するには其地の有名なる商人に於て人違にわらざることを擔保するにわらざれば之に對して取引を媒介することを得ず

○仲立人委任者の求に應ずる義務

一仲立人商取引をなすには最も機密を要するものなるときは之を隱秘して他に洩れざるやう爲すべきの義務あるは仲立人の信用上然らざるを得ざる所なり

○仲立人取引を取り結ぶ權ある場合

一仲立人は當事者の明言あるときに限り取引きを取結ぶ權あり

一匿名委任者の場合に於ては取引取結の權限には辨濟又は報償を受くる權を合せて與へたるものと看做す

○仲立人の媒介し得ざる件

讒言　提徑
戰衆　盛業
盛意　說得
精勵　消火
小銃　說諭
節儉　消滅
成績　正精
井畦　船倉
勝宰　銃銳
剛士　星使
仙源　戰士
洗除　撰擇
先哲　小艇
星學　抄狀
筆仕　正妃

存候先は御返禮まで如斯御座候早々頓首

●風災見舞の文

拜啓昨夜は近來稀有なる大風にて有之候所高屋は入念の御新築に候へば定めて御損所とても無之と奉存候得共御作物等は如何なる事に御座候や奉伺上候尤も小生宅は御存知の通りの粗構に御座候へば軒傾き瓦飛び加之ならず園中栽植の花卉等も非常の損害に御座候猶粟黍は殆んど皆無にて無之哉と案じらるゝ程に御座候先は御見舞まで如斯御座候頓首

●全返事

如仰昨宵は一方ならざる風伯の暴威に御座候處早速御見舞に預り誠に以て恐入候御書中も據れば高家頗る御損所有之候由嘸御心配の御事と奉萬察候弊屋は風向の都合か家屋と別に

宣召　旋軍
星霜　全備
成業　扇動
抄譯　抄寫
斥逐　辭退
說諭　世子
生産　屈伸
說諭　腐蝕
紹介　紹元
記名　戰期
成否　成童

損所も無之候へ共作物は一として相應の損害を蒙らざるは無之候取分け粟黍類は實も皆無と相見え候斯樣に天災有之候ては益々社會の不景氣に關し御互に日比の苦心も水泡と相成候樣の心地致候先は不取敢御返事まで匆々敬復

●旱魃見舞の文

一筆拜呈仕候陳者客月上旬より今日まで凡そ五十日の間照り續きにて田畑は勿論飮用水にまで差支誠に困入たる事に御座候當村なぞそ元來の水理に便を欠き平年にてすら困難仕候に今年の旱魃に出合ひ唯た一の小流に少々殘れの水あるを以て日夜水論之絶ゆること無之村民も神佛の雨乞に餘無之實に慘憺たる有樣に御座候此樣子にては迚も秋蔓も覺束なく實に

一仲立人は法律命令に違反する取引又は法律命令を以て禁制したる物品の取引又物品の現になき空取引の媒介をなすことを得ず

○仲立人は使用人又は代理を用ゆるを得ざる件

一仲立人は自ら業務を營む可きものにして殊に取引取結に付ては使用人又は代理人を用ゆることを得ず必らず自から之を行はざるべからず

但自己營業の器械として他人を用ゆるは格別なり

○仲立人獨り直接に請求を受くる場合

一匿名委任者の爲めに取結びたる取引なるときゝ其本人の誰なるやは相手方に於ては知るを得ざる所にして此匿名委任者の爲め取結びたる取引に付ては仲立人獨り直接に請求を受く可きは當然なり

○仲立人は其取結びたる取引の要旨を

成學　成功　誠懇　船券　折獄　折閲　然諾　接待　生計　生理　生絹　生面　制度　征夫　征伐　征衣　征旅　泉下　外諾　税務　前路　踵武　生緒　盛典　盛饌　先導　締結　税則　税關　成貨　全戸　船税　暫奈　制限　利那　清潭　禪話　遷化　先規　洗濯　銭緡　銭法　銭湯　銭幣　舌耕　青旗　正嫡　歳抄　痛歎　乗て　誠懇　折獄　然諾　生計　生絹　青巒　征夫　征衣　泉下　税務　踵武　生緒　盛饌　先導　締結　税則　成貨　全戸　暫奈　清潭　遷座　洗濯　銭緡　銭法　銭湯　舌耕　青旗　正嫡　歳除　歳晩

痛歎の至りに御座候御地邊は如何に御座候や乗て水引の不便なる哉に伺居候得ば御案じ申上候事に御座候目下の景況御尋旁御見舞申上度如此に御座候以上

◎全返事

先月來の大旱は近來無比の事にて御同樣困難罷在候御親切にも御見舞下され難有奉謝候如仰當地も實に非常の事にて御示の通日夜神佛の祈禱に餘念無之誠に夜の目も寢ずに立廻り居る次第に御座候實に大旱の雲霓とは此事と奉存候先は御答詞まで如斯御座候草々拜具

◎水損見舞の文

拜啓連日の霖雨にて近年聞かざる大洪水と相成り候處御村方別に御損所とても無御座候哉御存の通當村は川付の地に候へば某堤防の遺

決より近邊の家屋は殆んど押し流されんとする有樣と相成候へ共幸ひ小生宅は少々高所に御座候へは大したる損害も無之候に付御案心下され度候唯だ田地は皆無の事と奉存候御地方は地勢柄多分御損所も有之候はんと御噂のみ致居候自然御修繕等の御事も有之候はゝ當方には若者一兩名遊び暮し候に付無遠慮御召使下され度候不一

◎全返事

來諭の如く數日前より不測の大水にて殊に當村は山を後ろに致し候へば彼所此處より山水龍瀨となりて襲ひ來り田畑とも浸水せざるはなく目もあてられぬ有樣に御座候只今は御見舞下され御厚情の段厚く御禮申上候就れ又天氣晴れ次第には是非諸所修繕可仕候に付其

特設の日記帳に記入する件

一仲立人又は其取り結びたる取引の要旨を記入する爲め特別に日記帳を設けて日々之れを記入し自分に其記入を日々〳〵勘定をして之に名前を記入し印を捺し且つ其翌日中に關係ある部分を抜抄したる謄本に署名捺印して之を委任者双方に交付すべし右交付したる謄本を其一方に於て謄本の旨趣に誤謬ある

先蹤さきの　正僞うそまこと
消防けしぶ　正俠ねんぐ
燒燼やけのこり　稍食かおとり
照準てらしあわせ　濶商人あきんど
西洋莫ねせん
小猴子こてつ
正路實直しょうじきを
正邪善悪
千辛萬苦さんざんしんく
諏材倫腹さいもくなくれう
生殺之權ひかすもころすも
攝錄門流くわんばくの
僭上無禮うへのおそれをしらぬ
憔悴困臥てたおれふす
精密之地圖くわしいとのえづ

節には又御願申上候事ゝ可有之と存候取込中御厚誼を謝するまで如此御座候草々不盡

病氣にて入院せし人を見舞ふ

久々御無沙汰仕候處近比御容体如何に御座候哉日々御快方に向はせられ候事と奉存候且又日ゝ增し秋冷の候と相成候に付御精神ゝ餘程御爽ゝ入らせらるべくと存上候陳て揩家一同無事に御座候間御省念下さるべく候扨貴兄にも永々御不在中に御座候得共御賢息何某殿初め非常の御勉強にて作物ゝ更に他家に一歩を讓らず候に付必ず御心配有之間敷候自然と御分息の御手に叶はせられさる樣の事ゝ有之候はゞ及ばずながら小生御助力申すべく候に付御心長閑に御保養の段万々祈上申候今日は一應御見舞申度と奉存候處少々取込申候事有之

○商業の部

か又は不當の箇所ある等にて異議を唱へ又は其取引を承諾するを肯せざる時は仲立人は直に之れを他の一方に通知せざる可らず

一死亡し又は退職したる仲立人の日記帳は仲立人組合の取締役に於て其組合なき地に在ては裁判所に於て預り置くべし

○仲立人の受くる手數料の件

一仲立人は其明約ある と否とを問はず又其

○ス之部

聖憐あはれみたれる　聖敎をしへを
聖帳みやをはる　聖示をしへをしめす
衰微おとろへる　衰落おちぶれる
衰殘上になし　衰弱よはる
跑徒したばたらく　寸地すこしのあいだ
出師いくさを　出納いれうど
數學そろばん　數回たびく
數奇ふしあはせ　水旱みづとひでり
水溢こみつ　水荒みづとひでり
水損みづでそこなふ　水夫かこ
水師ふなのり　易衆やしものを
衰弊よはる　衰運おとろへうんを
趨朝いえにに　趨拜きんじ
趨賃あるいてかりる　趨迎でむかふ

愚意を以て御見舞申上候此品甚た些少に御座候へ共御休屈まぎらしに御笑味下され候はゝ幸甚の至りに候孰れ又近日中參上御見舞申候先は御見舞まで如斯御座候頓首

◉贈遺の部

新茶を贈る文

拜啓春暖の候愈御清勝奉賀候扨小園の新茶少々早くは御座候へ共一二斤試製仕候處新茶丈ケの香味は有之且つ初物に候へば少々進呈仕候幸に御試煎被下候はゞ本懷の至りに御座候順首

右返事

拜展仕候然ば御自製の御茶澤山御惠投下され難有謝候意外に早き新茶にて早速相煎し一同

額の定めなきと否とを問はず手數料を受くるの權ありと雖も別段の定例又は慣習の存する場合を除く外其取引の終りたる後にわらされば之を受くることを得ず

一手數料の額は仲立人組合定款又は慣習に依り之を定む

一手數料は別段の契約又は慣習なきときは限り委任者双方より各其半額を拂ふを通例とす

一手數料は仲立人の過失に因りて其契約を相當に履行せざるときは之を拂ふことを要せず

一仲立人が不當の報酬又は惡興を委任者の一方より受けたるときは他の一方に於て其取引を無効なりと陳述することを得

○取引所仲立人

取引所とは取引所定款の規定に從ひ諸般商業上の取引を爲す公けに設けたる場所なり此公設場に於て双方相互の間に商取引を媒介する

遂事 すんだこと
寒替 かんたい
寒暑 かんしょ
酔狂 すいきょう
酔態 すいたい
梱機 こんき
梱包 こんぽう
梱束 こんそく
水鏡 すいきょう
水陸 すいりく
水郷 すいきょう
水程 すいてい
水國 すいこく
水路 すいろ
水閣 すいかく
水亭 すいてい
水檻 すいかん
水卒 すいそつ
水害 すいがい
水利 すいり
水紋 すいもん
寸鏡 すんきょう
隨筆 ずいひつ
寸陰 すんいん
水心 すいしん
水禽 すいきん
水理 すいり
推窓 すいそう
衰朽 すいきゅう
衰老 すいろう
吹噓 すいきょ
推及 すいきゅう
醉吟 すいぎん
瑞應 ずいおう
瑞雲 ずいうん
吹毛索疵 すいもうさくし
鄧莞之言 とうかんのげん
熟語字解補遺

○イ之部

有功 ゆうこう
有志 ゆうし
遊戲 ゆうぎ
遊歩 ゆうほ
幽囚 ゆうしゅう
幽棲 ゆうせい
幽人 ゆうじん
遲滯 ちたい
遊宵 ゆうしょう
幽閑 ゆうかん
遊君 ゆうくん
遊學 ゆうがく
遊漁 ゆうぎょ
一著 いっちゃく

拜味可仕候先は御禮まで餘は御面會の上萬々御禮可申述候卿々

甘藷種を贈る文

兎角鬱陶敷空合ひに御座候處愈御清風入らせられ候段奉賀候然ば在薩州の友人より態々到來仕候甘藷は紫色の物にて近頃珍敷哉に相考へ試植致置候處立派に蔓を生し候に付此の梅雨の濕を以て移植仕度就ては餘り少々にて如何はしく候得共種蔓御配分致候間御植付下され候はゞ幸甚の至りに御座候不盡

仝返事

態々御便被下貴書忝拜見仕候然は薩州より御到來相成候趣にて珍しき種蔓御配分被下何より難有御禮申上候折角昨今植付中の折柄に御座候へば早速植ゑ付相樂み可申候先は御禮まで卿々不具

筍を贈る文

暖和の時候に相成り候處益御佳適被爲入奉賀候然は小生所有の竹林に近日來孟宗弗々と生しかけ候付一二本持せ差出候御笑味下され候はゝ幸甚に御座候拜白

仝返事

貴書拜誦仕候如命春暖の時節と相成候處益御多祥奉賀候扨尊園の孟宗竹已に發筍仕候由ゑて態々御惠投下され奉深謝候早速調理拜味可仕候就ては幸ひ今朝舊僕の許より到來致候早蔵有之候に付御返禮の印として進呈仕候間御笑留下され度先は御禮旁此の如く御座候以上

白獵の猪肉を贈る文

拜啓小生所有の字某地に甘藷植付置候所每夜

者を云ふ

○取引所を設立する　ことを得る場合

一相應の商ある地に於ては其地又は其區域内の商人に於て一般又は或る部類の商取引の爲め認可を得て取引所を設立することを得

一取引所は取引塲を定め定款を設け及び取締役を置く可し此諸件及び其變更に付ては官の認可を受く可きものとす

一取引所の事務及び章程竝に取引所維持の方法費用手數料の額取引の方法及び取引時間又は取締役の選任取引所仲立人取引所に出入する各商人の權利義務等は特別の法律命令あるに非されば定款を以て之を定む

若し其定めなき時は取締役其定款に準據して之を定む

○保險

歐米及び我國に於ける保險事業の現況　現時歐米諸國に於ては保險

一般（いつぱん）　一併（いつしよ）
一層（いつそう）　一个（ひとつ）
一瞬（ひとまたゝき）　以還（このかた）
以降（このかた）　依憑（たよる）
偉大（おほい）　友愛（したしみあい）
夷隗（あらくれ）　委託（まかせる）
姻戚（しんせき）　姻婭（しんるい）に同じ
威福（ゐせいをふるひ）　慇懃（したしく）
委曲（くわしくしてこまかなこと）　懇親（したしみ）
邑里蕭條（むらさとさびしい）

○ロの部

碌々（ろくゝ）

○ハの部

寶璽（てんしの寶印）　寶祚（てんしの御くらゐ）
寶算（てんしの御とし）　古稀（七十の賀）

野猪襲來狼籍致候に付今日の休暇を幸に両三人申合獵取の爲め罷越候處漸く一頭打ち取り申候甚だ大きくは無之候へ共若物にて隨分柔かく候に付乍些少差上申候若し御口に適ひ候はゞ重ねて御仰下され度候頓首

◉仝返事

野猪御手獵の由愉快の事に御座候就ては澤山御配分下され奉厚謝候晩酌の肴物には無上の佳物に候へば今晩は例よりも樂しく數塩を多酌可致候是は甚輕少に候へとも獨逸製のブヲンデーとて昨日横濱の知人より送越候に付數本差上申候御晩酌の御加勢にも相成候はゞ幸甚に御座候早々頓首

◉杉苗を贈る文

拜啓先日一寸御噺申上候兼て注文致置杉苗昨日に至り漸く到着仕候に付内百本丈進呈仕候間御植付下され度候尤實苗の事に御座候へば或は土地嫌ひをなすとも有之候はんかと存候に付其御思召にて御植付下され度奉願候早々

◉右返事

日外御噂御座候紀州日高産杉苗御取寄に相成候趣を以て澤山に御分與下され難有仕合に奉存候幸に某所に明地を有し乘て杉苗植付度存し居候折柄に御座候得共願ふてもなき好都合に有之早速植付方可致候いつれ一両日の内參上萬々可拜謝申候頓首

◉西瓜を贈る文

拜啓近年は兎角に西瓜の不作に有之候處今年は實に當り年とも可申程の氣合に付皆々喜居申候就ては未だ少々は早きかと存候へ共一番

事務の競爭極めて劇烈にして其所に家屋の建築われば保險會社は直ちに之に就て保險を申入れ其店に貨物積出しの模樣われば又た直ちに其保險を引受けんと殆ど走周旋至らざる所なし保險會社は常に千種万樣の方法に依り顧客の便利と自己の利得とを圖るに汲々たりなれば通例商人が其所有の家屋財産幷に海上の貨物等に保險を附するは一般自然の習慣となりて万一商人中保險を附せざるものあれば世人は皆其愚を笑ひ大に其行爲を怪しみ爲めに信用を措かざるに至るの勢あり然るに飜つて我國の現情を察するに悲ひ哉未だ保險事業の擴張を見るに至らず人命保險の如き近年少しく其緒を開きたりと雖ども未だ世人をして普ねく其神益を知らしむるに至らず火災保險と雖ども亦其勢微々として盛んならず況んや海上保險の如き又未だ充分の發達を爲したりと云ふ

○ホ之部

濕頭（ほうとう）　乏困（とぼしく）
巷市（ほうし）　封建（ほうけん）
封鋼（ほうこう）　木偶（もくぐう）
乏絕（ほうぜつ）

○ヘ之部

偏險（へんけん）　剔抉（へきけつ）
平話（へいわ）　平等（びょうどう）
平頭（へいとう）　閉眼（へいがん）
庸食酬レ勞（ようしょくむくいろうに）　便宜賑行（べんぎしんこう）
米不二粥貴一（こめのかゆたかからず）

○ト之部

匿道（とくどう）　務脇（むきょう）
偷食（とうしょく）　偷眼（とうがん）

○チ之部

重罪（ちょうざい）　治蹟（ちせき）
治河（ちか）　治裝（ちそう）
定規（ていき）　治驗（ちけん）
呢喃（じなん）　地球（ちきゅう）
豬突豨勇（ちょとつきゆう）

偷情（とうじょう）　刀瘢（とうはん）
呑滅（どんめつ）　吶吃（とっきつ）
土木（どぼく）　塗抹（とまつ）
塗滅（とめつ）　妬悍（とかん）
嫉合（しっこう）　屯營（とんえい）
淫雨（いんう）　等閑（とうかん）
匿名書（とくめいしょ）
土冠大起（どかんおおいにおこる）
洞二見事情一（どうけんじじょうに）

○テ之部

態々（わざわざ）御使下され御紙上一々拜見仕候先日は御繁忙中御妨仕種々御懇切成し下され奉謝候うの砌御頼申上候蠶種御取寄せ之趣にて御持たせ迄下され忝仕合奉存候殊に上種之由一層大慶仕候何れ飼養方等更に御示教を蒙り度奉存候弊園の桑葉にて何程位ハ養ひ得べきやも計り兼候得者時宜に依れは猶又御分與相願可申と奉存候其内參上御禮申上候得共不取敢御受迄に如此御座候匆々拜首

追て代價等は御序之節御知らせ下され度願上候也

可らず日本諸港を往復する貨物中保險を附するもの實に寥々たるは吾人の實際に於て目擊する所にして我國に保險事業の極めて幼稚なるを知るに足る我國保險事業の斯く幼稚なる所以は主として我國商人の未だ保險の利益を知らず逃しきは其何たるやをさへ了解せざるもの多きに因らずんばあらず故に今左に順を追ふて各種保險事業の要用なる所以を示さんとす

治水修路　航海に緊要なる
船艦千里　あれなくつくる
船艦相關　ふねつらる

○リの部

良久　やゝひさし
頃家　いにしへ
兩全　りやうぜん
兩可　上に同じ
利心　よこしま
利器　よくせる
吏民鄙化　しだいにいたりたるもの
龍頭鷁首　てんしのめんめん
龍頭蛇尾　はじめよくをはりしのかわり
屢宇壯麗　いへいとおごそかなり

○ヲの部

應允　うけひく

○ヲの部

温語慰之　なだめらるゝに
降伏　ふくす
和平　やはらぎ
往來覆訊　たびたびとひかへす
王佐之才　てんしをたすけるさい

○カの部

號令　さしづ
降下　くだす
傲倨　おごりたかぶる
傲然　上にさし
巧遇　めぐりあつて
傲慢　おごり
抗戰　たゝかふ
傲散　おごりほしいまゝ
激遊　あそび
仇讎　あだ
犒賞　ねぎらひ
行旅　たびのそら
行人　ゆきゝ
行內　ぎやうれつ
閣下　あなた

海上保險　海上保險とは契約者の一方なる保險人が對手方卽ち被保險人に對し若干の報酬を得て船舶及び船積貨物の海上に於て破損若しくは損亡したるときは既定の保險金を仕拂ふべき旨を約束するものにして船舶若しくは船積貨物の持主は之に依て安心して貨物を遷送し得るの便益なり

海上保險の利益は固より云ふまでもなき所なり海上保險を托したる以上は海上如何なる大

日々之秋晴心地よき事に御座候擬今日始て蕈山之容子見ながら罷越候處溪間に於て數本狩り取り候に付御晩酌の料にもと貴覽に供し候御笑味下され度候當年ハ生ひ立ちもよき哉に見受け候に付盛之頃に者御同遊仕度と存候右まで匆々頓首

松蕈を贈る文

同返事

如貴命秋晴打續き快き事に御座候扨刻下は見事なる松蕈御惠投下され本年始めて之品難有拜受仕候當年は餘程生ひ際はよろしき由に仰せ下され一度は御供仕度と今より相樂み居候此佃煮は東京より送り越候ものに付乍些少御目に懸け候御笑味下され度候書外拜扈御禮可申上先は御受まで早々拜答

桑苗を贈る文

此中者御無沙汰仕候益御淸風奉賀候扨て御約束致し置候桑苗漸く根分け致し候ゝ付當桑百本加葉二百本細江二百本合せて五百本持たせ差上候御栽培成され度候其方法は萬々御承知之事とは存し候得共桑苗栽培法一冊御參考までに差上候御落手下され度候餘は拜眉萬々可申上候早々敬具

右返事

來雲拜見仕候此方よりころ大御無沙汰仕候時候拂御淸適之條奉賀候扨日外御頼申上候桑苗御根分遊はされ候由にて態々御持たせ下され難有仕合に奉存候早速植付可申候殊に又栽培法まで御送り下され圖より不慣れ之小生何寄大慶奉存候いづれ參上御禮申上べく候得共一

變化を生じ船舶貨物を全損するも一旦保險を托したる以上は保險會社に於て悉皆其損失を擔任す可きが故に安んじて之を搭載するを得べく況して不幸なる船舶の沈沒より家產を擧げて他人の手に渡し被產する等の恐れあらざるなり

海上保險の依賴及び其他の順序方法に就ては保險會社に明細の規定あり因て之を畧す

火災保險　其法先づ若干の保險料を被保險者より保險會社に拂へば同會社は其保險したる家屋若しくは其他の建築物家財道具商品等に對して保險をなし萬一其保險したる物件火災の爲め燒亡するも被保險者をして毫も損毛をなさしめず會社より契約額の保險金を支拂ふの方法なり故に商家にして若干の保險料を支拂ひ家屋倉庫を始め道具商品等一切其保險をなし置かば一朝火災に遭ふて悉皆燒亡するも別段困厄に陷るの患な

狡徒	樂舞
陣人	故智
下土	變收
變錯	交驩
變加	交誼
交接	住配
住期	住著
侃々	住處
假貸	假寐
假如	剛鎖
卯貴	各自
各課	合垢
合香	阿責
嘉儀	嘉賓
姦黠	姦慝

應御禮まで如此御座候早々頓首

早蕨を贈る文

昨日之好晴に乘し兒等引き連れ大坂山に山遊を試み候處思之外春草生ひ立ち居り中にも蕨は澤山に採り來り候に付珍らしくは有之間敷候得共爲持差上候未た市中にハ格別賣り行くを聞かざるやに存し候得者聊の先鞭の心持に御座候猶御淸閑も御座候得者近日御同遊仕度と存し候先は要旨まで如此御座候拜白

全返事

承り候得者昨日は山遊之御催し成され候由暑からず寒からざる好天氣定めて御愉快之事と存候就てハ早蕨澤山御惠贈下され殊に御手採の品別て難有拜味仕候猶時期を見計ひ一度御同遊相願度存候此新茶も昨日宇治之親友より送り越候に付乍些少御裾分いたし候先は御受けまで早々拜答

早胡瓜を贈る文

冠省扨本年始て試作致し候早胡瓜培養方之不行屆なる爲めにや出來方宜しからず候得共漸く數顆丈け稍々熟し候に付御覽に入れ候唯だ早きを自慢までに御座候御酌の御あしらへにも相成候はゝ大慶仕候拜具

全返事

唯今は見事なる胡瓜御惠投下され御深切之段奉謝候實に珍らしき品にて當分は床上に飾り賞玩仕候御培養之程感し入る事に御座候先は貴酬まで何れ近日拜眉御禮可申盡候早々

請托の部

さ法なり

其依頼の順序方法は保険會社明細の規定あり

今之を畧す

生命保険　死後に遺族をして飢餓凍餒の患なからしむるの豫備は苟も識實周密なる商人の宜しく心得へ置くべきことなり而して其豫備の方法とは他なし只生命保険の一事あるのみ其方法には短期長期養老年金等の諸種あり又其保険料も年齢及び身体の健否に因つて高低ありと雖も并は一々

管砲　ぐわんぽう
擇畢　えらみをはる
丹悃　たんこん
乃翁　だいおう
代任　だいにん
他事　たじ
他年　たねん
倒錯　とうさく
卓犖　たくらく
睡手　すいしゅ
大凡　おおよそ
對偶　ついぐう
拓地　たくち
柳絮　りうじょ
淡霧　たんむ
道路經營　どうろけいえい
鐵條成獄　てつでうせいごく
娠房　しんぼう
丹款　たんくわん
乃翁　だいおう
代謁　だいえつ
他年　たねん
倒錯　とうさく
卓犖　たくらく
睡手　すいしゅ
大凡　おおよそ
對偶　ついぐう
拓地　たくち
柳絮　りうじょ
淡霧　たんむ
道路經營　どうろけいえい
鐵條成獄　てつでうせいごく

○田植に人を頼む文

一書拝呈仕候時下益御清福奉賀候拠野生方明日より田植に取掛り度就ては甚だ申上兼候得共御召使之中にて御手明之者御座候はゝ御繰合を以て一両日御手傳下され間敷や御宅之御植付には必らず御手傳致すべく候先は御依頼申度如何御座候早々已上

●全返事

御來示拝承仕候扨は最早御植付之御手廻し相成り候に付明日より御着手之趣大慶之至に奉存候就ては御手傳可申旨仰せ下され委細拝承仕候御役に相立候やも計り兼候得共命に従ひ三名早朝より差出可申候間万事御指圖下され御使用之程御頼申上候序ながら御頼申置候ハ拙家本年は苗代不出來にて少々苗に不足を生ずべきかと懸念仕候自然御殘りにも相成候はゝ何程成共御分與下され度相願候先は貴答まで早々不乙

●茶摘みに人を頼む文

前畧陳者今年は氣候殊の外早く未だ八十八夜にも間合御座候得共茶の芽は既に摘み頃と相成候に付明日頃より取掛り度就ては御多用の折柄甚た申上兼候得共三四日にても御召使之内御手傳下され間敷や乍勝手此段以書中御願申上候以上

●右返事

御來書之趣敬承仕候最早や茶摘之期節に相成由にて明日より御着手に付雇人をして御手傳致すべく旨仰せ下され一々拝承仕候山家育ちのものに候得者御役に相立ち候哉も難斗候得

各保険會社の規約に明示せるが故に今之を畧せず

○手形法

●為替手形の性質及其形式

為替手形は振出人より支拂人に當て記載の金額を受取人又は其所有權を受けたる人に拂ひ渡さしむる証券にして其券面には必らず左の件々を記載し振出人記名調印せるものなり

一金額（但し数字の外別に文字にて記するを可とす）

○レ之部

冷笑　れいせう
冷語　れいご
了々　れうれう
了快　れうくわい
合名　がつめい
冷職　れいしよく
列置　れつち
列宗　れつそう
列肆　れつし
劣弱　れつじやく
厲鬼　れいき
厲聲　れいせい
廢屋　はいをく
廢置　はいち
聊々相接　れう〳〵さうせつ
歷々可レ辨　れき〳〵べんずべし

○ソ之部

屬託　ぞくたく
淡合　だんがう
總調　そうてう
卒然　そつぜん
腹隙　ふくげき

二振出の年月日及場所
三支拂の期限及場所
四支拂人の氏名
五受取人の氏名
六受取人或は其所有權を受けたる人に支拂ふ可き旨
爲替手形は一の爲替に附全文の手形二通又は二通を振出すことを得べし即ち此種の手形を稱して組合手形と云ふ但し此場合に於ては各通に番號を附し內一通に對し支拂を爲したる時乙他の各通は無効たるべき旨を記載すべし又單獨手形組合手形の如何に論なく其金額は必らず五圓以上に限るべし
支拂期限　爲替手形の支拂期限は分つて三となす
一　一覽拂　此種の手形は其呈示を受けたるとき直ちに支拂ふべきものとす
二　定期拂　此種の手形は手形に定めたる期日に支拂ふ可きものとす

風綢狗盜（ふうちうくとう）
屬纊之際（ぞくくわうのさい）

○子之部

佼幸（かうかう）　佼娟（かうけん）上に同じ
熱血（ねつけつ）　熱官（ねつくわん）

○ナ之部

內洋（ないやう）　內臺（ないたい）
內膳（ないぜん）　內江（ないかう）
內府（ないふ）
內地多難（ないちたなん）
內地雜居（ないちざつきよ）

○ラ之部

朗詠（らうえい）　亂倫（らんりん）
亂結（らんけつ）　亂邦（らんぱう）
勞倦（らうけん）

老大前日（らうだいぜんじつ）

○ム之部

矛盾（むじゅん）
無情（むじやう）
無算（むさん）

○ツ之部

于役（うえき）
鬱陶（うつたう）
鬱悶（うつもん）
鬱結（うつけつ）
雲集（うんしふ）
雲霧鏤鐫（うんむるせん）
運用之妙（うんようのみやう）

○ン之部

宏壯（くわうさう）
鑛山（くわうざん）
鑛夫（くわうふ）
寡君（くわくん）
寡慾（くわよく）
寡聞（くわぶん）
宏業（くわうげふ）
荒唐（くわうたう）

共貴命に應し差出申候万事御申付御使ひ下され度願上候猶御邪魔かは不存候得共愚女も罷出度申出候に付同道致させ申すべく御叱り御使ひ下され度候いづれ御見舞ながら御茶園まで參上致すべく候早々拜答

稻刈に人を賴む文

秋穫の時節と相成御繁忙に入らせられ候事と存し候扨誠に申上兼候得共両三日前より下男無餘義事故にて歸省致し候處折柄稻刈に着手中にて何角と不手廻りに相成困却仕候就ては自然貴家之御刈り上け御着手に不相成候はゝ一両日丈け御手傳下され間敷やうの內には下男も歸村致すべく貴家の御收穫には御手傳致させ申すべく候右御依賴まで匆々以上

右返事

仰せの如く秋收之時節と相成御繁多に入らせられ候事と存候承り候得者御刈り上けに際し御下僕里方へ歸省致し候由にて御差支之程万察仕候手前方は未た着手も致さず候得者命に應し両名明朝より差出し申候御用捨なく御指示御使ひ下され度相願候先は御答まで如此拜晤之上萬事可申上候匆々

農業書購求依賴之文

其後は御無音打過候時下秋冷相催し候處益御清安奉賀候陳者此中より養蠶方之新書購讀致し度候得共御承知之通田舍之事にて書林あるも無きが如く新板之ものは更に無之遺憾に堪存候折々新聞等にて拜承仕候得者續々と新板書籍も發行相成候由何書が最も有益にして初學吾々には適當致し候哉も計り兼候得者甚だ

三　一覽後定期拂　此種の手形は一覽濟の日より其日數を超算し手形に定めたる期日に支拂ふ可きものとす

一覽拂の手形及び一覽定期拂の手形は振出の日附より三ヶ月以内に之を呈示すべく而して定期拂の期限は振出の日附より一覽后定期拂の期限と一覽濟の日より各六ヶ月以内を限ること手形條例の定むる所なり

荒僻（くわうへき）　荒僻（くわうへき）之地（ちち）

逸息（いつそく）　逸息（いつそく）も荒野（くわうや）に生（しやう）ずる

宏遠（くわうゑん）　宏遠（くわうゑん）の志（こころざし）

解夫（かいふ）　解夫（かいふ）一（いち）人（にん）の事（こと）

外相（ぐわいさう）　外相（ぐわいさう）を飾（かざ）りて

乖争（くわいさう）　乖争（くわいさう）し

眞眼（しんがん）　眞眼（しんがん）の士（し）

刮目（くわつもく）　刮目（くわつもく）する

勦滅（さうめつ）　勦滅（さうめつ）せしめ

詭言（きげん）　詭言（きげん）を

寰海（くわんかい）　寰海（くわんかい）の

管領（くわんりやう）　管領（くわんりやう）し

眞天之忠（しんてんのちう）　眞天之忠（しんてんのちう）も

掛二課農桑一（のうさうをくわくるにかくをつくると）　掛二課農桑一（のうさうをくわくるにかくをつくると）

荒僻（くわうへき）之地（ちち）

荒野（くわうや）に生（しやう）ずる

宏遠（くわうゑん）之（の）志（こころざし）

解夫（かいふ）一（いち）人（にん）の事（こと）

外相（ぐわいさう）を飾（かざ）りて

乖争（くわいさう）し

眞眼（しんがん）の士（し）

刮目（くわつもく）する

勦滅（さうめつ）せしめ

詭言（きげん）を

寰海（くわんかい）の

管領（くわんりやう）せしめ

眞天之忠（しんてんのちう）も

掛二課農桑一（のうさうをくわくるにかくをつくると）

○ヤ之部

荒僻（くわうへき）之地（ちち）　荒野（くわうや）に生（しやう）ずる

逸息（いつそく）　逸息（いつそく）も

宏遠（くわうゑん）　宏遠（くわうゑん）の志（こころざし）

解夫（かいふ）　解夫（かいふ）一（いち）人（にん）の事（こと）

外相（ぐわいさう）　外相（ぐわいさう）を飾（かざ）りて

乖争（くわいさう）　乖争（くわいさう）し

眞眼（しんがん）　眞眼（しんがん）の士（し）

刮目（くわつもく）　刮目（くわつもく）する

勦滅（さうめつ）　勦滅（さうめつ）せしめ

詭言（きげん）　詭言（きげん）を

寰海（くわんかい）　寰海（くわんかい）の

管領（くわんりやう）　管領（くわんりやう）せしめ

眞天之忠（しんてんのちう）　眞天之忠（しんてんのちう）も

掛二課農桑一（のうさうをくわくるにかくをつくると）　掛二課農桑一（のうさうをくわくるにかくをつくると）

○ヤ之部

去る何日付之華墨昨日來着拜見仕候如仰秋冷日に相募り候處益御清適之條奉賀候扨御申越之農書は小生一向に其方には熟せず候に付何れか然るべきや計り兼ね幸に友人某氏は專門の農業家に付同氏に依賴し農業新書養蠶全書谷一部購入致候郵便を以て御送り申上候御落手下さるべく候代價は目錄之通に有之十五錢丈け過金に相成候に付體かに御預り申候猶相應之御用も御座候はゝ何成共御申越下され度候先は貴答旁如此御座候時下折角御攝養第一

申上兼候得ども金貳圓小爲替を以て御送り申上候間各種御閲覽之上最も有益なるもの御購入之上御郵送成下され度此段御依賴まで如此に御座候匆々拜具

◉仝返事

去る何日付之華墨昨日來着拜見仕候如仰秋冷日に相募り候處益御清適之條奉賀候扨御申越之農書は小生一向に其方には熟せず候に付何れか然るべきや計り兼ね幸に友人某氏は專門の農業家に付同氏に依賴し農業新書養蠶全書谷一部購入致候郵便を以て御送り申上候御落手下さるべく候代價は目錄之通に有之十五錢丈け過金に相成候に付體かに御預り申候猶相應之御用も御座候はゝ何成共御申越下され度候先は貴答旁如此御座候時下折角御攝養第一

爲替資金　爲替手形の振出人は其支拂に對して爲替資金交付の義務あるものなり但し振出人より支拂人に對し貸方計算ある時は之を以て爲替資金に供用するを得るの規定あり

手形の裏書　爲替手形は裏書を以て其所有地權を移轉することを得べし但し此場合に於ては手形の裏書は買受人又は讓受人の氏名及び年月日を記載し賣渡人又は讓渡人の住所氏名をも記し調印すべく而

伴笑（はんせう）　伴笑（はんせう）

楊花（やうくわ）　楊花（やうくわ）

野無二曠土一（のにあきちなし）　野無二曠土一（のにあきちなし）

○マ之部

枚擧（まいきよ）　枚擧（まいきよ）に

滿意（まんい）　滿意（まんい）

滿口呼レ寃（まんこうくわんをよぶ）　滿口呼レ寃（まんこうくわんをよぶ）

○ケ之部

京攝（けいせつ）　京攝（けいせつ）

欠伸（けつしん）　欠伸（けつしん）

形貌（けいばう）　形貌（けいばう）

俠士（けうし）　俠士（けうし）

儇媚（けんび）　儇媚（けんび）

元宰（げんさい）　元宰（げんさい）

啓行（けいかう）　啓行（けいかう）

暗諜（あんてふ）　暗諜（あんてふ）

伴笑（はんせう）

楊花（やうくわ）

野無二曠土一（のにあきちなし）

○マ之部

枚擧（まいきよ）

滿意（まんい）

滿口呼レ寃（まんこうくわんをよぶ）

○ケ之部

京攝（けいせつ）　頃日（けいじつ）　このころ

欠伸（けつしん）　缺望（けつぼう）　ふぞくに

形貌（けいばう）　乾綱（けんかう）　てんのめぐりの

俠士（けうし）　儆備（けいび）　ようじんする

儇媚（けんび）　元謀（げんぼう）　もはかりごと

元宰（げんさい）　協同（けふどう）　てはづをあはす

啓行（けいかう）　啓表（けいへう）　まをしあげる

暗諜（あんてふ）　堅確（けんかく）　しつかりしたること

に祈上候匆々拜答

◉種物の分配を請ふ文

以手紙得貴意候然者兼て御噂御座候鳩麥種恰し種植の季節と相心得是非種蒔致し度就ては誠に申上兼候得共何程成共御分配下され間敷哉猶右に付別段蒔き方に注意を要する事も御座候得者御垂示を蒙り度此段御依賴まで匆々頓首

◉仝返事

御來書之趣拜承仕候鳩麥種いと御心易き事に候得者貴價に托し差出し申候尤此種は昨年自園にて採取致候ものに付其善惡の程も計り兼候得者其邊は豫て御斷り申置候猶別段方法とては無之通常の大麥を蒔くと同樣に御心得可然候右御回答まで貴答

して其讓渡賣渡の後ち該手形に就て不都合を生ずる時は裏書人は振出人及び自己以前の裏書人と共に自己以後の裏書人及び手形所有人に對し相連帶して償還の責任を負はざる可からざるの義務ありと知るべし

保證及び引受爲替手形の振出人裏書人及び支拂人は他人をして手形の支拂を保證せしむることを得べく而して此保證人は本人義務を欠きたる場合に於て本人に代り他の義務者と相連帶して償還を負ふの義務あるものとす但し保證人支拂を爲したる時は本人に代り其權利を有すること勿論なり

定期拂手形及び一覽後定期拂手形の所持人は其支拂人に引受を求むることを得而して支拂人手形の支拂を引受けたる時は振出人身代限の處分を受けたる場合と雖も其取消を爲すことを得ず

支拂人手形の引受を拒みたる時は其拒み證書

○コの部

獄訟くにを　日口いくち
袴褶うちかけのもの　侯黒をなぬし
吾曹われら　吾儕上に全じ
拘泥かかはり　乞裁こさいて
乞免こうべんめんしよ　乞憐あはれみ
五嚇ちかす　伍長のしがるの
侯吏ものみの　侯鑓てやけ
侯遽とをはの　倥傯いそがはし
傴僂こごまり　克捷よりどころ
公私ももてわたくしとにしよう　公法ものほやけのおきて
公道のみち　近衆こにて
功高てがら　功効てがら

○フの部

文才ぶんさい　不虞にうつかず
不當あたらず　不庭ぬばん
不肖ふつてん　伏匿かくれる
伏願ねがひて　俘獲とりこ
俯項もくれい　俯察うつむいて
分娩ぶんべん　布衍しんべん

○ヘの部

覆讞ふたたびかんがう
撫以二恩信一　なでるにおんしんをもつてす

○ホの部

精々麁價に取引相成候樣御盡力致すべく候右御返事まで匆々拝答

●田地賣却に付依賴の文

先日は御邪魔仕候其節も一寸御耳に入れ置候小生所有の何字田地何反何畝歩之處此度いよ〳〵賣却致し候事に決心仕候就ては相應之望人も御座候はゝ御周旋に預り度尤代價は手取り何千何百圓までと御承知下され度貴下は兼て御交際も御手廣く有之候に付万事可然御取繕ひ下され度候依て反別書畧圖及び地價等別紙に相認め御覽に入れ置候右御依賴まで匆々以上

●右返事

過日も能社御來車下され候處例之通欠敬の事のみ御海容下され度候うの後御申聞け之御所

●耕牛買入周旋を賴む文

拜啓彌御清適奉賀候陳者突然之義に御座候得共兼て飼用致し來り候耕牛は最早老衰致し十分の用に立ち不申候に付更に良牛一頭買入度と日頃心掛け候得共思はしく無之甚だ心促きに御座候就ては御地方には兼て賣買も多く有之由に聞及ひ居候得者何卒牡牛一頭御周旋下され度代價は先以四十圓内外と存し候此邊御含を以て御周旋下され度願上候早々拜具

●仝返事

御書面之趣敬承仕候耕牛御買入相成度由幸ひ當村何某なる者所有牡牛にて極めて柔和なるもの四歳とかにて隨分見事なる樣相考候處此度賣拂度申居候に付早速に貴覽に供へ申すべく旨申付置き候間若し氣に叶へ候はゝ代價は

を受くべし而して之を受けたるときは其旨を電信書留郵便其他證據となるべき手續を以て振出人又は裏書人に通知して爲替金額及び諸費用に相當する抵當又は保證人を以て保證を立てしむることを得べく此際通知を受けたる裏書人は振出人又は自己以前の裏書人に對し所持人同一の處置を爲すことを得加ふるに振出人又は裏書人の中既に相當の保證を立てたる者あるときは其以後

勾留（こうりう）　口腫（こうしゅ）
口吏（こうり）　叩謝（こうしゃ）
國是（こくぜ）　孤軍奮闘（こぐんふんとう）
工賈（こうこ）　後身（こうしん）
困窮（こんきゅう）　怨嗟（えんさ）
懇祈（こんき）　攻剝（こうはく）
江湖（こうこ）　孤疑（こぎ）
魂魄飛越（こんぱくひえつ）

○テ之部

泥濘（でいねい）　佃戸（でんこ）
塡房（てんぼう）　塡滅（てんめつ）
丁男（ていなん）　丁寧（ていねい）
亭々（ていてい）　低首（ていしゅ）
低回（ていかい）　停職（ていしょく）
傳郵（でんゆう）　典籍（てんせき）
天兵（てんぺい）　天軍（てんぐん）
天眷（てんけん）　定員（ていいん）
帝系（ていけい）　敵手（てきしゅ）
朝野（ちょうや）
廷無二稽牒一（ていにけいてふなし）
隄防頽圮（ていぼうたいひ）

○ア之部

亞相（あしょう）　壓迫（あっぱく）
凹凸（おうとつ）　安逸（あんいつ）
暗號（あんごう）　曖然（あいぜん）
殃災（わざわい）
安坐不レ動（あんざふどう）

○サ之部

挫折（ざせつ）　沙汰（さた）
穿鑿（せんさく）

有地御賣却に相成候趣に付御周旋致すべく云々一々拜承幸に心當り有之早速に申入置候未だ其決答は無之候得共前以て御相談致し置度に付御通行之折柄も御座候へば一兩日の中に御立寄下され度相願候先は乍延引貴答まで如此

●田地買入を賴む文

一書拜呈仕候然者突然之義に御座候得共此中某氏より承り候得者御地內某之地所賣却相成候に付万事貴兄に於て御周旋遊ばされ候由右地所は小生所有地と接續に付代價さへ相當の約束相成候得者是非買入置度甚だ御手數之段申兼候得共反啟及ひ代價等御一報を煩はし度此段相願候匆々敬白

●仝返事

の裏書人又は保證を立つるの義務を免るゝ者とす

支拂（しはらひ）　手形に貨幣の種類を記したる時は其貨幣を以て之を支拂ふべく又一の爲替に附き手形數通あるときは支拂人は其引受を記載したる手形に對し支拂を爲すべし而して支拂人期限に至り手形の支拂を爲さゝる時は手形所持人と支拂の拒み證書を受け直ちに其旨を電信書留郵便其他證據となるべき手續を以て振出

前畧當村某字の地賣却之噂御聞入に相成御買求め相成度由拜承仕候如命某氏所有之處都合によれは賣拂度との事にて既に一二之望人も有之候得共未た約束濟には無之候間然御望にも候はゝ至急御一報下され度候依て反別書等別紙持たせ上候御覽之上は御返戻下され度候匆々拜酬

●小作を地主に賴む文

以書中得貴意候然は承り候得者御所有之某村字某之地是迄之小作人は今般返地仕候由就ては以來私へ御申付下され間敷や丁度うの地續きにて某氏の田地も永年私へ預り小作罷在候得者大に好都合を得候右御願申上度乍欠敬以書中如此御座候以上

●仝返事

人及び各其書人に通知せざる可らず

拒み證書　支拂人手形の引受又は支拂を拒む時は手形に付箋を爲し拒み證書を作りて手形所持人に交付すべし尤も支拂人拒み証書を作ることを肯せざるか或は其住所分明ならざるか又は不在にて代理人なきときは所持人自ら其始末を記し記名調印して郡區役所若しくは町村役場の証印を受け拒み証書に代用すべし

錯記　差異　三寫　瑣細　山嶺　些子　作爲　作色　催徵　債券　刪略　刷清　劍痕　削封　勵絶　參酌　造舟之禮　蒼生安堵　豺狼之食　禁苑　寄聲　許諾　巨萬　幾個　猫仕

○キの部

御手紙拝見仕候益御安泰奉賀候却説いつやら御噺し御座候通今年は菊花御培栽之思召立に候由何寄之御樂みと存候就ては苗物御送り可申旨御申聞之趣拝承御心易き事に候處實は數日前に某氏來臨の折柄多分に持歸られ至て品少なに相成居候得共既に弊園に植付候分數本抜き取り併せて御使に托し候いづれも名前は記し置候得共猶一覽表一枚相添置候御落手下され度候先は貴答まで匆々以上

雇人の周旋を頼む文

一翰拝呈仕候秋色日に加はり候處益御清適奉賀候扨は先日買求め候某の地所此度開墾いたし田地に仕度幸に水の便は至極宜敷に付當年中に着手之考に御座候然るに是までの如く僅かの雇人にては迚も手廻り兼候に付此際今數名雇入れ度候御地邊に丈夫之人物も御座候はゞ三四人御周旋下されまじく哉甚だ御面倒之

償還の要求　手形所持人支拂の拒み証書を受けたる時は其日附より十五日以内に振出人其書人の中一人若くは數人に對し爲替手形の金額期限后の利子及び拒み証書幷びに通知の費用の償還を要求することを得而して此の要求に對し償還をしたる裏書人は其日より十五日以内に自己以前の裏書人又は振出人の内一人若くは數人に對し自己の償還したる金額及び其利子を要求するこ

獻納　幾多　驚愕　虛妄　僞運　號慟　凶荒　勤勉　危坐　醫科　園人　菜布　殘々乎　艱悩失錯　蹋天蹐地　艸木鳥獣　艸根　慥仕　僞契　宮奴　號慟　凶健　危懼　艸根　慥仕　艸木鳥獣　艸根　慥仕　艸木鳥獣　艸根　慥仕　艸木鳥獣

とき得べく此際振出人は爲替資金を支拂人に交付したるの故を以て償還の要求を拒むことを得ず最も此場合に於て要求を受けたるものは拒み証書を附したる爲替手形及び証據を添へたる計算書と引換にあらざれは償還を爲すに及ばす

紛失　手形所持人手形を紛失したる時は直ちに新聞紙若くは其他の方法を以て其手形の流通を止むる旨を廣告し又電信書留郵便及び其他証據となるべき方法を以て振出人に通知し其支拂を止めしむ可し而して此場合に於て手形紛失人は振出人に紛失の旨を報じ代手形を請受け各裏書人をして、再び之を裏書せしめ更らに其手形を流通することを得尤も此要求を受けたる時に於て振出人は手形紛失人をして保証を立てしむることを得べく又事故によりて紛失人代手形を受け得ざるときは支拂期限に至り支拂人に對し盡義にて申上兼候得共御一考相煩し度此段相願候匆々不乙

追て相應の人物も御座候はゝ何卒拙家まで罷越候樣御取計ひ下され度相願候也

◉杉苗植付の手傳を頼む文

拜啓陳者過日は杉苗御周旋下され難有奉謝候就ては明日より植付度候處手前方雇人は何れも素人のみにて役に立ち兼困入り候御繁忙の折柄甚だ申上兼候得共尊家御雇人一両日丈け御貸し下され間敷や何成共相應の御手代り致させ可申候右御願まで匆々

◉全返事

御申越之趣承知仕候拙家下僕とて致て巧者と申には御座なく候得共此中三四日指圖致し植付させ候に付多少は心得居可申歟と存候ま付

○商業の部

◉熟語補遺

雄辯（ゆうべん）　勇敢（ゆうかん）　勇言（ゆうげん）　勇斷（ゆうだん）　勇戰（ゆうせん）　勇猛（ゆうもう）　勇退高騰（ゆうたいこうとう）　勇躍百倍（ゆうやくひゃくばい）

○メ之部

著眼（ちゃくがん）　免職（めんしょく）　免官（めんかん）　免身（めんしん）　名分（めいぶん）　名妓（めいぎ）　面折廷諍（めんせつていそう）

○シ之部

將來（しょうらい）　上陸（じょうりく）　稱譽（しょうよ）　唱義（しょうぎ）　乘興（じょうきょう）　執拗（しつよう）

銃丸（じゅうがん）　豎子（じゅし）　醇酒（じゅんしゅ）　醇醪（じゅんろう）　障害（しょうがい）　人事（じんじ）　柔腸（じゅうちょう）　爾儕（じせい）　遵守（じゅんしゅ）　除移（じょい）　除名（じょめい）　除授（じょじゅ）　除官（じょかん）　升降（しょうこう）　史官（しかん）　跳達（ちょうたつ）　失體（しったい）　子錢（しせん）　孳々（じじ）　室老（しつろう）　寃興（えんきょう）　就約（しゅうやく）　市隱（しいん）　執逆（しつぎゃく）　弱冠（じゃっかん）　弛嚴（しげん）　情史（じょうし）　憊懇（ひこん）　承諾（しょうだく）　粧梧（しょうご）

貴命に從ひ差出申候御指揮の上御召使下され度候猶小生も遊びかてら御山まで罷出申べく候匆々拜答

◉農書借覽を頼む文

突然ながら書中を以て得貴意候承り候得者此中農業新書及び養蠶全書御取寄せ相成候由都合に依りては小生も一部購讀仕度就ては甚だ申上兼候得共御用明にも御座候はゝ一両日間御恵貸相願度御許可之上ハ此使へ御托し下され度願上候匆々頓首

◉全返事

御來書拜展仕候扨は此中買求め候農業全書外一書御覽なされ度由にて御申越之趣承知仕候然るに養蠶全書は昨日某氏へ用立候に付唯今は此一書丈け貴价へ御渡し申候近日の内取寄

正の所持人たる旨を証し支拂を請求することを得るも此の場合においては支拂人は手形紛失人をして保證を立てしむることを得べし

約束手形　約束手形は振出人記載の金額を受取人又は其所有權を受けたる人に自ら支拂を約束したる定期拂二十五圓以上の證券を云ふ而して其受授に關する法律の規定は爲替手形に關する規則中に準ずるに定めたる規則中二三反對の性質を有する條目を除くの外悉皆之を適用するものとす

印紙貼用　手形には印紙規則に基きて相當の證券印紙を貼用せざる可からず若し相當の印紙を貼用せざる手形を發行し或は之を裏書移轉し或は其仕拂呈示をなし若しくは其支拂をなす時は該規則に定められたる相當の科料に處せらるゝのみならず此くの如き手形を抵當とし或は貸金の仕拂に對して受取りたる時は其所持人は法律上該手形金額の仕拂を請求す

櫛比	しっぴ	殊死	しんみになる
殊勞	しゅかん	殊方	しゅほう
殖民	しょくみん	殖財	かねもうけ
失言	しつげん	神算	しんさん
神戸	かんなし	私邸	してい
私財	わたくしのもの	擯斥	はらひのける
支族	しぞく	支那	しな
春情	しゅんじょう	時機	ときのはずみ
時俗	じぞくのふう	遵行	したがひおこなふ
如法	にょほうにそむかず	曙癖	ねぼすけ
除目	じもく	除夕	おおみそか
上途	じょうと	上梓	じょうし
上聽	しょうちょう	主客	しゅかく
主戸	しゅこ	乘降	じょうこう
事會	じかい	享樂	きょうらくにふける

せ御覽に入れ可申候最早一讀仕候に付緩々御覽なさるべく候拜答

◎勸催の部

●農事研究會を催す文

時下暖和之節に相成候處益御清榮奉賀候扨突然の義ゟ御座候得共頃日來種々熟考仕候に當地の地勢たる山を後ろにし川を前にし空氣の流通はよろしく日光の射映はよろしく加ふるに地味膏腴にして米作にまれ麥作にまれ養蠶なり製糸なり何とて適せざるも無之の好地味にありながら從來の景況を按ずるに唯た舊慣にのみ泥みて米作の改良法さへ實施せられず他の村々とは優るあるの地を以て他の村落よりは收穫も少なきは畢竟するに改良の實効擧らざる故と遺憾之至に存候就ては此度農事研究會なるを設け智識の交換を謀り實際の經驗を闘えせ候ハヽ大に利益を開き候事と存候就ては有志者相會し万事の打合ゟ致し度御賛成下され候はヽ明日午後三時より某寺に集會候樣仕度此段以書中御意見伺旁御意を得候早々

●仝返事

御來書敬讀仕候如命春暖日に增ゝ候處益々御多福奉賀候扨御申越之趣逐一拜承折角此中より氣付き居候得者折を見て御相談の上開會いたし漸次隆盛に至らしめ一村の幸福を謀り度と存居候際御來示に接し恰ゟ符節を合するとゟ申すべき義にて頗る御同意に御座候明日は万障を抛ち必らず集會御協議なり御示揮なり相受け申すべく候先は御答まで如此御座候匆

商族	しょうぞく	人爲	じんい
人作	じんさく	仝上	
人家	じんか	すぐれた	
仕一	しいつ	仁化	じんくわ
仁慈	じんじ	仁愛	じんあい
仁惠	じんけい	仁術	じんじゅつ
仕途	しと	仲宛	ちゅうあて
伺察	しさつ	侍妾	じしょう
使酒	しゅ	使節	しせつ
修祀	しゅうし	修史	しゅうし
修身	しゅうしん	俊傑	しゅんけつ
冗員	じょういん	冗劇	じょうげき
勝地	しょうち	受封	じゅほう
叙事	じょじ	叙酒	じょしゅ
叙陳	じょちん	嗜好	しこう
嗣續	しぞく	四肢	てあし

るの權利なしとす最も組合せ手形の場合に於ては其中の一通に印紙全額を貼附すれば敢て數通に渉りて之を貼用するの要なしと知るべし

禁鬩文　手形面の記事と假令些細の件と雖とも決して添削增減すべからず苟くも日附金額等の如き手形面の要項を擅出人の同意なくして變更する時は假令該手形と共復裏書を經て他人の手に移り裏書讓受人は其手形に變更あるを知らざる場合と雖ども振出人は之れが爲めに仕拂義務を免るゝは一般の定則なりとす尤も其變更文にして手形に要用ならざる事項に係る一部分なる時は之れが爲め其責任を免すものにあらずと雖ども已に一旦手形を發行したる後若しくは引受を得たる以上は如何なる些末の件と雖ども之を變更せざるを以て得策とす何となれば之れが爲め詐僞密謀者の爲めに提訟せらるゝの機利なしとす最も組合せ手形の場合に於ては其中の一通に印紙全額を貼附すれば敢て數通に渉りて之を貼用するの要なしと知るべし

禁鬩文　手形面の記事と假令些細の件と雖とも決して添削增減すべからず苟くも日附金額等の如き手形面の要項を擅出人の同意なくして變更する時は假令該手形と共復裏書を經て他人の手に移り裏書讓受人は其手形に變更あるを知らざる場合と雖ども振出人は之れが爲めに仕拂義務を免るゝは一般の定則なりとす尤も其變更文にして手形に要用ならざる事項に係る一部分なる時は之れが爲め其責任を免すものにあらずと雖ども已に一旦手形を發行したる後若しくは引受を得たる以上は如何なる些末の件と雖ども之を變更せざるを以て得策とす何となれば之れが爲め詐僞密謀者の爲めに提訟せ

○モ之部

蒙塵　つゝしとをくらくして
目皆盡裂　てひくいかる

○セ之部

招飲　まねいてゆふめし
雪顏　せつたい
生前　いきてゐる
負債　ふさいをおふ
全勝　ぜんしょうかつ
切諫　せつかんする
前史　ぜんしへ
善導　よきみちへみちびく
宣召　せんしのめし
成否　せいひ
折簡　せつかん

○ソ之部

夕烟　ゆふけむり
正使　せいし
井匠　いしやう
借侈　しゃくしゃ
全美　ぜんびをつくす
制取　せいしゅ
勢家　せいか
善勝　ぜんしょう　全上
宣賜　せんしをたまふ
抄撮　しょうさつする
斥逐　せきちく

○タ之部

否塞　ひそく
微瑕　びかすかなるきず
必然　ひつぜん
比歲豐稔　ひさいほうねん

○チ之部

叱責　しっせき
人居鱗次　じんきょりんじ
秋毫無レ私　しうがうわたくしなし
上書以聞　じょうしょいぶんす
○テ之部
叙藥　てんしのご
延滯　えんたい
延燒　えんしょう
徭役　えきえき
○ト之部
拖殺　ださつす
烟火斷絕　えんくわだんぜつ
緣二坐妻子一　さいしにえんざす
○ヒ之部
彼我　ひがとも
微瑕　びかすかなるきず
微服　びふく
皮相　ひさう
比歲豐稔　ひさいほうねん

々拜答

◉農談會を催す文

以廻文得貴意候然は豫て御相談申上候通來る何日午前第十時より某寺院に於て農談會開設可仕候間万障御繰合御出席下され度當日は目下滯坂中の某農學士を聘し一場の談話を請ひ候筈に御座候此段御通知旁如此に御座候匆々

追て同日午後五時より某樓に會し懇親の爲め一酌致し度候間是亦御贊助下され度會費は一名一圓つゝの豫算に有之候

◉送別會を催す文

以書中申上候然者農會々長某氏爾後何日を以て農況視察の爲め駒場へ向け出發相成候に付會中の誠意を表する爲め明日午後第三時より某樓に同氏を招き送別の一宴を催し度御贊成之上百般御差繰御來場相願度尤も會費ハ一名に付金一圓づゝの豫算に有之候乍欠敬御贊成の有無御名前下へ御記入下され度願上候此段以回章得貴意候也

◉農事懇親會を催す文

回章御免可被下候扨は本年ハ氣候本順にて秋穫も殊之外多分に有之且最早大半片付候に付ては有志者相會し一には豐作の祝宴一には舊好を温め候爲めに來る何日を卜し某樓に會し懇親の宴を催し度候各位御意存如何に候哉若し御贊成も下され候はゝ大慶之至に候乍失敬御同意の諸君は貴名下へ御認印下され度奉願候以上

追て會費は一人に付五十錢の豫定に候猶回尾より幹事方へ御返戻下され度候也

られ善意の所持人も手形偽造の判決を受くるの恐れなきを保せざるのみならず時として手形流通の後其證券に疑更する場合には假令各關係人の一致に出づるも印紙規則の爲めに無効とせらるゝこと往々少からざればなり

◉農業の部

肥料

○「アルカリ」鹽類

ポッターアス、石灰曹達及び苦土の四種は化學上に「アルカリ」鹽類を生ず其鹽類は各性質を異にして農業費用として價値は一樣ならず故に其使用の方に依り極めて貴重なる肥料ともなり又恐るべき有害物ともなりて甚だしきは農作物を萎枯せしむることあり凡て「アルカリ」は酸類と化合せざるときは劇しき燒熱性のものにして有機物と混せば之れか分散を促し離散せしむるの性を有す此を以て農家たるものは須らく以下列記せる「アルカリ」肥料の有機肥料と混せざる

○酸類

硫酸　青礬　硝酸　精鹽　鹽酸　精鹽　燐酸　清道　焦糖　盛代　硝子　精粗　弊給便鐵

○ス之部

綠礬　推賛　推託　※※※

撹注意せざる可らず特に安母尼亞を含蓄せる肥料を混せば其安母尼亞は大氣中に游離して其功驗を失ふべく又魚糟は燐酸に富み草木灰は「ポタシュ」の多量を含有せる故に此の兩者を併用せば良好なる肥料となるべしと雖ども若し暖て濕潤せる魚糟に草木灰を混用するの事のことめれば魚粕中に含有せる安母尼亞は離散すべく故に過失を避けんには兩者を別々に土地に施用すべし斯く

春杪　殘春　春歸
晩春　末春　春闌
上巳　重三　修禊
桃蘭　流觴會
曲水節　桃花節

四月　孟夏　中呂
朱明　首夏　正陽
槐夏　六陽　余月
純陽　新夏　早夏
立夏　淸和　乏月

五月　仲夏　午日
雄黃　鵙月　皐月
南訛　梅天　梅雨
夏五　夏半　盛夏
中夏　夏靖紀仲

端午　重午　重五
粉粽　蒲陽　地臘
蒲節　天中節
蒲草日　朱符節
絲纏節　浴蘭節

六月　季夏　林鐘
庚伏　徂暑　晩夏
夏末　亢陽　鶉火

七月　孟秋　夷則
初秋　蘭月　蘭秋
素商　流火　新秋
開秋　秋初　秋涼
新涼　相月　首秋
上秋　肇秋　商節
爽節　九秋肇候

候得者兎角と云ふ試みに今年より御飼養なされ候ては如何哉桑葉も少々は手前に有之猶種紙も御配分可申候間御令孃方の御慰みかたぐ御着手相成候樣致し度存て御勸め申上候猶桑苗の御培栽にも相成候はゝ仕不及數年この事のみよ奔走致し候得者少々心掛け候事も御座候に付何時にても御手傳なり御相談なり可罷出候先は不顧不敬御勸め申度如此御座候書餘拜鳳の上萬々可申述候唐突之譬言御海恕可被下候匆々拜具

●茶園を開くを勸むる文

一筆拜啓仕候陳者承り候得者此度某地某山御買取りに相成候由之處同地邊は耕地には變換難かるべく就ては、いづれ御考向は可有之候得共御懇意の間柄を以て愚意申上度は同地の地勢より東北に面しうの土質は多く礫土にして茶園には甚だ適當の地と存候素より目下は小松類生ひ茂り候得者うの儘にては不相成候得共少しく御手入れ相成候時は開拓に難きとは有之間敷と存候近來は茶の勢力甚だ盛にして中々思の外に利益を得べく存候得者斷然と茶園に御開きなされ候てゝ如何哉餘りに出過ぎたる事よ候得共敢て尊意を得候不敬の罪御海恕可被下候匆々拜具

●仝返事

御懇篤なる華翰に接し忝拜見仕候然ハ此度買求め候地所之義に付御申越之趣一々敬承小生の考にてゝ桑園になさんかと存居候得共是とてゝ地味に適當と申には無之實ハ彼是と迷ひ居候折柄之御示教にて迷夢を醒まし斷然と茶

なせば「アルカリ」の爲めに分解されたる遊離物は直ちに土地に吸收さるゝを以て少しも其患なきなり

●ポタアース

凡そ農作物として其生育に「ポッタース」を要せざるなきは前に述べし如く「ポッタアース」は燐酸及び安母尼亞に次ぎて我邦農家の肥培上至緊至要なる三肥料の一にして其肥料として通常用ひ得べきものポッターアス的肥料は草木灰、硝酸ポッター

アス卽ち硝石硫酸ポッターアス及び燐酸加里等なり其副業製糖及び火酒釀造後の殘汁海水より食鹽を製したる後ち母液とポッターアスを含有せるを以て此を容易に得べき地は之を用ひて利ありとす

數多の試驗に據るにポッターアスは作物の營養物を顯化ずるに欠くべからざるものなりとす例令ば蕎麥の如きは燐酸ポッターアスを施さゞれば其生育極めて微弱なりと云ふ

七夕　綺節　巧夕
星會　醮衣夕
乞巧夕　天孫佳節
八月　仲秋　南呂
桂月　西顥　清秋
正秋　深秋　桂秋
穐半　秋高　秋中
秋清　長月　豆雨
秋分　秋涼　仲商
雁來月　秋中令節
九月　季秋　無射
涼秋　授衣　菊月
暮月　貫月　杪秋
晩秋　玄月　暮秋
殘秋　秋末　季商

園に可仕決心致し候併し万事不知案内之事に候得者何れ近日之内參上萬事御伺可申候右御答まで如此御座候匆々

◉共進會出品を勸むる文

前略陳は御承知之通來る何月何日より某地に於て農產物共進會開設相成今回は近府縣よりも出品有之候由就て貴家御手作の何品御出品相成候ては如何哉素より御名譽ある品に候得者敢て世評を買ふの必要はなきものゝ如くに候得共多數人の中にて未たうの寶益有効なることを承知せさる向も多分可有之に付此際御出陳相成候時ハ大に世人の利益を開き國益の助けと可相成存候斯かる事にて名譽を買ふは兼て御嫌ひ之段て万々承知仕候得共國益を開くと思召强て御出陳相成候樣いたし度此段御勸め申度如此に候不敬の段萬頃の御海恕可被下候匆々拜首

◉農會加入を促す文

爾來は御無音打過き候時下春暖相催候處益御清適之條奉賀候陳者小生兼て大日本農會に加入罷在候處其初めはさしたる功能も無之樣存居候得共近來はうの雜誌も大に面目を改め毎册の紀事中利益を見る澤山有之猶又質疑を爲す時は丁寧に答文を送り越され實に教師なくして農學を研究するの利益有之候然る處此度は一層盛大に致さんとの趣意より會員も募集せられ候得者何卒御入會相成候樣致し度依て規則書等供御一覽候先は御勸め申度まで如此御座候匆々

◉右返事

○草木灰

草木灰は我邦古來實驗上より肥料として効能あるを知り慣用したるものなり其成分は草木の種類に因り千差萬別なりと雖ども概して劍簳亞斯石灰に富めるものなりとす植物を燃燒し得べき量も植物の種類によりて差違なりと雖ども通常百分の一より一割とす草木灰に含有せる礦物は遲遠苦土燐酸硫酸酸化加里等なり灰分中ポッターアスに次ぎて貴重なるもの

葬商　鴻賓月
重陽　重九　陽九
九九　菊節
陽數節　落帽節
十月　孟冬　應鐘
陽月　吉月　良月
方冬　小春　始氷
初冬　新冬　早冬
上冬　楽正　玄冬
十一月　仲冬　黃鐘
暢月　陽復　氷壯
芸生　湖易　復月
窮月　冬半　新陽
亞歲　書雲命節至冬
十二月　季冬　太呂

は燐酸なれども其化合物は水の爲めに容易く溶解すべき性を備ふるにあらざれば効なきものと知るべし灰分中ポッターアスは炭酸及び硅酸ポッターアスとして存在せり前者は容易に溶解し後者は極めて遅緩なり抑も〳〵草木灰の肥料として貴ふべきは其含有せるポッターアス及び燐酸の多寡と其溶解の難易にありて其価値とする所は粉末にして容量大ならず且腐敗せざるを以て運搬するに便利なると其成分溶解し易くして又損失の患なきとにありとす

通常諸製造場に一旦使用したる爐火は可溶ポッターアス燐酸分を爐失すと雖ども猶三分の二以上のポッターアス燐酸を含有するを常とせる故に之を用ひて效ありとす

○草木灰の成分

草木灰の成分と地質風土及び生長の程度により差違ありと雖ども其概略を示せば左の如し

余月	秒月	洞年	御來示之趣拜承仕候農會に加盟可致旨縷々御勸め下され候處折角此中某氏よりも忠告を受け其後新聞等にても實効ある趣も承知仕候會致度の念止み難く候得共万事不慣にて如何にせば可然哉と存居候折柄御勸めに預り猶規則書御添へ下され一々拜承能く其手續も承知仕候に付早速申込度と奉存候就ては乍御迷惑紹介人は尊兄を煩はし度いづれ一両日中參上万々御願可申上候得共御回答旁序ながら御願申上置候拜酬
臘月	晩冬	暮冬	
殘冬	歲闌	歲晩	
猶陰	杪冬	歲暮	
歲終	歲季	歲晏	
除臘	究陰	殺節	
急景	窮律	窮稔	
窮紀	歲晩	年終	
殘臘	除日		
柳二人書個一	郇雲	朶雲	
敎字	翰墨	丞諭	
愛餉	示誨	示諭	
華札	翰牘	雲箋	
郇翰	奇翰	五雲	
朶翰	手諭	台翰	
尊翰	鞏翰	雲翰	
飛翰	琅玕	珍翰	
台誨	書誨	貽誨	
寵誨	翰誨	眞翰	
來敎	惠敎	賜敎	
台劄	敎劄	誨劄	
尺劄	惠劄	敎劄	
剡牘	敎牘	翰牘	
誨牘	牋牘	損牘	
貶翰	寶墨	讎翰	
敎墨	誨墨	芳墨	
芳札	誨字	手字	
惠字	墜翰	示字	
劄字	惠緘	誨緘	

◎催促の部

●小作米催促の文

以葉書申入候陳者今年の小作米去る何日限の期日に候處今日まて御送納無之如何之次第に候や斯く延引相成候ては將來の爲めにも宜しからず候間明日中には是非御皆納相成度此段申入候匆々

◎又

此中ハ使を以て小作米完納延期之旨御申越に付其意に任かせ置候處其後何等の事も無之更に御催促申上候得者或は人夫の都合とか又は雨天とかにて今日まで御送りも無之如何なされ候御考に候や去年とは違ひ一般に豊作の本年斯くも御延納相成候ては信を措くこと不相成第一貴所には不似合の事に候最早此餘の猶豫は致ましたく候條明後何日中には是非とも御完納相成度此段申入候也

◎穀物代金催促の文

前畧陳者先般御注文下され候晩稻何十石糯何

百分中	燐酸	加爾亞斯石灰	
松	二四〇	三、一〇	二五、三〇
松樹皮	二、八八	八二五	三、一三
猴	七三〇	一三、〇〇	四五、〇〇
山毛櫸	八、七〇	一二、五〇	三九、三〇
梓木	四、〇〇	八、七〇	三六、〇〇
楢	九六〇	二四、一〇	三七、四〇
柏	五、五〇	一〇、〇〇	一三、五〇
笹	一、七四	六、五五	二、二四
水稻、神	二四六	一〇、八八	三、一三
陸稻、神	一、二九	一〇、〇〇	三、六二
小麥、神	二一〇	七、三三	三、〇九
玉蜀黍	四四二	一九、三五	五、七六

○適用すべき地

石灰に富める灰は粘土に施して大に其効あれども剝篤亞斯に富めるものを施すも毫も益なきものとす鹽し粘土は剝篤亞斯に富めるを以てなり之れを以て之を輕砂土に施せば其效驗は大ひに著しとす其他草木土灰は多年の耕作により地方減退せし地及び炭酸は質物を含有せるの地に施せば効驗あり

○適用す可からざるの地

高熱を以て燃燒し得たる灰と不可溶解硅酸劍篤亞斯を多く生成するの恐れあり

○農業の部

●異名地理部

匙詩	雲絨	飛絨	
醫牧	詩帖	詩者	
詩章	詩劉	詩刈	
汗簡	詩示	教督	
詩翰	教帖	教章	
教係	教劍	鳥封	
教簡	戰墨	鯉素	
自稱二書劉一	滿劍		
柔訥	柔尺	氣促	
柔翰	紬翰	尺素	
尺書	尺椿	尺一	
尺紙	尺牘	摧牘	
手牘	手簡	手啓	
手蹟	麥稈	短記	
具訴	寸毫	絨牒	

石早速御送申上候處其後代金は去る何日迄との御申越に付相待候得共今日まで御回金無之甚だ差支候間此書着次第御回送下され度此段御依頼及び候匆々

桑桑苗送り方催促の文

至急申進候陳者去る何日付を以て注文致し置候魯桑苗三千本其後凡ろ二十日にも相成得候共未だ着荷致さず氣候も相後れ候樣相成甚だ氣促りに候間着し次第御發荷無之候はゝ即時御出荷相成度猶最早御積出しに候ハゞ何便にて何日發との事折返し御一報相成度此段態と御催促申候也

肥肥料催促の文

前略陳者先日何某氏を以て注文致し候〳〵猶今よ御送付無之候處最早季節に相成候に付氣促りよ堪へ兼候依此書着次第直に御送付下され度若し猶幾日も相後れ候樣之事に候得者其旨折返し御報知相煩し候匆々

農農具催促の文

前略過日御手代某殿當地へ御越の砌御頼み置候西洋鎌三十挺及びカヲヌキ五挺同氏歸着後直に御回送相成候約束にて手附金何圓御渡し置日々着荷相待候得共今日迄到着不致聊か不審を生じ候次第に御座候目下入用に付何卒此書着次第御回送相成候樣致度此段御催促に及び候匆々

貸貸米催促の文

以手紙中上候然ば先般御依頼に付御用達置候米何十俵來春にても宜敷樣に相考へ別段御返濟の期限も定め不申候處今年の新穀は殘らず

百分中	燐酸	剝篤亞斯石灰	
栃	二四〇	三、一〇	二五、三〇
松樹皮	二八八	八二五	三、一三
樅	七、三〇	一三、〇〇	四五、〇〇
山毛欅	八、七〇	一三、五〇	五九、三〇
梓木	四、〇〇	八七〇	三六、〇〇
楡	九、六〇	二四、一〇	三七、四〇
柏	五、五〇	一〇、〇〇	七三、五〇
笹	一、七四	六、五五	二、二四
水稻、稃	二四六	一〇、八八	三、一三
陸稻、稃	一、三九	一〇、〇〇	三、六三
小麥、稃	二、一〇	七、三三	三、〇九
玉蜀黍	四三	一九、三五	五、七六

○適用すべき地

石灰に富める灰は粘土に施して大に其効益あれども剝篤亞斯に富めるものを施すも毫も益なきものとす蓋し粘土は剝篤亞斯に富めるを以てなり之れを以て之を輕砂土に施せば其效驗は大ひに著しとす其他草木土灰は多年の耕作により地方減退せし地及び炭酸は質物を含有せるの地に施せば効驗あり

○適用す可からざるの地

高熱を以て燃燒し得たる灰と不可溶解硅酸劍篤亞斯を多く生成するの恐れあり

○農業の部

●異名地理部

肢誨	雲緘	飛緘	
警敕	誨帖	誨音	
誨章	誨劃	誨剝	
汗簡	誨示	敕旨	
誨諭	敕帖	敕章	
敕條	敕劃	鳥封	
敕勸	敕墨	鯉素	
自稱二書劉一	濕劃	北堂	
柔銷	柔尺	氣候	
柔翰	納翰	尺素	
尺書	尺格	尺一	
尺紙	尺牘	輻輳	
手牘	手諭	手啓	
手蹟	奏記	短記	
具說	寸楮	緘縢	

石早速御送申上候處其後代金は去る何日迄との御申越に付相待候得共今日まても御回金無之甚だ差支候間此書着次第御回送下され度此段御依賴及び候匆々

●桑苗送り方催促の文

至急申進候陳者去る何日付を以て注文致し置候魯桑苗三千本其後凡そ二十日にも相成得候共未だ着荷致さず氣候も相後れ候樣相成甚だ氣促りに候間若し求た御發荷無之候はゝ卽時御出荷相成度猶最早御積出しに候ハゞ何便にて何日發との事折返し御一報相成度此段態と御催促申候也

●肥料催促の文

前略陳者先日何某氏を以て注文致し候〆粕今ゟ御送付無之候處最早季節に相成候に付氣促りよ堪へ兼候條此書着次第直に御送付下され度若し猶幾日も相後れ候樣之事に候得者其旨折返し御報知相煩し候匆々

●農具催促の文

前略過日御手代某殿當地へ御越の砌御賴み置候西洋鍬三十挺及びカラスキ五挺同氏歸着後直に御回送相成候約束にて手附金何圓御渡し置日々着荷相待候得共今日迄到着不致聊か不審を生じ候次第に御座候目下入用に付何卒此書着次第御回送相成樣致度此段御催促に及び候匆々

●貸米催促の文

以手紙申上候然ば先般御依賴に付御用達置候米何十俵來春にても宜敷樣に相考へ別段御返濟の期限も定め不申候處今年の新穀は殘らず

有機物に富める新開地粘土質にして卑濕の地想ふに我邦の耕地は概してポッターアス燐酸に欠乏せるを以て之を用ゆれば盛し其利益すること大なるべし

○施用法平等に圃面に撒布すべし

若し深く犂むるときは不可溶躰にありて其効驗を見ざるべし前述せし如く灰は「アルカリ」性肥料なるを以て種子と混じて施せば其發芽を害すべし又葉上に撒施せば爲めに被害少なからず灰を施肥するに最も適せるの時季は春秋の二期にありとす灰は安母尼亞の如き揮發物を含有せざる故に之を地面に撒布し置くも決して損失するの患なしとす

○効驗經濟年限

炭酸ポッターアスの過半及び燐酸の岩干量は直ちに溶解し植物の營養を補け硅酸ポッターアス及び燐酸は緩徐に溶解して作物の營養を補く故に灰は永く其効驗を經續するものなり

莊所 別墅 別合
雪室 道者淨宇 資利僧
精藍 同 住室 廣廈
瓊樓 玉宇 維樓
高華 蘭房 椒室
夏屋 高閣 畫樓
自邪ニ居處ニ 蝸舍
矮屋 儀廬 蝸廬
廈樓 廈樓 私第
甍桷 蠅樞 破屋
窮閭 蓬蓽 荊扉
席門 蓬廬 阨巷
蜘館 陋巷 白屋
窮巷 蓬戸 桑樞
衡巷 蓬扉 蓬室

京都何某へ賣却致候事に相成忽ち差支候間餘り催促ケ間敷候得共右之段御推考成し下され一先御返戻下され度又々御入用の節は御用立可申候右御賴まで匆々已上

◉謝罪の部

◉小作米の延納を謝す

御菓書着正に拜見仕候陳者小作米上納方に付毎々御催促に預り何共恐悚の至に御座候實も此中來の雨天にて順と相乾き申さず爲めに斯く延引相成候得共漸く昨日拵らへ終り候に付明後日迄には悉皆上納可仕候右惡しからず御聞取被成下度不取敢御斷まで此如御座候餘は參上の上万々御詫可申候匆々

◉借米返濟延期を謝す

茅棟 茅舍 下舍
寒舍 氷舍 蓬陋
弊廬 井室 鄙門
柴門 衛門 山門
弊止 弊居 閭巷
主賓 酋長 草廬
山野 山澗 林下
茅庵 草舍
禁中 鳳闕 紫詔
紫泥 九重 金殿
紫陛 商朝 殿閣
紫宸 大掖 鳳宸
上苑 禁閫 內閣
御園 丹掖 禁裡
金闕 北闕 三槐

なからす灰を施肥するに最も適せるの時季は春秋の二期にありとす灰は安母尼亞の如き揮發物を含有せざる故に之を地面に撒布し置くも決して損失するの患なしとす

○効驗經濟年限

炭酸ポッターアスの過半及び燐酸の岩干量は直ちに溶解し植物の營養を補け硅酸ポッターアス及び燐酸は緩徐に溶解して作物の營養を補く故に灰は永く其効驗を經續するものなり

拜啓陳者曾て拜借仕候玄米十石早速御返納可申之處追々延引と相成御催促に迄預り申上方無之候實は過日來の降雨にて相乾き不申候と二つには病人有之取込み候とにて意外に延引致し何共恐縮仕候明日中には出來仕り候よ付らず御承知可被下候匆々順首

◉招待の部

◉雨降祝に人を招く文

拜啓去月よりの旱魃にて一時は御同樣に心ならず存じ居候處夜來の雨にて作物より我々共卻て蒼生の心地に御座候此容子なれば何の申分も無之事と大悅仕候就ては友人打寄り祝盞相傾け度候間午後六時頃より御來臨下され度

○最も遅せる農作物
何れの農作物に用ゆるも効験著しと雖ども就中蕪類煙草薬料植物及び馬鈴薯等に用ゆれば殊に其効験著し

○灰を混合肥に用ゆべき法
灰を混合肥中に加ふれば有機物の分解を促し大に揮發的植物營養分を損失すること能きものなれども泥炭の如き炭酸質の者と混合し灰を混灰中に加ふれば其灰の爲めに分解さるゝ揮發分（「アンモニヤ」の如き）泥炭の爲めに吸收されて發散損失するの患なきが故に之を兼用すれば好瓦の肥料を得べきなり通常は千斤の木炭を二「コード」（百二十八立尺）泥炭の中に混じたる肥料は殆んど用捨の農物肥料と等しき効驗あるものとす

○施用の量
灰と揮發或は排水濾過に依り損失するの患なき故多量に施すも害なきものなりと雖ども通常其最大量は一反に付

此段御案内まで如此に御座候匆々

◉全返事
御來示の如く久旱雨ふらざること月餘に亘り頗る痛心罷在候處昨夜よりの降雨中々千金どころに無之大慶之至に御座候就ては御祝宴御開きに付參會可仕旨御案内を蒙り万謝仕候命に隨ひ同時刻より參上可仕候右御返事まで匆々頓首

◉神事に人を招く文
欠敬ながら郵便を以て貴意を得候然らは明日よりハ當産土神の例祭に御座候處本年ハ近年に稀れなる豐作に付うの祝を兼て田舍角力も亦に芝居も興行仕候間何の風情も無之候得共御子達樣御同伴まて早天より御來臨下され度此段御案内申上候以上

薇省	薇園	紫園	北紫園
紫闥	北宮	禁門	禁門
帝宮	皇闕	聖朝	聖朝
丹宮	丹闕	龍池	龍池
蒼闕	禁庭	北翼	北翼
蓬壺省	蓬壺	屢園	屢園
瓊宮	丹城	九霞	九霞
禁城	青雲	九殿	九殿
碧殿	禁省	丹扆	丹扆
玉殿	鑒門	紫陌	紫陌
紫府	紫禁	紫極	紫極
蕤闕	帝闕	禁液	禁液
禁宸	北殿		
稱二人一鄉一里一	仙府	仙府	仙府
貴府	仙郷	貴郷	貴郷

◉全返事
御手紙之趣拜承仕候扨は明日は御氏神の御例祭ゟ付豐年祝を兼て色々の御催し有之御賑々しく有之候趣就ては御案内ゟ預り奉深謝候子供等へ申聞け候處今ゟ明日を遲しと相樂み居候いづれ早天より御邪魔仕るべく候右御請まて匆々敬答

◉内祝ゟ人を招く文
拜啓益御清風奉賀候扨先日の農產物共進會へ出陳いたし候生糸審査會ゟ於て圖らずも優等の列に加へられ實以て意外之事に存候依ては聊か心ばかりの内宴相開き度候間明何日午後第五時より御家内樣御同伴にて御來車下され度此段御案内申上候匆々

◉誘引の部

貴縣	仙縣	仙邑	
邦鄉	仙鄉	仙里	御
梓里	錦里	珂里	祭
自稱二鄉里一鄉州			
山州	鄉邦	鄉邑	供
山縣	弊鄉	寒鄉	居
瓦鄉	鮮里	下里	ま
賤里	鄉里	鄉閭	拜
墓地	墳墓	住地	
朽壞	幽室	幽房	出
玄室	玄塗	冥塗	聊
夜臺	斧屋	黄壌	
馬家	霊源	松園	度
玄廬	生壙逆修	壽藏	第
壽域	不毛田		

き七百斤より八百斤とす

○大豆肥料法

大豆は植物の主要成分なる窒素燐酸ポッタースを含有するものにして其之を輸類に施して効験あるも是れが爲めなり而して其百分中に含有する該成分の割合は左の如し

水分	一〇、〇〇〇
窒素	五、三四〇
燐酸	一、〇四〇
ポッタース	一、二六〇

又大豆肥料に關する某醫學士の說明あり附記して參考に供せん

大豆中の油分の如きは少しも肥料となるべき成分に非らず却て大豆の不熟分解を妨ぐるものなり然れども之を牛馬に與ふるときは能く體格を肥滿せしめ又體溫を保持するに大効あり其他大豆中の澱粉糖分の如きも略前同樣なう又大豆中の蛋白質無機質の如きは最も貴重なる肥料となる部分にして其一部は牛馬の爲め消化せられ尿として直に糞に經るも其余は

共進會縱覽誘引の文

拜啓此頃は八しく御面會不致候處益御清福入らせられ奉賀候扨某地に於て開會之共進會ハ珍奇の品も澤山に有之且一見有益少なからざる由に承り候得者明日早天より一覽致し度候貴意如何に候哉御手透にも御座候はゞ御同伴仕度右御誘ひまで早々

企返事

貴札拜見いたし候陳者某地に於て開かれ候共進會は前回とは餘程の差にて唯た珍品に驚しのみならずうの利益も夥しき趣に承り及び折角一遊致し度と存候際の御誘ひ幸に明日は何等の用向も御座なく候得者是非御同伴仕度勝手ながら路すがら御立寄下され度御依頼申上候先は貴答まで以上

白玉樓	長夜臺

○人倫部

奏者	掖者
中涓	先容
媒介	撰介
涓人	僕
行李	使介
便了	星使
蒼頭	長鬚
赤脚	僕隷
臂奴	來价
來使	邑隷
師	大教鞭
老大	先師
朋友	親朋
心友	死友
莫逆	淡交
同志	仁契
賢契	金蘭
忘年交	刎頸友
儲人	貳元
魁儲	魁元
儲相	鴨君
鴻儒	碩儒
大德望	大碩望
人父	舅公
嚴父	郎白
尊父	令府父
嚴君	老大人

試作場觀覽に誘ふ文

前略衆てより承及ひ候某地農事試作場は此程一大改良相成第一種苗等の數多くして美事なると第二各種栽培法何れも新規なるとは農事ゟ從事するもの、參考とならざるは無之由にて某氏よりも勸められ候得者明日は早天より一覽仕度存候御多忙は常の事に付一日御同伴仕度此段乍略義以書中得尊意候謹言

企返事

御來示拜誦仕候如貴諭某村試作場ハ日益しゟ改良を加へられ實に近縣中屈指のものに有之加ふるに某農學士日々出場にて質問者には丁寧に說明も有之且農具類の新規にして有效なるものも澤山有之由にて一度は觀覽致度しのと存居候折柄御誘引を蒙り万謝仕候必御同道

皆一度牛馬の体に入り筋肉等に變じ分解して尿に化し再び体外に出つるものなればなり其肥料たる性質に於ては毫も損失なし故に大豆の如きは直に之を肥料となすよりは寧ろ一度之を牛馬に與へ其体を肥滿せしめ其勞力を增大ならしめ而して后之を肥料分を牛馬の糞尿に化して施與と爲し用ゆるときと効驗却て著しき者なり

今其施用すべき比較分量は即ち左の如し

我父	家尊	家尊	
家嚴	膝下	家君	可申候右貴酬まで匆々
家大人	先君子	化後之稱	
人母	令尊	令堂	
令壺	萱堂	廳堂	
北堂	聖善	慈母	
賢母	令慈		
我母	慈母	家慈	
膝前	大人	膳人	
人子	國器	令子	
秀子	桂子	主器	
象賢	蘭玉	掌珠	
令胄	不凡子		
女子	愛玉	令秀	
閨秀	閨愛	令嬛	

可仕候就ては午前八時頃までに尊宅まで御伺可申候右貴酬まで匆々

◉注文の部

◉農具注文の文

貴工塲益御清昌奉賀候陳者左記の農具入用に候間御調製下され度御賴申候

一 草刈用鎌 二十挺
一 窓鍬 五 挺
一 草切 一 挺
一 鋤 二 挺

右は至急に入用候間御多忙中も計りかね候得共來五日までに御調ひ下され度同日態人差出可申候若し同日までに出來兼候はゝ其旨御一報下され度早々

石灰一斗に付きて大豆一升五合位の割合なり

○米泔汁の沈澱肥料 性分

此の沈澱物は酒造家に於て頗る多量に發遣するものにして其内にて上等の分は是れを人類又は牛馬の飼料に供すれども腐敗なり易きが故に概ね肥料と爲すこと多きものなり今此の沈澱粉を分析せしに左の結果を得たりと

但し此分析に供したるは米を研ぎて得たる所

人兄	元孝	令兄	
雖兄	令伯		
我兄	長公	長兄	
家兄	阿兄		
人弟	令弟	賢介	
淑弟	令仲	次公	
我弟	阿叔	阿弟	
阿仲	家弟		
人妻	令正	令壺	
內子	內相	令室	
我妻	內助	荊布	
舘甫	家荊	拙荊	
俚婦	賤妾	賤房	
婢家	荊房	中饋	
人妾	令可	令寵	

◉右返事

御手紙拜見仕候每々御引立を蒙り難有仕合に御座候此度御注文の農具は委細承知仕候得ども同日までには少々出來兼候樣存じ候に付精々取急ぎ出來次第持たせ差上申べく候右御請けまで早々

◉荷車注文の文

前略益御盛大之由奉賀候扨は昨年御拵らへ下され候通りの農用荷車至急入用に付直段は少々高價に相成候とも不苦候條成るべく丈夫にして新規御調製下され度此段御賴み申候也

◉全返事

昨日付之御葉書接手拜見仕候御申付の荷車丁度極堅固に拵らへ上候もの有之候間明日一應御覽に入れ候夫れとも新調致し然るべく候は

の細洗澱を混合したるものなり

米月汁洗澱（風乾したるもの）水分六、四三　有機物九一、一一　灰分二、五六

合計　一〇〇、〇〇

窒素三、〇八　之を安母尼亜に吸収すれば三、七五

灰分百分中燐酸三、八一　ポッターアス一、一六

戦多見品を分析して其平均を取るにあらざれば確然たる価格を算す可からずと雖とも假に右

我妾　小妾　側室
外舅　泗陽　宅相
姨夫　令外　舅他人始之稱
人婿　令婿　佳婿
舅客　門稍　令館婿
我婿　小婿　子婿
子婿ノ人ノ口　令似
令郎　令器　賢家婦
姑　伯姑　叔姑
令姑
○凶事部
死亡　崩天子　晏駕
殂落　外館　薨
以上諸侯　不祿大夫
卒二用ユ
終去士　僊化　歸泉

早速着手可致候右御請まで如此御座候以上

㊀鑞卵紙注文の文

拝啓時下益御清適之條奉賀候扨は兼て御頼申置候鑞卵紙隣家よりも依頼有之候に付都合三枚丈け至急御回送下され度就ては代價引當として別紙爲替券を以て差出候間過不足は御申越の上精勘致すべく候右御依頼まで如此御座候也

㊁全返事

貴書拝見仕候尊家益御清適奉賀候然ば鑞卵紙之儀仰せ下され猶代價御引當まで御送り相成正に落手仕候郵便等までは途中も案じられ候に付幸に來る何日頃は御地近方まで罷出候用向御座候得者其節持参可仕候間右に御承引下され度此段御答申置候匆々

の分析を正當と認め又其窒素は當て農學士農學士農化學士澤野淳氏が論じたる鮭粕は窒素と價ひとたる鮭粕は窒素と價値を同ふすると定むる時は其一貫目は二圓に當る而して沈澱物百分中に三〇八あるが故に其百斤即十六貫匁の中に「〇、四九二八貫匁を含有するなり之に二圓を乗する時は九十六錢五厘六毛となる故に此肥料を此價にて用ふることを得ば其功驗顯る速なるべきが故に惑くは不廉なりとなさいる

紀死　歸漢
招餉　凶饉　易簀
卵殼　合祖　挑棺
闔棺　蓋棺　倚廬
寢苫　苫塊　寢倚
香奠　賻奠　助葬
賻賄　賻贈　訃書
賓賄　訃音
弥奠　小祥　練祭　斬衰
小功
瓜葬　肥葬
○氣形部
鵠　黄鳥　楚雀
谷鳥　黄公　百喜
黄鸝　黄鳥　百舌

㊀種物注文の文

拝啓陳者此中の大坂新聞廣告にて拝承致候得者陸稲種弁に鳩麥種御頒賣相成候よし就ては稲種一斗麥種五升丈至急通運便を以て御送俵正に落手仕候郵便等までは途中も案じられ候に付幸に來る何日頃は御地近方まで罷出候用向御座候得者其節持参可仕候間右に御承引下され度此段御答申置候匆々

㊁米儀注文の文

前略然らば過日御送り下され候通りの米儀猶百五十俵入用に候條一両日中に御調製下され度尤も先日の分には少々粗製のもの有之候得者能々御注意下され度相願候右まで匆々

㊂檜苗注文の文

拝啓先日御目よ懸り候節御頼申置候檜苗最早期節にも相成候得者一雨次第植付度候に付御

べし又米糠窒素を含有すること其分析表に由れば百分中二二に過ぎざれば此の肥料は却て米線に優ると云はざるを得ず

○炭粉及び煤の肥料

或る米人の說に依れば元來煤中には炭素「アムモニア」「マグネシヤ」燐酸石炭等種々の元素を含有するものなれば之れに肥料塩を適分に混和して大豆、小豆、粟、稗、蕎、蔬菜、馬鈴薯等の肥料に用ゆれば滋育甚しく收穫も多し且つ

黃羽	錦衣公子	鷗	舞市
絹盤	倉庚	丹頂	玄鳥
仙客	照仙	鶴	鵠擧
丹便	翰仙	鵠仙	丹便
脚	杜宇	子規	田鵑
蜀魄	謝豹	催歸	都會
鬧雎	杜魂	蒼尾	流申
反舌	蜀鳥	帝魂	都會
蜀魂	子宇	不如歸	之候
鴛	蝶髮	雪客	候得
蜀王	釣翁	雪蛸	共御
雁	鞠翰	嘔鳴	目に
陽鳥	隨賓	金翅	御笑
雲侶	信鳥		納下

撰みの上千本丈至急御遣はし下され度代金御引換に相渡し可申候右御賴申度如此候也

●仝返事

御來示の檜苗之義委細拜承仕候目下千本丈相揃へ兼候得共明後日までに有合せ丈け御送り申すべく不足分は五七日御待下され度候右御都合も可有之と存候に付御請旁申上置候匆々

●謝禮の部

●手傳を受けたる禮狀

貴家益御清福奉賀候扨は本年は人少之爲め秋收に差閊候處每々御手傳成下され御蔭を以て早々片付き候事と相成全く貴家御助力の爲めと深く悅び居候就ては此品御禮と申候には無之候得共御目にかけ候御笑納下され候はゝ大

此等の蔬菜に限らず何種の田圃に用ゆるも亦効あり但樹木に施用する其割合を誤るときは却て枯萎せしむることありと又搾を用ひて魚類を貯ふるが如く炭粉を用ひて之を貯ふれば腥臭去て大に香味を增し且かも即日に漁獵したる生魚に異なることなしと云へり

○鹼肥料の用法

鹼の腐敗したるものは其成分種々にして同樣ならざれども要するに平均窒素百分の五と燐

鷗	舒鳥	水翁	魔仕候何れ其内參上萬々御禮可申候先は延引ながら御禮まで匆々拜白
王番司	鳥鴨司	鷁鳥	
鷄	司晨	啓關	
蜀雉	先曉	花冠	
綉頸	非羽	錦毛	
鸂鶒	狐顧	錦肥	
綉鞋	麗羽	朱翁	
燕	天女	玄燕	
玄鳥	社君	野乙	
鳥衣客	鳳乙		
蝶	粉叟	飛錢	
鳳車	鬼車	梅眠	
乎花翁	長須叟		
米花叟	粟副宗		
傅粉郎	陳楡夏		

●仝返事

唯今は御使下され御來書拜誦仕候益御万祥之段奉賀候扨御秋穗に際し折々御手傳申上候に付御厚謝を蒙り殊に何寄の品御惠投下され實は御邪魔仕候までの事なるに却て此の御心配をかけ候段恥入候事に御座候御返し申候は至當之事に候得ども右にては却て失禮と存じ其儘拜受仕候猶向後とも相應の御用向に御座候はゞ御申聞け下されたく相願候不乙

●種苗の分配を謝する文

拜啓扨は今春は鳩麥種御分配下され始めて試作仕候處思の外好出來にて此中刈取り御傳授の飴製造致し候に付御笑草までに差出候猶御

酸石灰百分の五とを令有すと想定して大なる誤りなしとす去れば是れ實に貴重の肥料たるを以て其買買の價格も自から高く看做に付七法乃至八法を下らざるなり唯油分の含量頗る順多にして其作用を妨げ十分の功驗を發する能はざらしむるは此の肥料の瑕瑾と謂ふべし故に之を使用せんには先づ其油分を除去するの工夫を爲さんことを要す而して此方法も數ある中に最も簡便にし

分苗の菊花目下見頃に付若し御閑暇も候はゞ一両日御遊覽下され度相願候右まで匆々頓首

◉全返事

貴墨拜見仕候陳者鳩麥御試作の處好出來の趣何寄の御義に奉存候就ては飴御手製に付御贈り下され忝仕合早速老人に頂戴致させ候處至極の御出來加減と悦居候菊花も最早六七分は開花致し候由拜觀なから一両日の中に參上其節万々御禮可申上候右御請まで匆々不乙

追て御入れ物は此儘拜借仕置候參上の節御返し可申候也

◉飯米を借りたる禮の文

以手紙申上候然らば過日は嗚呼ケ間しき御頼申上候處早速御聞濟下され御蔭を以て飯米の憂なく秋獲も相了り奉万謝候漸く昨日迄に捗らへ候に付爲持差出候御査收下され度候猶此物甚だ不出來に候得ども老人の手製に任せ御子達樣の御慰みまで差出候御笑納下され度候何れ其内參上御禮可申上候得ども不取敢以書中如此に御座候以上

◉全返事

尊札拜見仕候陳者先日は僅々の御飯米御用立申候處早速にも御返戻相成御信義感じ入候最早秋收も御片付け相成候由御安心之事と奉存候就ては結構なる御品御惠投下され御厚意之程万謝仕候何れ拜眉之上万々御禮可申述候先は貴答まで匆々不次

◉照會の部

◉肥料の有無を問合す文

て農人の爲め容易に實行せられ得べきは其餾を煮沸せしめ然して後滴々水分を去りて日光か或は爐火に依り之を乾すこと是れなり

○裏肥の得失

裏中に肥料を施すことは往々我邦農家の舊慣となり來りて其功驗多きものと信ずるものあれども是れ其心得違なり凡そ植物は秋の末落葉してより春に至り新葉を發する迄之殆んど其生長を止めて睡眠狀にあるものなれば肥料

蠶	白額	玉額	赤驥
	蠶蛾	華胎	綠耳
	大宛	撒蹄	銀蹄
	往蹄	輪蹄	錦蹄
	雷奔	天騏	寬鞍
	雷足	霜蹄	雷蹄
	的盧	踠蹄	轡竝
	奪蹄	八駿	疾驅
牛	夜星	曉中	同
	就頭	夜光	明力
	穀觫	大牢	大武
猫	摧牽	臆牲	龍頭
	鳥員	家貫	五百
	花奴	鳥猿	白老

蠶	絲花鬼	玉飛錢	
蛛	蛛絲	莎雞	星角
	絡緯	促織	燕尾
蟬	吸露	送秋	黎青
	風淦	逸秋	蛻雪
	蝦風	蛁蟟	翟豹
螢	丹鳥	宵燭	暉夜
	卽照	煙微	熠耀
	微明	流火	
馬	天駒	汗血	騄駬
	逐日	逐天	
	追風	翻羽	奔霄
	超影	踰輝	天蹄

を要するの謂れなし又縦令常緑樹と雖とも冬間其生長を止むることは落葉に異なることなし彼の動物にても蛇又は蛙の如きものは冬間土中に蟄居して睡眠狀を爲し少しも食物を資らざるに同じ然るに之を悟らずして好滋料を無用の時に施して空しく之を棄つると同じきことを得すは智者の事に非ず然れども菓樹類を冬間凍霜の害を防ぐ爲めに藁又は枯草の類にて根元を擁蔽する等

犬　美猷　宋猩　韓猫　黄耳　青鵑　鳥啄　鳥觜　欒狐　兎　明視　欸唇　明秋　月精　朴滬　明視

○草木部

梅　和美　氷肌　逸民　傚霜　氷雪　玉骨　氷花　孤山　綴花　傚雪　額英　清女　雪魂　玉肌　玉魂　横斜　疎影　氷姿　玉藥　石肌　風蓼

拝啓尊店彌御清適奉賀候扨小生義今年は試みに某の物植付け度候處うの肥料にハ油粕又は鯡〆粕よろしとの事に候然るに當地方には何れも持合候もの無之就ては尊店に御賣捌相成候はゞ右何程づゝ御送付相願度代金共御一報下され度此段御照會候匆々

◉全返事

御來翰拝展仕候毎々御用向仰せ下され難有奉存候扨此度御申越下され候糟類は多分に有之候に付早速荷造の上御送り可申候代價は當今少々人氣宜敷候得共賣所樣へは別段相働き何程の割を以て差出可申候右御答まで如此御座候匆々

◉賣田有無を問合す文

益御清風奉賀候陳は小生此度某の地所覽却致候に付ては更に御地邊に於て四五反相求め度候處賣田の御心當り共は無御座候哉若し御聞及にも候はゞ其代價等御問合せ至急に御一報下され度右御依頼まで如此御座候匆々拝首

◉全返事

御手紙拝見仕候尊台彌御清適之條奉賀候陳者當地方に於て田地御買入相成度趣を以て御申聞け之段委細拝承仕候然るに貴下にも御承知の某氏の田地凡う何反歩程の處先頃より買主さへ有之候はゞ賣拂度旨申居候依て内々代價問合候處先以一反何程位とは申居候得共多少は直段の相談も相成るべく存候御閑暇の節實地一應御覽成され候ては如何哉其上にて代價の處は小生より照會致し候ても宜敷候尤本月中には可成賣拂度哉に申居候とや聞及候得者

香藹　裏郷　氷魂　花儒者　姑射神人　牡丹　牡氏　花王　天香　絳紅　姚黄　魏紫　馬紅　鼠姑　鹿悲　老紫　蜀錦　客紫　綺羅　貴客　鹿非　夜白　午碧　十三紅　一念紅　醒酒花　鶴頂紅　酔妃紅　鳳州紅　鹿胎紅　紅二六　百両金　菜紫　李　俗李　明李　沉朱實　來禽

誤謬にわらざれども過酷たり桑樹諸草木の如き春暖に際し一時に發葉茂生する植物は當初より養料の地中に備具布滿するを要するが故に豫て寒肥を施し置くは安全の處置なり土地には吸收力とて植物の榮養に緊要なる養分は之を吸收保存するの性を有し砂礫の地か滯水の地にわらざれば濫りに損失することなし殊に冬季は寒冷にして一般の變化擧動も緩慢なれば損失は急々少し効

榴	紅英	紅子路	
丹葩	絳藥	朱實	
花林	玉房	鮮丹	
明朱	玉闕	紫粒	
猩血	丹若		
桃	銷恨	洞中仙	
仙菓	玉液	引客	
招客	仙景蟠蟠木		
武陵花	陌上花		
一照花	阿陽花		
驅瘟花	玄都英		
菊	黃花	隱君子	
隱逸	秋香	紫穗	
草黃	金英	南陽	
醫縣	晩英	鳳標	

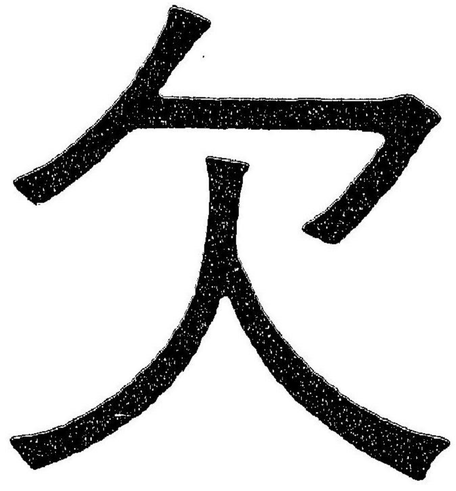
其邊御含みなされ度候右は要答まで如此御座候拜首

●田地買人の有無を問合す文

其後は御無音に打過ぎ候處彌御多祥之條奉万壽候扨兼て御承知の通某の地所は年々旱害を蒙り殊に稍々隔りたる地にて何かに不便少なからず候に付此度賣却致し度と存候處御地邊に好買人は無之候哉御手先煩き尊兄の事に候得者御心當り候はゞ御申越下され度此段御意を得候匆々頓首

●仝返事

是より社御無音打過き不相濟事に御座候時下愈御清安奉賀候陳は御所有の當村内地所此度御賣拂にも可相成哉にて御申越の趣逐一敬承仕候幸に某氏より彙談之義有之候に付早速申



MISSING

右に振り分くるの法なり

丁　風選法

風選とは唐扇鍬或は箕を用ひて其輕重なるを吹き去りて重量なるものを種子とするの法なり唐扇鍬を用ゐるときは烈しく廻轉し風力を充分に強しく用ゆべし此法善なりと雖ども風力を用ひ飛はざるとに依りて其充實を定むるには水力を用ひ吹と不吹とにて撰ぶの確定なるに若かざるなり

異名飲食部

芋

東陵	邵平	大斑	
蜜筒	黄園	氷霜	
冷氷	青門	霜鍋	
甘露	甘霜	小青	
龍肝	青淳	龍白	
芋魁	土卵	蹲鴟	
黄獨	根來	に	
土來	黄精	赭魁	
懶殘	鴟蹲	芋栗	

柿

烏林	七絕	圓	
花仙	名友	其	

筍

錦繡	玉版	種	
蝸根	臥龍	に	
雲孫	玉伊	於	
竹胎	竹筍	て	
玉牙	龍鬚	猫頭	

次は種類の撰擇にて是は資産の多少に關し候得共洋種を最初より養ひ候よりは雜種を作り出し漸次改良致し候を可然と存じ候又販路の点は最も就意すべき事にて之を食牛に供するは却て利益少なく一方には乳を搾り一方にはミルクを製造する方可然と存候尤も是は自家にて製するよりは他人に賣付け候方可然乎と存候一例を御斷し申さんが爲めに小生所有の牛二頭に就て損益の一班申上候洋種一頭二百圓の者に係る一年間の所得は七十五六圓にて其爲めに費すものは二十三圓程に有之候日本種一頭二十五圓のものに對しては所得十三圓にして費す所八九圓と相成候而して一年間に於ける全体の損益を算せば元資金千圓に對して百七八十圓の利益と相考候右の計算より申

戌　水撰法

第一　種籾三升乃至五升袋に入れ預じめ水を充分に浸み置きたる桶に漬し攪拌して籾の浮動するとき急に袋を水中に沈めしむ然して袋を前に引き取るべし斯くすれば其浮動するものは袋外に流出すべし此法を日々數回行ひて三日乃至五日の後に至りて止む但し水は寒冷なるものを用ゆべし水冷かなれば其比重從て大なればなり故に水溫は寒中或は多閒に行ふを好しとす暖に寒中は年中の最も淸潔なる季節にして微菌及び腐敗氣等を水中に混ずることなし

第二　大盥或は大桶等の如きものを園中に置き冷水を以て大桶の六分目程を充し攪拌して度々浮動する籾を取り去り底に沈みたる籾を筵に擧けて水を切り乾燥せしむべし大抵籾之寒中にて三四日間日光に晒さば充分に乾燥するものなり

第三　急流ならざる水

栗　燕麥　薏苡　朱槿　牛勃　決骨　耳勃　刺紅　野客　柴市　猩血　無刀花　架頭綿　紅牛則　斷腸英　茄　北斑　銀茄　紫膨脖　紫崑崙　酒　青州　督郵　猷伯　碧香　雪泉　竹光　竹葉　紅面　臙脂　浮蛆　春蟻　碧友　紅螘　鵝黃　下若　斗酒　紫霞　夜黃　宜春

候時は大利なるが如くも候得共時々病牛の發することも有之平均せば幾割を減し可申候此他は某氏の實驗談を筆記致したるものに候得者御參考にも差出申候御緩覽下さるべく候右は万縷致すべく候併し兎角にも目下の好事業に候得者御開業の程切に御勸め申上候猶此書籍御閱覽の上御無沙汰仕候秋冷日に相催し候處益御農産物いづれも申分無之此餘蟲害と風害と無

◉報知の部

◉農況を報する文

其後は御無沙汰仕候秋冷日に相催し候處益御淸適奉賀候次に小生無事送光罷在候間御休神可被下候扨は本年は春來氣候本順にて各種の

◉報知の部

◉水害を報ずる文

拜呈時下益御淸榮之由奉賀候陳者去る何日より連日の降雨にて川々滿水致し作物等も餘程の損害と存ぜられ痛憂罷在候處昨夜半頃某の堤防壞決いたし某地に至るまで一帶の田畑は忽ち一面の湖水と變じ半熟の稻田も盡く流

鷓春　香泉　淵賢　松醪　若村　荷屠　嫣碧　温淸　桑落　麴生　濁醪　黃醅　蒸雲　眞一　舜泉　紅友　黃封　魯溥　香馬　瑞雀　掃愁　酌杳　郎官　淸重　聖徒　事酵　宜釀　紅霞　香掛　白玉　從事　魯雲　聖淸　醉侯　紅壚　既醉　金醅　村酒　黃嬌　臙醅　朋樽　酉水　酌鳥　杳村　喜會

の底に繩を引き苅久は繩れにて其下流に堰を止め水勢を弱め適切の深さと爲し水面に向て徐々籾種を振り落すときは其熟未熟輕重に從ひ流るゝこと或は一尺或は二尺にて沈む其上流に沈むものを以て種子となすべし

己　食鹽水撰法

鹽水を以て精撰するには先つ之に水に潤し浮びたるものを取り去り然る後水一斗に付き食鹽一貫二百目を混じ且つ溶解するを待て種子を入れ能く攪拌して浮べる者を除き沈みたるものを采に移して滴下せしめ直ちに清水にて數回洗滌すべし鹽水は再び用ゐるを得べしと雖ども其度毎に少許の鹽を加ふるを好しとす斯くせば少許の鹽にて善き多量の種子を撰ぶことを得るなり鹽水の調度ゝ新鮮なる玉子を其中に浸し底面少許を水面に露出する位を好しとす或は飯粒を二三すの高き處より落し一度沈みて再び浮び出づ

雲液　岩岸　著岸
魯味　菊水　沙嬉
茶
雲芽　龍團　鳳團
玄璧　金芽　緑花
官焙　北焙
龍眼　春霞
雲脚　鷹爪
團月　佳茗　龍字
銀葉　茗花　鳥觜
露芽　白芝　紫荷
瑞草　雪壁
密雲龍　紫林腴
○器財部
香
海木　柏子
鶏舌　鶏骨　兜羅

亡致したる慘狀實に目も當てられざる次第に御座候幸に小生宅は少々高地なる故に浸水の難は免れ候得共作物の被害は未だ豫算し能はず候御地の景況如何に候や土地柄隨分被害も多かるべくと懸念に耐へず御噂のみ致居候右御報知旁御様子御伺まで如此御座候匆々不一

◎風災を報ずる文

以郵便申上候然らば昨日午後五時頃より天候俄に相變じ夜に入りては風力次第に強く相成十時頃よりは東北の暴風と相成樹木を抜き家屋を發ばき實に物凄まじき勢にて掘家の如きも屏は倒され菊棚は壓倒せられ殊に長屋の如きも四壁共に落ち内に居られず外にも出られず五十年來知らざるの風勢にて一睡もせず

家字　水沉　穏沉
鳴屏　楓字　燒柏
返魂　螺甲　薫陸
黒沉　百和　龍涎
鶏舌　牛糞　一字
燕尾　南波　比沉
心字　九面　返主
龍腦　蹏馬　梵馬
楚字　統兒　一炷
黄雲　外芽　通新
浮沉　倫閒　銀葉
薫柏　鳴鳩斑
崑崙耳　解脱耳
畢力迦　百練迦
畔那迦　蓬萊迦

曉に徹し候作物等も實に憐れなる事にて蕎麥は勿論皆無うの他何一つとして存ずるものは無之被害の高計り難く候御地邊は如何に共御座候哉御容子相伺度不取敢御報知兼ね御尋ね申上候頓首

工業門

◎慶賀の部

◉賞牌を受けたる人を祝ずる文

一翰敬呈仕候春暖の候益御清風奉賀候陳者新聞上にて承り候得者今回の美術展覽會に御出品相成候百花百草欅木細工は至極の精巧にして審査會にても非常の高評に有之妙技一等賞牌御拝受相成候由恐悦の至奉存候貴下の欅木細工は夙よ万國の博覽會に於て世評を博せら

るを度とするなり

庚　苦塩水撰法

水撰法を行ひたる種籾は適切に溶解したる處の苦塩水に投じ最重量なるものを選ぶの法なり苦塩一「リットル」の坪量は一、二三〇乃至一、二七〇「グラム」なり終るに最も能く成熟したる籾は比重一、一四三前後なれば之を苦塩水に投ずるときは悉く浮出するものなり故に適宜に水を加へ籾種の半分上浮出するを調度として用ゆべし籾一斗を精撰するに二升を要す乃ち四五回にて撰び終るなり大概三升を要す乃ち四五回にて撰び終るなり後は可成丈撹氣を除し少しも含まざる樣注意すべし撹氣は發芽力を害するを以てなり

○苗代の土地撰定

第一　苗代となすべき土地は捕鼈田に比すれば稍肥沃ならざる者を以てすべし如何となれば肥地に生育せる稻苗をして痩田に移し植ゆるときは稻の生長宜しからず收穫從て少く且つ諸種の災害に罹り易

香爐　博山　金鴨
鷄尾　睡鴨　宝鴨
金鳥　金博　銀獅
睡鳥　宝薫　古銭
石榴　金麗　鐵酸
鐘拍　紅爐　螺甲
柏山　玉鴨
孟　太白　鷺鷥盞
舩船　琥珀　玉斗
蕉葉　虎斑
硯　端渓　紫石　紫澤
童池　文房　墨儲
石蟾　研鵝　碧池
金管　池銀　玉他

れ候得共今回の如く特殊の賞揚を得られ候ものは貴下御一身の御名譽のみならず我國美術進歩の証票とも可相成と只管欣喜の至に御座候依て甚だ粗末の品に候得共聊賀儀の印まで献呈仕候御笑納可被下候先ず御祝詞申上度如此御座候匆々以上

●全返事

粲雲拝展仕候時下春色日に増し候處益御機嫌よく奉賀候扨過般の美術展覽會へ出品仕候もの如何なる事にや非常の賞讃を蒙り殊に妙技賞を賜り候段名譽此上なく坐ろに慶喜罷在候迚も斯かる高評を得候技倆は無之候得共眞の一時の仕合と奉存候就ては御祝辞を賜はり且つ御厚祝に接し何共恐縮の外無之候何れ拝鳳を得て万謝可仕候右は御請まで早々頓首

銅石　尾渕　魯石
鳩眼　厩咏　墨洞
龍尾　戸庭　墨淵
精石　陳玄　龍壁
鼠鬚　管城
猩毛　顋兎
文毛　錐毛
脫顋　顋紫
尖頭　霜毫　露錐
健兎　兎毫　毛頴
秋兎　染翰　紫毫
嘉竹　鼠鬚　蝿毛
兎毫　奴素　銛鋒
墨　玄香
玄雲　栃脚
溜池　蛾緣

寸翰拝呈仕候時下益御清福之條奉賀候扨承り候得者此度電機工場御新築相成既に落成之由永年御實驗の妙技一層花を添へ候事と奉存候第一土地の宜しきといひ市中雜沓の境を脫し候得者將來は日増に御盛大之事と奉存候就ては甚だ輕微之至に御座候得共鯉魚三尾聊賀儀の印までに進呈仕候御笑納下され候はゞ大慶之至に御座候右御祝詞まで早々以上

●工場新築を賀する文

●全返事

貴墨忝く拝見仕候尊家益御多福奉賀候陳者小生義多年の宿願を以て漸く工場新築仕候に付ては早速にも御祝辞を賜はり殊に美事の御肴御惠投下され奉深謝候漸く機械の据付を卒り候得者明日ハ心許りの開業式と落成祝とを兼

く例へば二等田に仕立てたる苗を一等田に移すが如きを云ふ

第二　苗代は乾田を好しとす乾田なき地方にて之成るべく淺田を撰ぶべし深田を以て苗代と爲すときは

一　播種後泥の動搖するが爲めに種子を泥中に埋沒し或は一處に集合す特に充分なる甲芽を發せざる種子を移すときは悶々腐敗することあり

二　苗長細柔軟にして風雨ならず且つ其生長

墨松　寶墨　松心
龍香　墨龍　青松
孃松　群煤　松煤
玄泉　松花　光煤
電煤　松煙　油龍
泥陳　玄芝　加皮
烏丸　烟氷　玄霜
紙　鰾紙　楮先生
方濃　藤皮　竹帛
藤角　溪藤　玉板
白厩　黄厩　魚紙
楮葉　楮兒　霜楮
紫雲　潔縹　縹紈
玉飯　金花　飛蒜
飛尺　竹夫人

て小宴相開度候間何卒万障御繰合の上正午より御來車下され度折角御案内申上度折柄の御使に付畧儀ながら御禮旁御案内申上候万事は其節拜鳳御禮可申述候匆々拜酬

◉工學校卒業を賀する文

薄暑之時節に御座候處愈御健勝奉賀候然者多年工學校に於て御修業中之處先般の卒業試驗にて御及第遊ばされ既に御歸鄉相成候趣全く御勉學の結果と慶賀之至に奉存候これよりは積年の御研究なされ候藝術を以て實地に施され候はゞ社會全般の爲めに非常の利益を與へられ候事と奉賀候就ては粗酒野肴唧か御歡まてに差上候御笑置被下候ハゞ本懷之至に御座候頃首

◉仝返事

世ゞ連にして延び過ぎ等の恐れあり故に移植の際折れ損じ易く移植の後ち倒損し易し

三　苗勢薄弱にして外患に堪ゆる力少なし

第三　苗代と南向にして能く日光を受け西北に森林等ありて寒風吹き通せず且つ虫害雜草等の患少なく水の滋潅自在にして水患の難を免るゝの場所を好しとす

第四　苗代は必らず年々北處を交換すべく種年同一の地に苗代を設

寸皮　鑓　楮夫人
華鯨　金盞　奉賀
鬧鯨　霜孔　鯨痛　波
春客　寸莖　御
雪雀　雉尾　無
九華　白羽　輕紈　寒
白崎　輕捷　便面　白團　上
團翼　比翼　輕羅　る
卿賤　氷紈　清伯
鶺翅　鷺尾　蜂蔵
回風　招涼　輕蹂
素紈　紈素　團霜　漸
白崎　代筒　團于　閑
鷺頭　紫斑　紫珍　へ
鏡　散文　白綺　難

貴東添拜謝仕候如命薄暑を催し候處益御清凞奉賀候陳者小生義此度工學校卒業仕候に付早速御賀詞を蒙り殊に過分の贊辭及び美事の品御惠贈を賜り深謝仕候迚も世益を開き候腕前無之候得共諸君の御愛顧を請ひ不日實業に從事仕度奉存候いづれ其内拜眉を得て御禮可申上候尚御清閑の節も候はゞ御來遊下され度積る御話も仕度候早々拜復

◉贈遺の部

◉自製の器物を贈る文

漸く秋色を催し候處益御安泰奉賀候陳者此中閑暇の餘りに玩弄物樣のもの手慰み迄に拵へ候間二三個持たせ差出候御笑納被下候はゞ難有奉存候此使用法は第一机の代り第二置棚

くるときは稲田苗の生育に必用なる特種の肥料を失ふを以て苗の生育宜しからず之に反して年々苗田を取り換る時は苗勢盛にして根も亦多く移植の后ち若生早く從て生成盛にして雑草も繁茂すること能はず虫も亦其害を逞ふするを得ず

第五　苗代は河の邊りに設く可らず盖し洪水の爲めに苗を流さるゝことあるを以てなり殊に大河の水を急に苗代に懸くるは悪し苗代は山麓に設くべからず鳥獣の害を設るを以てなり又路傍に設くべからず牛馬苗を荒し或は道路の悪水秋田に流入し苗の延び過くるの患あり

第六　苗代としたる田は其吸收されたる肥料分を適宜に補ふべき肥料を施すにあらざれば再たび稲田とするべからず肥料は青草木灰厩肥等を適するものとす

○米麥の乾燥法

農家に於て稲の刈入れ並びに乾燥のことは最

轡泉	響堰	孫桐	
素桐	雲和	四泉	
桐系	焦尾	清客	
別號	鳳眼	綠綺	
離騷			
杖			
短杖	扶老	龍蒜	
枝盤	面杖	木蛇	
瘦影	古策	虎策	
黒麟脚	赤骨律		
黒面翁			
弓			
紫朔	烏號	烏角	
黄閒	黄河		
兒			
竹奴	青奴		
烏皮	青玉案		

謹啓益御清福奉賀候然者兼てより御愛護下され候工場御蔭を以て愈竣工仕候に付明日は卿か開業式の小宴を催し度就ては何卒差出候品は無御座候得共午後三時より御來車下され度右案内まで如此御座候匆々以上

◎受賀の件に付人を招く文

近來御目にかゝらず候處彌御清榮之條奉賀候陳者某小學校新築工事受賀之義に付是非共御面談申度義御座候に付御多忙恐縮仕候得共御繰合を以て直に御來車下され度此段御意を得候拜具

◎工場の棟上に人を招く文

一書拜呈仕候陳者兼て新築中の工場漸く本日を以て棟上式を施行候樣相成仝く御配意下され候御蔭に有之深く奉謝候就ては小宴相設け

響影	百線	錦花	
古瓷	蠶光	青銅	
摩鏡	紅鏡	碧銅	
笛			
青葉	龜骨	卿軋	
過雲	柯亭	胡笳	
阿暉	鷙雉	翠屋	
鳳膺	鳴鳳		
鍵			
清峽	賓輪	家玉	
青兕	奧銅	阿楮	
家兄	孔方	足伯	
兩邊	金文	天祿	
琴			
白洪崖	白紅崖		
桐孫	桐君		

若し一旦世間に出で候時は餘程の名譽と奉存候命名の義は迚も小生等の思ひ及ばざる所に候得ども三德臺とか又は三益機とか名付け候ては如何也御一笑下さるべく候右は御禮まで此の如くに御座候拜復

◎招待の部

◎工場開業式に人を招く文

の代り第三行李の代りと致すべく積りに御座候何と名を命じて可然哉御考へ下され度奉願候匆々頓首

◎仝返事

如來示秋色日に加り候處彌御清穆之條奉賀候拙御手製の品とて結構緻密なる器物御惠投され奉刀謝候中々美事に且つ巧みに御出來相成若し一旦世間に出で候時は餘程の名譽と奉存候命名の義は迚も小生等の思ひ及ばざる所に候得ども三德臺とか又は三益機とか名付け候ては如何也御一笑下さるべく候右は御禮まで此の如くに御座候拜復

◎招待の部

◎工場開業式に人を招く文

も注意すべきことにして稻の苅り取りを急ぎ稻の掛け干し長きに失するときは爲めに米質を粗惡にすることは疑もなき事實なり今左に米麥の乾燥法を掲げて實業者の參考に供す

一米の乾燥法

一秋米となす法　稻を苅り取りて後稻架に掛け置くこと五日乃至七日（尤も天氣の都合によりて仲縮すべし）にして之を扱き落し莚に廣ろげ三日間干して直ちに脫皮すべし

一年を越へて春米となす法　晴に干すこと三日間にして俵に入れ之を貯藏し翌春取り出して日光に晒すこと一日にして之を箱に入れ置くこと三日にして脫皮すべし

一年を越へて夏米となす法　前年收納して貯藏すること前の如くなし翌夏取り出して日光に晒らす（尤も炎天なり）こと三時間にして箱に入れ置くこと三日にして脫皮すべし

一麥の乾燥法

屏　摺屏　雲母屏　傘鵝屏　虹霓屏

枕　圓木　色綾木　虎魄　燒燐　龜文　六安　臥猿

碁　碧石　支鵞　支那　鵞卵　商山　圍碁　其石　飛雹　飛玉　白圍　黑綾　覆碁

劍　骨刀　龍泉　七星　古鋼　風朝　青霜　七首　莫耶　青萍　干將　莫雪　湛盧

船　五櫂　龍膾　浮它　一葉　文鷁　游家　水馬　海鵝　龍頭　鷁首　一葦　三翼　畫鷁　軋鴈　蔵帆　浮鷁

階　仙餌　香餉　玉樒　白粲　夏登　角黍　豆乳　腐皮　麸筋

露卯　純鯤　純鉤　魚腸　氷又　鼇魚　吹毛　龍淵　氷凝　赤霄　毫曹　莫干　五纏　一棄

度候間何等の設けも無之候へども午後五時頃より御來車下され度此段御案內まで此の如くに候早々

㊀仝返事

態々との御手紙忝く拜見仕候陳者御新築中之工場も最早棟上げとまで相成候由奉恐賀候就ては御招きに預り深謝仕候命も隨ひ時刻より參上仕るべく候右は貴答まで書外拜扇に讓り候頓首

㊁依頼の部

㊀工事を依頼する文

拜啓益御淸適奉賀候扨此度某高等學校新築工事小生へ落札に相成候處竣工期限一百日に有之然るに御承知之通某會社倉庫新營に着手中にて是れ亦期限に迫り居り至急手明きに相成候はゞ御兼當惑仕候尊下にも近來非常に御多忙の趣よ承知仕候得共御都合に依り御手傳下され間敷や乍畧義以書中願試み候早不乙

㊀仝返事

御來示之趣拜承仕候然らば某棱新築工事御落札に付小子へ御手傳可申旨仰せ下され候處今十日計りは手放し兼候得共其後にてなれば御手傳可致候猶御都合に依りては目下着手の工事に雇入居候工夫十數名有之候間是も召し連れ可申候いづれ御面談可致候得共不取敢御答まで此如御座候早々拜復

㊀廣告分配依頼の文

拜白尊店益御淸適之條奉賀候然らば拙生今般時計製造業相開き獨逸より歸り來り候某なる

一小麥乾燥法　刈り取りて后ち其儘圃場に放置し翌日小屋の內に運搬し來り僕手一杯位に束ね穗先き丈け太陽に面する樣十文字に駢べ「アユズリ」臺にて打ち落し其打ち落したる麥を莚上に擴げ干すこと一日にして俵に入れる統れども天氣の都合に依り二日間干燥せしものもわりたり

一裸麥乾燥法　刈り取り圃にして直ちに小屋の內に運搬し麥扱にて穗先き丈け扱き取りたる儘を一日干にして直に「ブリゴ」にて打ち落す

一大麥乾燥法　裸麥の法に同じ

右の如き方法を以て乾燥せば大に從來の方法に勝る所あるべし尙は農家に於て益々乾燥の改良に從事せば米麥共に味美にして光澤を有したる善良なるものを生ずべし

栽培

○大根を作る良法

大根には餘り肥料を施こさゞるを宜ろしとす

金諺集

◉商法ノ部

○商法ハ親戚ト朋友ノ如シ

○一斤ノ商業ハ一斤ノ黃金

○商賣人ニシテ資金ナキハ猶弓アッテ矢ナキガ如シ

○商ハ猶智識ノ戰場ノゴトシ

○金ハ商賣ノ車ニアラズ唯車ヲシテ轉ジ易カラシムル油ナリ

○業ニ高卑ナシ世ハ分業ニ由テ立ツモノナリ

○誰レカ汝ノ敵ゾ汝ノ同業者ナリ

○商ハ弘通ヲ貴ビ業ハ博識ヲ貴ブ

○品物ニ惡評ヲ下ス人ハ將ニ之ヲ買ハントスルノ人ナリ

○損ノ大ナラザルモノハ益モ亦小ナリ

○高ク賣ルニ欺クベカラズ

○信ヲ人ニ取レバ財之當に貯藏仕候殊に目下諸方よりの注文も相重り居候得者一日も早く熟練のもの雇入度に付少々給料は高くとも差支無之候間御周旋に預り度此段以書中御賴申上候拜具

◉照會の部

◉誂品の寸法を問合す文

拜啓陳者昨日は態々御來車下され候處混雜の折柄失敬のみ仕奉刀謝候其節御命じ相成候檀架の寸尺は何程の高さに致し可然哉伺ひ洩し候に付乍略義以書中御伺申上候開き戸は山べきや併せて御示し下され度此段得御意候匆々拜白

◉全返事

其法は先づ播種其前度々耕し糞尿を施し且つ柴草及び木灰に米糠又は種子糟等を混和して始終の肥料を一時になし播種するを宜しとす何となれば播種の後ち度々糞尿を絶せば必らず虫の憂あるを以てなり此の如くせば生長速にして味も亦宜きなり

○慈姑の栽培法

慈姑は池、沼、溝又は水田等にて水及び泥の甚だ深からざる處を撰み先づ妨碍となるべきものを除き精細に耕し肥養を耙錯て植ゆるときは意外に繁茂するものなり即ち陰暦十月中に新根の小球の疵なきものを擇み一畝の水田に肥土一荷及び尿水廐肥等を能く耙錯て厥膨したる泥中に植え込み翌年三月中より四月頃芽の顯ぶる延びたるを右の植地に稍苗を植ゆる如く一坪に三十六株づゝ植え込み他の雜草を除き懇ろに培養するときは三伏の炎夏を經る間に其根顯ぶる肥大になり九月十日に至ると

ノ足ラザル丁無シ

○貨幣ヲ以テ得ルハ貨幣ヲ用ユルノ主意ニアラズ

○主人ハ一家ノ摸範ナリ予能ク儉ナレバ衆何ゾ敢テ惰ラン予能ク勤ムレバ衆何ゾ敢テ懶ラン

○屡々小利ヲ得ルハ稀ニ大利ヲ得ルヨリモヨシ

○腹ハ能ク頭ヲ制御ス

○店先キノ不潔ナル

昨日は御繁忙中長坐仕御妨致し候扨はうの御頼申候書架の寸法其他に付態々御尋下され委細承知致し候高は二尺八寸幅は二尺二寸に御仕上げ下され度又開き戸の彫り物は別紙圖様を縮め御彫み下され候はゞ重疊に候右御答まで如此御座候也

職工へ仕事の都合を問合す文

前畧一昨日持たせ上候額面は來る何日より先方の祭禮に付夫れまでには是非仕立可申旨申參り候間御練合を以て御調ひ下され度猶博覽會へ出品の新製一閑張は凡そ何日頃には出來致すべきや其筋より照會の事も有之候に付大一閑張の方は餘程の日子も要し候事に候得者品數を減じても宜敷と存候何分御答相待候也

ハ客止メノ札ヲ立テタルニ全ジ

○主人ノ一眼ハ僕ノ四眼ヨリ多ク見ユ

○人ヲ使フ者須ラク人ヲ使フノ智人ヲ見ルノ識ナカルベカラズ

○競爭ハ人世ノ利ナリ

○船舶ヲ問ハズシテ船長ヲ問ヘ

○富貴榮盛ノ身ト成ラン尤モ能キ方便ハ節儉ト資本ヲ投

全返事

御問合の義承知仕候一閑張の方は最中製造致し居候得者來る何日までには出來可致猶額面は今朝地拵らへに取掛り候得者無論間に合ひ可申候序ながら緣の木は如何いたし然るべくや御考置下され度候右御答まで早々以上

品物の有無を問合す文

尊店益御清祥奉賀候然らば今般左の品々至急入用之義有之候處御持合せ有之候哉代價は凡そ何程位に候哉併せて折返し御一報下され度若し尊店に目下御持合無之候はゞ何れにて相求め可然哉ろの邊も御通報下され度奉願候

一櫈　幅三尺長六尺五寸　一寸板　十枚
一桑　幅二尺長一丈　一寸板　三枚

全返事

ズルニナルベク安葉書を以て御問合之櫻及び桑板の義委細承知仕候毎々御用向仰せ聞けられ候段奉謝候然る全ナル方法ヲ取ルニアリ

○富人タラント欲シ拮据勉強一万弗ヲ貯蓄シタランニハきし無之候得者何れ問合させ若し持合せ候も社會生存ノ戰爭ニハ半バ打勝チタル者ナルベク後來益々幸運ニ向フベシ

○職人ニ飲マス酒ハ善キ價ヲ得

○商人ニハ又一種ノ愛敬ヲ要ス

○富貴トナランニ別ニ

◉雜の部

●生絲製造場設立を勸むる文

拜啓陳者當地も近來は有志家の奮發を以て養蠶製糸の業年々に盛に相成殊に土質に適するの處櫪板は當店にて御間に合せ候得共桑板は持合無之若し八分ものにて御用に立ち候はゞ四五日の内には取寄可申候唯今他に心當りの先も無之候得者何れ問合させ若し持合せ候もの有之候はゞ御引合可申候右御答まで如此御座候猶代價は別紙の通と御承知可被下候拜復

業生甜芋（紫色）晩種に於前紫芋の三種とす土地は濕地の外地味の善惡によりて收穫に多寡あれども適せざると云ふことなし植付期限は早種は春雪消后土の乾くを待つて土用頃迄植付け中種は半夏前より植ゑ始め晩種も引續き植ゆべし距離は畦間二尺とし株間は上地なれば一尺四五寸より粗惡の地には五六寸迄に見計ふべし肥料は前年秋より廐肥の細かなるに人糞を混合し置き二ニ秘訣ト云フベキ事ナシ只心掛クベキハ自家ノ業務ニ意ラズシテ其進歩ヲ誤ルニアリサレ尼其元モ必要ナルハ企テタル事若ノハ企テントスル事ノ成就スル迄ハ決シテ妄ニ他言セザルニアリ

○已ニ若干ノ資本アリテ之ヲ增殖センコトヲ左程ニ六ケ敷事ニアラズ只注意

◉雜の部

●生絲製造場設立を勸むる文

拜啓陳者當地も近來は有志家の奮發を以て養蠶製糸の業年々に盛に相成殊に土質に適するの處櫪板は當店にて御間に合せ候得共桑板は持合無之若し八分ものにて御用に立ち候はゞ四五日の内には取寄可申候唯今他に心當りの先も無之候得者何れ問合させ若し持合せ候もの有之候はゞ御引合可申候右御答まで如此御座候猶代價は別紙の通と御承知可被下候拜復

◉雜の部

●生絲製造場設立を勸むる文

拜啓陳者當地も近來は有志家の奮發を以て養蠶製糸の業年々に盛に相成殊に土質に適するの處櫪板は當店にて御間に合せ候得共桑板は持合無之若し八分ものにて御用に立ち候はゞ四五日の内には取寄可申候唯今他に心當りの先も無之候得者何れ問合させ若し持合せ候もの有之候はゞ御引合可申候右御答まで如此御座候猶代價は別紙の通と御承知可被下候拜復

三度積み替へ能く腐敗せしめ植付に際し両手にて一と摑み痩坪肥にし其上に熟人糞を薄くして口肥に二合位用ひ能く乾きたるを待つて土をかけ夫れに種芋を置くべし若し近く雨天と認めたらばかけたる土の傍に置くべし尤も芋の前年上に成りし部分は芋の回も深く色も濃きものなれば上下を見て元の如くに置き芽の出る方を少し立て掛け慥く根にして覆土をなすべし種芋は一升にスベキハ事ヲ缺スノ時致スベキノ場合ヲ充分ニ觀察シ其極点ニ於テ活潑ニ立働クニアリ

○勉強忍耐謹慎儉約正實ノ五ツノ者ヨレヲ商人ノ五徳ト云フ

○商家第一ノ儉約ハ無用ノ人ヲ使ハザルヨリス

○商家ノ營業費ハ猶農家ノ肥料哉ノ如シ

普通門

◉四季の部

●新年を賀する文

○商人ノ懸引キハ決シテ虚言トシテ問罪ノ限リニアラズ

○品物ヲ贈ヒ歸ヘル人ノミ我家ノ客ト思フベカラズ

○商人ニ智慧ヲ要スルハ猶馬車ニ御者ヲ要スルガ如シ

○商賣ハ船ニ乗ルカ如ク相場當ハ水先キノ案内ノ如シ

○商標ト共ニ我店ノ正直ヲ公布セヨ

◉立志ノ部

山計りにて三四十粒位入るを上とす但しそれより大なる竹の篦にて裂き灰を付け干して植ゑ小なれば株間を近く植ゆべし双種芋を直に植付け蹈き地には別に床を作り大なる芋を伏せて芽を出さしめ掻き取りて間四五寸を離して移植することもあり尤も芋は二度迄掻き取り三度目は種芋の儘植ゆべし植付より大抵二十日位にして發芽するなり畝四寸の頃に根切り出に害せらるゝこと

新年の御慶万里同風目出度申納候先以御全家益御機嫌能御超歳被爲遊候段奉南山候次に弊屋老幼打揃無異事加齢候間乍憚御安心可被下候扨昨年中は不一方御世話に相成難有仕合に奉存候今年も御愛顧奉願上候先は年甫の御祝儀迄如斯餘は永春の時を期し候匆々頓首

◉仝返事

御手紙拝誦仕候如仰新禧の慶賀上下一統盡期不可有候御全家愈御清榮御重齢之段奉悦賀候次に拙家も無事に加年仕候間乍憚御放慮被成下度候早々御賀詞を蒙り奉謝候先は御返事まで如斯尚拝眉の節萬々可申尽候敬復

◉寒氣見舞の文

春寒凌き兼候處高臺愈々御清康御起居被遊候段奉欣賀候降て矮屋一同無異罷在候間乍憚御

ありこれを瞰るに朝夕よりは午前十時頃見回れば少しにても害せられたるは日光の為に凋む故見當り易し尋ねて驅るべし其外飛虫に害せらるゝことを思ふ者多けれども是れは曉種なとを蒔き早く植ゑ何日までも若く繁茂し又之畑に雜草を生せしめ或は空氣の不通なる處に植ゆる故なり剋篩肥料と距離との適宜を得れば蕊虫の生ずること稀なるべし萬一生じたるも蔓延せざる内に

○熱心ナル志願ハ事業成就ノ先驅ナリ

○志アル者ハ事竟ニ成ル

○男子志ナキハ鉦鉄ノ鋼ナキが如シ

○精神一タビ到レバ何事カ成ラザラン

○正徑ノ希望ハ勢力ノ伴侶ニシテ成就ノ母トナル

○丈夫ノ志タル綱シテ益々堅カルベシ

○若テハ益々壯ナルベシ

宵念被成度下候扨てこの酒伊丹の友人より到來仕候に付聊か御見舞迄に進上仕り候御笑留可被下候早々拜具

右返事

寒氣尚甚敷御座候處愈々御清康奉賀候小生方何れも無事に罷暮し候間御安心可被下候只今は御見舞として好物の酒御惠投被下忝く頂戴仕就れ不日參上の上御禮可申述候頓首

觀梅誘引の文

漸く暖和の時節催し候處梅屋敷之梅花最早七分通は揃ひ候由友人より承り候依て明日の休暇を幸に一遊仕度貴意如何に候哉格別の御用も無之候得へは御同伴仕度候先は御誘引まで草々

全返事

取り去るときは根切り虫よりは容易なり蔓の長さ四寸の頃水藏を一度施して培ふべし其後苦の景色見ゆる時は速かに心を摘みとるべし是れを汁の實又は多分なれば湯に入れ絞り上げて干し粉にして糀に用ひてよし若し長雨又は旱の爲めに芋厨り蔓立ち枯れすることあり其兆見ねたらば速かに芋の大なるを探り取り小芋のみ殘して厚く土を掛くべし夏土用頃に至れは自然葉に黄色を

○人ニ欲望アルノ緊要ナルハ猶天地間ニ大氣アルヲ要スルが如シ

○吾善キ光ヲ以テ吾ガ生ヲ作リ成シ吾ガ善キ思想ヲ以テ吾行爲ヲ進ム出スベシ

○近小ニ尚安スルヿ勿レ當ニ遠大ノ事ニ志スベシ

○志ヲ立ツルノ功ハ恥ヲ知ルヲ以テ要トス

如仰春暖日に増し候處梅屋敷の梅も今を盛りと開候由就ては明日御一遊の趣にて御誘引に預り奉謝候幸ひ商事も片付候へば是非御伴相願度候先ハ右御返事まで匆々

櫻見誘引の文

拜啓昨今の暖氣にて櫻の宮の櫻花五分通りも相開候由今の内に賞觀不致若し風雨にも會はゞ一年の失策と存候に付今日午後二時より一瓢を携へ散策仕度高意如何に候哉此段得貴意候頓首

右返事

高諭拜誦仕候櫻宮の花は最早五分通りと相成候由にて御清誘を辱ふし奉謝候折角下拙より御誘へ申度存候際に付何そ辭すべけん時刻早々尊家迄參上御隨行可致候早々

著して收穫の時に至るなり早種は早く收穫する故性和かにして腐れ易し又開けざる地方と蝨蠅等に悩れて收穫を急くことあり此時炎天に干す時は腐る故内庭に干して半の土乾き落ちたらば種半を撰びて干したる土と合せ俵に入れ濕りなき處に俵を重ねぬ樣にして三四十日毎にして檢査し腐れたるものを去るべし尤も普通收穫時より十四五日間も久しく畑に置きて半を充分に熟せしめば日に干しても腐れず窓中にも凍へず宜しけれども其加減六ケしければ内干にするを良とす多時に至らば大棚の上に置くべし又は能く乾きたる上中ならば乾はきし土と交せ合せて囲ふもよし万一早種收穫の後腐ることわらば速に「サイ」の日に刻み熱湯に入れ（炎熱すべからず）直に麹に廣ろげ日に干すべし一日半位にして充分乾き幾年も貯へ得るなり古來予が地方は大根畑は夏

○志ハ一日モ堅スベカラス心ハ一時モ放ツベカラス

○端緒ヲ開ケル者ハ已ニ半バヲ爲シ了ヘタルナリ

○智識ヲ得ルハ志ニ由ルニ非ラズ由ル年齢ノ多キニ非ラズ

○望ハ風雨ノ夜ニ早クモ朝紅ヲ示ス

○業ハ高卑トナク志當ニ堅カルベシ男兒求ムルアレバ安ソ閒ヲ得ン

○望ハ勢力ノ伴侶ニシテ成就ノ母ナリ

○人ハ遠大ノ見識アリテ而シテ方ニ遠大ノ事業ヲ做シ得ベシ

○起頭ノ一決斷コソ實ニ終身ノ勢方ナレ

○有志ノ士ハ利刃ノ如シ百邪僻易ス無志ノ人ハ鉋刀ノ如シ童蒙コレヲ侮阨ス

○世ノ因循苟且ニシテ

●梅雨人を招く文

連日の梅雨鬱陶敷御座候處愈々御清勝の御事と奉賀候迂生も無事空しく机邊に起居仕候間乍憚御省慮被下度候却說前刻某君久振にて御來訪に付例の圍碁始め申度路はあしく候へども御招き被下候はゞ幸甚の至りに候同氏も貴兄を被待居候早々拜白

●右返事

御示の如く連日の降雨にてはほとんど困じ果候愈々御清榮奉賀候扨唯今は珍敷御客某君御來坂之由にて態々小生を御招き被下難有奉存候早速參上御珍談御伺可申上候右御返事まで匆々頓首

●暑氣見舞の文

近來の炎熱殆んど困却仕候高閣愈々御機嫌克

十用に致し慣く習慣なり之れが前作に早種を作るは障りなく且充分の肥料を施せば跡作にも害なし土地の上作なれば一段歩に凡そ三十石作二十石下作十石なり之ヲ調理法は第一醤麹搗り味噌酒粕糠切澱粉其他百食に代ふるものなり殊に早種半は凶年の助となること是に似すものなし中種晩種の培養も異なることなし種の貯蔵も早種の如く傷み易きものならねは日に干すも内干にするも随意たるべし

○胡瓜早熟法

胡瓜早熟法は種々あれども左の一法は最も盛大に播種するの法なりとて現に或る地方には該方法に依りて意外の好結果を得しと今左に方法を示さん

澤藷濱の糠最早不用となりたる物　一升
厩肥　凡そ百目
魚腹尾等　些少
人糞　一升

右品々を混合し置き雪國なれば雪を堀り割り苗床を拵ひ置き深さ二

ズ

○人ハ一志ヲ以テ萬事ヲ爲シ得ベシ

○志ハ其人ノ幸福ナリ天國ナリ

○覬ラヒテ定メザル鉄砲ハ中タルコト無シ

○熟心ハ仮令極端ニ奔リタルニモセヨ遊ダ貴ブベキ大ナルモノナリ

○人一タビ志ヲ定メバ後或ハ死スベシ或ハ成スベク決シ

より拙宅まで御來車の程奉願上候先は御誘引まて匆々

右復

拝誦仕候近日の炎熱誠に溽くに候處愈々御清勝奉賀候却説今晩ハ舟遊の御催し有之候由にて御招き被下難有仕合に奉存候就ては早立ザルヲ以テ功ヲ立ツルナシ

○安ニ高尚ナル事業ヲ撰ミ誤ランヨリハ寧ロ潔キ出ヅル好機會ヲ取リ逃サヌ樣務ムベシ

○希望ハ難事ヲ知ラ

本日は最早三五の當日と相成候如仰月日の

右返事

昨今は秋氣漸く滿ち山間の紅楓綠水に映じ秋遊の好時節と存候依て本日正午より輕舟を儘は朝來の晴天一點の雲も無之と相樂候責命に隨ひ両三名同伴晩景より參上可致候頓首

舟遊誘引の文

御水亭にて御盛宴御催しの趣に付高招を忝く拝謝仕候兎角仲秋には風雨の妙多く候處今年へ候に付何卒御繰り合被下度候不備

右返事

御示教の如く秋も日にまし候處愈々御清康奉賀候陳ば今日舟遊御催しの由にて御高誘を辱ふし難有奉存候正午頃より御宅へ向け參上可仕候不取敢御返事まで艸々

寸周り三寸位に作り右の肥しを其中へ投け込み其上部に少々土を置き彼岸中に種子を蒔くべし此時前に調合せし肥料を再び敷き込み其中へ圏の如く蒔くべし横に蒔くべからず發芽の后ち決して肥料を施すべからず又小便肥は大害あり胡瓜に小苦味を帯ぶるは小便肥の多き爲めなり胡瓜を唯尿肥のみ多量に用ひて其種子を作り返す時は六ヶ年目に淡黄色と變じて瓜の兩端甚だ苦味あるものなり又之を人糞厩肥魚肥等のみにて作り返す時は以前の綠色に復し苦味なくなるべし又雄花の咲き初めよりは決して施肥する勿れ若し肥を施す時の早熟も中熟に變じ后と晩熟となること多し

極く早生の内二種あり一名「ハッ房」「時知らず」と云ふ以上の二種は發芽を摘み捨つ可からず中熟種に四種あり「三ッ葉」「節曲り」「長瓜」「蒸縮」以上四種は前に述べたる調合肥料宜アリ

○吾人ハ尤モ能ク自己ノ性質ヲ知リ尤モ能ク自己ノ心身ニ適合シタル業務ヲ撰バザルベカラズ

○世間ノ事業ハ百般錯雜相互ニ支吾スルヿ多シ故ニ今現ニ障害アリ若シ將來ニ望ミ多キ進路ナレバ決シテ失望スベカラズ

○自身ノ才能長所ヲ

○農業の部　◉金陵雜誌部

○晉人ハ尤モ能ク自己ノ性質ヲ知リ尤モ能ク自己ノ心身ニ適合シタル業務ヲ撰バザルベカラズ

○世間ノ事業ハ百般錯雜相互ニ支吾スルヿ多シ故ニ今現ニ障害アリ若シ將來ニ望ミ多キ進路ナレバ決シテ失望スベカラズ

○自身ノ才能長所ヲ

○失敗スレ共屈セズ進ミ行キテ止マザル人ハ吾望ノ深ク屬スル所ナリ一試ミ幸甚の至りに御座候不一

◉右返事

拝啓仕候陳者某地の蓮花既に相開き候由にて態々御誘引被下奉謝候丁度同地の友人参り合せ候に付案内者として同伴の上晝過ぎより御宅に参上仕り御伴可仕候間御待合せの程偏に奉願候先は御返事まで艸々

◉菊見誘引の文

秋冷に相成候處愈々御清勝の段奉賀候偖昨今は某園の菊花滿開の由にて同地の友人より招待有之候御同遊如何に候哉御同意に候はゞ本日午後三時より御同伴可致候此段得貴意候也

◉右返事

拝啓某地の蓮花最早八分通り相開き候由に承及候就ては幸日曜にも有之候に付散歩がてら見物仕度貴意如何に候や若し御同意相叶候はゞ小生等の幸甚に御座候此段得貴意候也

◉観蓮誘引の文

御手紙拝誦仕候陳者某地の蓮花既に相開き候ニシテ定マラザル人ニ勝サルヿ遠シ

○決心ハ事業ノ半バナリ且ツ決心ハ精神ノ火口ナリ故ニ決心茲ニ定マレバ精神決シテ薄弱セズ

○心志アレバ必ス便宜アリ

◉忘年會を催す文

今年も最早餘日も尠く相成り御繁忙の御事と奉存候然ば本日午後四時より某々氏等と聊か忘年會相催度貴意如何に候哉若し御同意に候はゞ小生等の幸甚に御座候此段得貴意候也

◉右返事

如仰本年も殘りすくなと相成り何となく心忙敷候就ては忘年會の御催有之候由にて雅招を蒙り忝く存候勿論賛成の事に候へば時刻を待

記メ得タル者ハ零落セシテ無ク天原ニ反對シテ事ヲ執ル者ハ繁昌シタルヲ無シ

○ニッノ事業ヲ見テ何レヲカ眞先ニ爲サンカト狐疑躊躇スル者ハ遂ニ何事ヲモ爲シ能ハザルモシ

◎勉强ノ部

○勉强ハ幸福ノ母ナリ

○勞セスシテ得ルモノハ唯貧ノミ

○播種セズシテ收穫ヲ望ムベカラズ

○自ラ先ッ助クル者ハ神コレヲ助ク

○眠勉事ニ從ヘバ敢テ勞ヲ告ゲズ

○飢ハ能ク稼ノ門ヲ窺ヘド閾ヲ越エデ內ニ這入ラズ

○天ハ萬物ヲ人ニ與ヘズシテ働ニ與フルモノナリ

○少壯ノ怠惰ハ老晩ノ窮苦ナリ

て參上可仕候拜答

◎歲暮の文

歲月人を待たず今年も今日限りと相成候得へ共、今日ハ定めて御取込の御事と存候拙宅も兎角と心忙しく無事に相働き居候さて麁肴一籠珮か年末の御祝儀として進呈仕候間御納受可被成下候先は年末の御賀迄餘は春永く可申盡候不一

◎右返事

如仰今年も今日と相成候處高家愈御繁昌奉賀候降て弊家一同異事なく罷暮し候間御安神被下度候只今は年末の御祝儀として結構なる肴共御恵投に相成奉深謝候此物は甚だ麁末に候へ共、御移りとして進呈仕候御笑入被下候はゞ幸甚尙來歲万々可申盡候先は右御返事まで匆々

厚さに入れ之に汚水を注ぐなり

茄子苗を作る法並びに移植法　右の如く苗床を作りて一日間糂水に浸したる種子を播下し其上に薄蓋を作りて晝間は全く之を取り除き夜間は之を施すべし又二日乃至三日目に一回づゝ微温湯を注くを可とす斯くて發芽に至れば每夕微温湯を灌ぐべし或は日中鉄器に水を入れ置き其温りたる時に注ぐも可なり而して苗の三寸位に成長したる時は早熟瓜と變生し徒花少なく實花最も多しとなり

○茄子栽培法

苗床を作る法　冬間沃旦の土を凹內に持ち運び人糞或ゑ油粕、燒酎粕等の肥料を時々に注きて能く調和し置き立春の頃より啓蟄の頃までに蔬又は蔓の類を以て二尺或は一尺四寸の高さに南面して斜めに四方を囲ひ廐肥を敷くも七八寸の厚さに及び其上へ前の土に馬糞を混和したる七八寸の

◎病氣見舞の文

拜啓承り候へば尊大人には此程より御持病の爲め御平臥被成候由嘸々御心配の御事く奉察候時節柄よく〳〵御心付可被成候參上御見舞可申の處公私の多端に付不本意書中を以て御見舞申上候此品乍些少御見舞の印迄に聊か進呈仕候いづれ一両日中に參上可仕候右は御見舞の印まで如斯御座候早々頓首

◎右返事

拜啓承り候へば尊大人には此程より御持病の爲め御平臥被成候由嘸々御心配の御事く奉察候時節柄よく〳〵御心付可被成候參上御見舞可申の處公私の多端に付不本意書中を以て御見舞申上候此品乍些少御見舞の印迄に聊か進呈仕候いづれ一両日中に參上可仕候右は御見舞の印まで如斯御座候早々頓首

る時畑に深く畦を作り之に馬肥或ハ堆藺を布き漸く土を覆ふか又ハ厚の人尿或ハ粕類の肥料を施し此上に少しく高く土を覆ひ降雨せんとする時を見て一尺二三寸位の距離に苗を植付くべし

○植付後の注意　苗根固く着したる后ちは根切虫の駆除を怠ること勿れ又移植より二三日間は毎夕少量づゝ水を注ぐを可とす而して日中は常緑樹の枝にて日覆をなすべし併し麥作の間なれば別に日覆をなすに及ばず結果の期中は三四日目毎に一度づゝ稀薄水尿を成る丈け根際を離れて施すべし

○苗栽培法

採木の目的にて苗を栽培するの方法に付き蠶糸業中央部月報に記する所を見るに桑木を目的とする桑園は畑一反歩に付き三百株を限り五六月頃非の伸びたる条條を撓ゆめて土中に埋め其條中の新小枝にして上に向くべきもの七八本若くは五六本

○農業の部

○怠惰ハ勉強ノ敵ナリ

○一生ノ光榮ハ勞苦ノ間ニアリ

○一日一事ヲ學ンデ三百六十餘

○事ヲ勉メテ怠ラザレバ能ク貧ニ克ッ

○座シテ食ヘバ山モ崩ス

○汝ノ額ノ汗ニテ汝ノ食ヲ食ヘ

○前半生ノ勤勞ハ後半生ノ生活ヲ安ンズ

梅枝を贈る文

寒威凛冽凌衆候處筆硯益御清風奉賀候陳者弊園の梅花両三點咲き初め候に付數枝折取爲持差上候机邊の清娯よも伴せられ候得者花と共に本懐の至に奉存候書狀拝眉に在り草々

全返事

如貴諭朔風吹雪寒威殆と難敵唯爐火と親しむのみにて窓外の風光さへ伺へ兼無聊罷在候折前略當以來懐舊の情に耐へざる事有之閑暇の折々拙新當時の現狀を筆に任せて記錄致し積拇梅花數朶御惠贈被下早速銅瓶に挿み賞玩仕候今夕よりは美人に伴ひ香を結び可申候と相數巻と相成候に付此頃活版に付せしめ候

新版書籍を贈る文

處漸く出來候に付供高覽候文辭は拙劣にして見るに足らざれ共記事の精確にして當時隱微せし事迄摘發候得者幾何か御慰みとも可相成候に付一部差出し御笑覽に相供し候草々

全返事

貴書拝見仕候陳者維新の實歴なる書御出版に付一部態々御惠送被下奉深謝候當時の事情は概畧史上なり口碑なりに云ひ傳ふ所を開居候哉と存候に付一部差出し御笑覽に相供し候草々

○事業成功ノ秘訣ハ其目的ヲ寸時モ間斷ナク經營スルニアリ

○人ノ一生ハ特ニ心思ノ勞苦或ハ肢体

半生ノ生活ヲ安ン

ズ

○自ラ勞セズシテ獲ル所ノ者ハ一モ貴ブニ足ルモノ無シ

○萬ノ事初ニ苦勞セズシテ怠レバ後ニ功成ラズシテ榮ミナシ

○事業成功ノ秘訣ハ其目的ヲ寸時モ間斷ナク經營スルニアリ

○人ノ一生ハ特ニ心思ノ勞苦或ハ肢体

を土の上に出して翌春二三月頃に至り根の十分に出でたるとき掘り取り擂木形に切りて之を別地に假栽し其又翌春に及んで本圃に栽る之最も簡便の法にして「市平」「霜クトリ」「コホレ」等の株にて一株の木より七年目に至れば三十本乃至四五十本迄を伏するの通例なるが其發生したる桑苗を植ゆるには山間平地海邊等何れの處にても培養よろしきを得れば繁殖するに相違なけれど

ノ勞苦ニ由テ菜實

寸ナリ

○人ノ寢ル其間ニ多ク耕シテ多ク作リテ多ク收メヨ

○勞苦ニ做フベシ安息ヲ求ムベカラズ

○怠惰ハ貧窶ノ門戸ナリ

○懶惰ナル頭腦ハ魔鬼ノ工場ナリ

○寸勞無ケレバ寸功ゾ寸利ヲ得ンヤ

○惰ル者ハ富ヲ追ヒ勤ムル者ハ財ヲ招ク

徵兵入營の人に贈る文

寸書拜呈仕候時下益御淸榮奉賀候陳者此度徵兵ハ御當籤に付來月何日御入營被遊候趣國家の爲御自愛遖れ良將軍に御昇進の日伏て奉待候右に就き參上の御惜別可申の處兩三日中は手放し兼候件に取掛居候乍殘念拜眉を得ず候最來春早々には上阪可仕用向有之候に付其節は營所へ御尋可申と奉存候甚輕微の品に御座候得共卷烟草五百本ハンカチーフ一打進呈仕候間御笑納可被下候愚妻共よりも加文申出候乍寸華墨忝拜見仕候陳者小子此度徵兵當籤に依り來月何日入營仕候に付ては態々御尋被下殊に何等の品御惠贈下され御厚誼の程奉深謝候素

も地を撰ぶには乾ならず濕ならず程好き處は尤も妙にして水邊の砂多く光線の通り及び空氣の流通好き所を第一とす斯くて一反に三百本を限り六尺坪に一本づゝを植ゆるとして畦の深さは二尺五寸となし（其間に野菜類を植ゆ可らず）苗を植え込むに當りては馬糞肥を青草或ハ海藻などを下に入れ之に土を掛け置きて一月程經たる後其上を堀りて畦の土際より五寸位を殘して苗

ク

！

○勤勉活潑ハ百事ノ成功ヲ容易ナラシム

○憂勞ハ以テ國ヲ興スベシ逸豫ハ以テ身ヲ亡スベシ

○如何ニ才能優勝ナリトモ百折撓マザル勉强ト萬事扱目ナキ注意ナクテハ事業ノ成功覺束ナシ

○步ク足ニハ塵ガ著ク

より愚昧の小子迄も昇進等は思ひ寄らぬ事に御座候得共唯体格の健全なるは自負する所に御座候得者力めて精勤仕候兼て忠君愛國の義を忘れ身を忘れて一意義勇奉公の實を盡し度精神に御座候間此段御承知可被下候來春ハ御上阪にも相成候趣に御座候へは其節は拜眉を得可申と今より相樂罷在候右貴酬迄如此に御座候草々拜白

新茶を贈る文

宇治の親族より新茶とて少々送越候處風味の程如何か不存候得共御裾分け申候間御試煎被下度右迄早々拜具

全返事

御貰ひ受けの趣を以て新茶澤山御配與被下奉

を切り其根を植付け周圍に水肥の薄く延べたるをかけ再び土を掛け置くべし苗莖より發芽するは時は皆之を延ばし其翌年に刈り取りて四年目位より株木に伏せ七八年に至れば挙の如き株となる此挙株より年々數十本を發芽すると五六月比に至りて又伏せる譯なり

○蕙栽培法

蕙を栽植する者多くは家中に至り霜雪の爲め凋萎し赤蟲を生ずるを憂ふ之を治するには畦（間株と株との間を云ふ）の土を掘りて凹となし之を埋むるに蕎麥稈又は麥稈を以て其上に土を覆ふ然る時は蟲能く繁殖し且つ白根を多く生ずるものなり

○桑植付簡便法

先つ桑樹を植ゆるに至り一反歩に付小麥六斗程蒔て之を桑樹の根邊に置き植ゆべし如斯くせば其桑尽く發芽し一として枯死するものなく且つ北芽の肥大にして丈け高くなるは實に驚くべきなり

○貧シカランヨリハ寧ロ其身ヲ惜レ

○勤勉ノ人ハ萬物ヲ化シテ黄金トナス

ノ術アリ光陰ト雖モ亦コレヲ黄金ニ化スベシ

○道近シト雖モ行カザレバ到ラズ事小ナリト雖モ爲サザレバ成ラズ

○困難愈々甚シケレバ愈々奮ヒ勇ム

レバ愈々多ノ勞苦ヲ爲スベク危險愈々甚シケレバ愈々平生ノ御手入好き故と奉存候何れ拝眉の上御禮可申上候有合せに付乍些少淺草苔海一罐貴価に托し候御笑納可被下候草々拝答

蜜柑を贈る文

先年温州蜜柑の苗とて弊圃に栽付置候處漸く本年始めて實を結び候付甚だ小粒には御座候得共一籃御目にかけ候御愛子様方へ御分配被下候へば難有仕合に御座候草々

仝返事

兼て御設に相成候密柑園本年は既に實を結び候趣にて澤山に御恵贈被下難有奉存候早速拝味仕候處中々の美味にて平素温州種と稱し居候ものとは雲泥の差に有之仝く種子の選ふものゝ或は御培養方の行届候爲めかと不審を生じ候程に御座候幸ひ來客有之折柄にて共に賞

謝候早速一煎を試み候處無比の香味にて忽ち塵俗の懐を忘れ候甚だ輕少の至に御座候到來に任せ駿河屋羊羹貴価に托し晋呈仕候御笑味可被下候右迄草々拝復

筍を贈る文

薄暑の節に相成候處益御清適奉賀候扨後園の孟宗林昨冬聊か手入いたし候爲にや例年よりハ早く既に數本生ひ出候に付御晩酌の料にも と二三本爲持差出候御調理供せられ候ゝ大幸の至に御座候右迄早々

仝返事

貴書拝展仕候近頃は野菜類乏敷折柄にて毎夕の晩酌にも困居候處唯今も龍孫澤山御恵投被下御後林に産出の趣別て賞味可仕候未だ市塲にも見當り不申候にや尊園に産出仕候者仝く

○貴栽培法

貴は元來熱帶植物なるを以て温暖なる氣候を適當とすれども培養其當を得されば北緯五十六七度の地にも能く成長す之を栽培せんとするには少しく石灰に富み砂を交へたる眞土を擇ふべし春分前後暖地に苗床を作り孤垣を繞らし覆衣を設け人畜糞汁の腐熟したるものに土を混じ屢々水糞を注き細砕し土の上部一寸許を篩過すべし種子は十培の砂と共に布袋に入れ二十四時間水中に浸し温處に放置し乾けば又微温水を以て濕めし其時に發芽せんとする時苗床に播布し薄く土を覆ひ少しく押付置くべし斯くて晴天には覆衣を除き夜間と雨天には之を掛け置くべし長して三寸程となり五六葉を供ふるに至れば（八十八夜前）二尺づゝの距離に移植し乾燥すれば灌水すべし而して屢々灰肥を施し根際を耘培し害虫を殺し其十二三葉を着するに至れば專心勉力ニ由テ贏ク做スモノハ許多ノ做スモノナリ

○快樂ノ心ハ事ヲ爲スノ絶好ノ資本ナリ

○勉強苦勞ハ人ノ職分ナルノミナラズ人ノ消受スベキ福慶ナリ

○勞苦ハ百事ニ勝ツ

○辛苦中又一個ノ樂土アリ

○助力ザル盆水ニハ子子之ニ生ズ

味仕候右者御請まて餘は拜芝御禮可申述候匆々

海外より歸りし後土産物を贈る文

暫く不得拜晤候處益御清風被爲入奉賀候扨小生案外長遊に相成候處漸く昨夕無恙歸國仕候間御安心可被下候不在中は公私御配慮被下候段千萬奉謝候甚だ些微の至に御座候得共卓子掛一具米國著名の織工場産に付入御覽候御笑納可被下候外に玩弄物數品是は御令孃樣へ御傳へ被下度奉願候御閑暇の節も御座候へは御來遊被下度格別の奇談も無之候得共彼地風土の御咄も可仕と奉存候右迄草々拜具

○漸く歐洲の觀察を了へ昨夕は横濱着の飛脚船にて無事歸朝　○此品は英國にて最近の發明と申事に付御慰にと差出候

全返事

御無音打絶候處時下御清穆被爲入候段奉賀候客年來は永々の御洋行に有之候處風土の御障りも無之昨日は日出度御歸朝の趣奉賀候順と御容子も存じ不申御無沙汰罷在候段御海恕可被下候唯今は珍らしき品柄子供に迄數々と御惠贈被下御厚意奉深謝候定めて珍奇の御噺し可有之緩々と拜聽致度奉存候昨日來愚妻を實家に遣し候ゟ付守舍の人無之本日ゟ乍遺憾參堂不仕候明日ハ早々拜趨可仕と奉存候周魚二尾聊御安着の御歡まで差出候御笑納可被下候餘は拜晤を期し候草々

寫眞を贈る文

其後は御疎遠罷在候春暖の候益御清福奉賀候次に小生無事御休心可被下候扨兼て御約束の

ば梢頭を摘み枝を去り葉に黄斑が生ずるに至れば之を採り取り繩に貫てよく大氣の流通する所にて乾燥するなり

○藍に虫の付かざる植付耕作法

藍の葉には虫の付くこと甚だ多し故に藍耕作は利あることを知るも充分に耕作せざる所多し今左に虫の附かざる眞法を示さん

藍種を蒔く前に一遍間「ニガキ」汁に加して蒔き而して後に苗となりし時は日々（雨天を除く）「ニガキ」汁を水の代りに打ち遣くなり畑に植付る前日に苗を抜き揃へて「ニガキ」汁の中に藍苗の根を浸漬くこと一夜にして其翌日植付てより三日以後晴天の日に植付け藍の根に「ニガキ」汁を打置かれ虫の附かざる事經驗して其功著し

附言「ニガキ」と云ふ樹は栴檀の樹に似たり俗に「ニガキ」と云へとも土地により其名を異にするやも知れず

○常に轉ぶ石ハ苔ヲ生ゼズ

○早ク起ル鳥ハ餌ヲ得ル事多シ

○勉メザレバ則チ中ラズ思ハザレバ則チ得ズ

○意情ハ衆惡ノ生母ナリ

○人ハ成敗得失ヲ使命シ自己ノ意ニ從ハシムルノ權ナシ然レド勉强シテ止マザルニハ天ヨリ其賞トシテ成就ノ當地各所の寫眞漸く取揃ひ候に付小包便を以て差出候外に小生寫眞一葉御覽に入れ温むる爲め相添置候依然たる舊阿蒙自ら唾せんの思に御座候御序の節貴眞一葉御送付被下候へば大慶仕候右は要旨迄如此に御座候乍憚御令閨樣へも宜敷御致聲可被下候草々拜具

◉仝返事

如貴命春暖の好時節に御座候處彌御安康奉賀候小生無事送光罷在候間乍憚御降心可被下候當方よりこう大御無沙汰仕恐悚の至に御座候扨御衆約の通錦地寫影御送付被下殊に尊影まで御惠贈の趣奉深謝候永く机邊に相掲け可申候野生も此中撮影仕候もの有之候に付甚だ不出來に候得共素より御承知の醜容彩色を施すも蔽ふへからざる義貴命に應じ封入仕候愚妻

より厚く御禮加文申出候時下折角御厭ひ可被遊候草々拜答

◉誘引の部

◉納涼誘引の文

晝間の炎熱堪へ難く夜に入りて纔かに蘇生するのみに御座候華硯益御清福奉賀候久敷清談を不承候に付今宵の月光に乘じ大川に涼舟を浮べ例の合奏を催し且日頃懷抱する所へ寄玩を闘かはせば何寄の納涼と存候萬障御繰合御同遊如何に候や此段御誘引迄匆々

◉仝返事

午熱身を置くに地なく彼所に倒れ此所に轉び唯夜に入るを待つのみに御座候偶ま貴書に接し欣喜の至に御座候陳者今夕は納涼の爲め合奏會の舟遊御思ひ立にて御誘引被下此中より

虫の驅除法

○地蠶驅除法

地蠶の種類甚た多し五六月頃圃上に發生して植物を害するものなり或は九月十月頃出でゝ作物を損ふものあり而して其害を爲すや亦各異なりて茄子、胡瓜、棉、豌豆、大小豆、麻、蕎麥等凡て此等の植物の發育するに當り根際を一嚙して全株を倒し或は根を咬み又は芽葉等其軟部を蝕するものあり頗く暴害の狀を異にし被生の期を齊ふせざるカラシムルヿ能ハズ又人ヲシテ賤シカラシムルヿ能ハズ只人コソ職業ヲシテ高カラシメ又卑カラシムベシ

○正經ノ職業ヲ保テル人ハ卑賤ヲ憚ヅルヿ勿レ保タザル人コソ愧ヅベケレ

○徒ラニ時運ヲ待テ暮シツヽ飢ノ境ニ近寄リニケリ

○勉强ハ幸福ノ右手ニシテ師儉ハ其左手ナリ

○勤勉ノ眞個ノ價ハ唯平安ニ生息スルヲ得ルニアリ

○懶惰ノ流レ手ヲ束ネ子居ヲ神明ノ助ケヲ求ムルハ猛アラズ神明ハ勤勉者ノ首ニ宿ルモノナレバナリ

○何人モ匪リテ惡人トナル者ハ無シ

○定業アル人ハ一ノ惡魔ニ誘ハレ懶惰ナル者ハ一千ノ惡魔も共に其性を固ふし晝は土中一寸許りの處に蟄居し夜に至るを待ち出でゝ植物を損害す後一寸乃至一寸五分許りの虫となり老成して地中に入り蛹となり終に蛾と化して卵を植物の下部又は葉に產附す

第一　春季香附子（香附子）は圃上に繁生する所の雜草にして耕作物を害すること特に甚たしきものなり）の花を摘集し能く干燥して粉となし植物の根際に撒布して以て植栽せば

某々と諸氏へ催し有之哉に聞居候得者早速申合せ御示の時刻に御示の地迄參會可仕候滿汗點々筆を執るに懶し萬事會話の時と草々拜復

●觀楓誘引の文

梅唇風に媚び梅鬢雪に傲る花の可愛らしきは素より贊を待たずと雖とも就中可憐に堪へざるは霜に醉ふの紅葉に御座候某村某山近邊楓々好勝地近日賞觀し良期と承り候明日友人を約し一遊いたし度高意如何に候や御同感よ候はゞ駒は繫ぐべくもらず御勞駈相祈候不備

●仝返事

紅葉は二月の花より紅とハ唐人の口吟する所千古東西同一樣の事に候昨日某氏來訪にて承り候得者某山邊は觀楓の好時節にて雅人俗客の杖を曳くもの陸續相踵き山路に市を爲すよし之を聞くや遊意勃々と相生し難此折柄貴書に接し御同伴の命を忝し多々幸々例の巨瓢を肩にし路すがら尊門を叩き可申候草々拜酬

●遊山を催す文

淸明の時節に相成候處益御勇健の段奉賀候扨某山は地方にての名勝に有之處是迄一遊いたし候事無之就ては明早天より各自に行厨を腰にし登山仕度尊意如何哉御同伴を得ば本懷の至に御座候拜白

●仝返事

貴書拜展仕候小生へ早く五ヶ年の間當地に在住居罷在候得共某山の名勝たるは承知致しながら是迄終に登覽仕候事無之何時ぞは一遊を試み度と存居候處へ御淸誘を忝くし多謝茶山翁の詩に一年唯三月三日唯淸明と申候得者徒

魔ヲ以テ苦メラル

○人ハ常ニ悪魔ヲ以テ誘ハル、者ナリ

サレド懶惰者ハ專心魔界ニ沈溺ス

○長キニ誇レバ反リテ短キニ劣ル事アリ弱キヲ守レバ遂ニ強キニ優ルコトアリ

◉忍耐ノ部

○忍耐ハ快樂ノ根本ナリ

○失敗ハ成功ノ亙師ナリ

に過す時は今日の日我を棄て行と申候に付必ず御同伴可仕候此容子にては好天氣なるべしと奉存候書餘拜眉の節に譲り貴答まで早々

◉かるた遊に誘引の文

拜啓仕候陳れば今晩弊屋に於て百人一首のかるた遊いたし度某氏の令嬢始め同癖者數人來會の約束に有之候條御令閨樣幷御舍弟樣御同伴御來臨被下度先夜の復仇不致ては不相成と偏に貴兄の御來臨のみを相待居候右御案内まで匆々頓首

◉仝返事

先夜は長座仕種々御馳走被下難有奉謝候扨本日は豪傑の手合打寄られ候に付小生共へも參上可仕旨御招に預り深謝仕候此道の爭ひ敵に名乘られて何ず遜巡すべけんや黄昏より旗推

上に壓ち倒るゝを集めて驅殺すべし又馬酔木の葉を水煎し濾さ或は綠礬水を澆くも可なり

第五　瓦斯灰二斗新鮮なる石灰二斗硫黄六斤畑煤十斤（八歩の地に用ふる分量なり）を混和し朝夕植物の露を帶ふるに當りて撒布すべし

第六　圃上所々に穴を穿ち又は溝渠を繞らし毎朝巡視して中に墜落するものを蒐集すべし而して其際根の週邊を撿して虫を撲殺するとし樹てゝ參堂可仕候反り討に不相成樣御用心肝要に御座候妄言多罪餘は拜晤

◉褒賞授與式參觀に誘引の文

秋涼日に相催候處益御清適奉賀候扨第四回内國勸業博覽會も開會最早僅々の日子に相成り本日は早や褒賞授與の典を擧行せられ候趣にて畏くも　天皇陛下御親臨在らせられ候由殊に天氣も快晴に有之第一鳳駕を拜迎し受賞者の榮譽も參觀仕度に付御都合の程計り兼候得共時刻より御同伴仕度否や鄙介へ御答被下度草々拜具

◉仝返事

博覽會も最早閉會に間合も無き事に相成本日は褒賞授與の大典擧行被爲在候に付　聖上皇后兩陛下にも御臨場被爲遊候趣近頃無比の

怠る可らず

第七　被害の地は翌年之を耕耘するに當り土中の舊根草芥等を集めて焼き去り尚ほ植物發芽の後に於ける雑草を芟除し光氣の透徹をよくし峡并びに卵を見れば悉く之を驅り殺すべし

○金龜虫驅除法

金龜虫は夏秋の際夕方より飛散し來り大豆の葉を食し一反歩位の畑にありしものは三四夕を出でずして其葉悉く網の如く蝕害せしむる

動ヲ制スベシ

○忍耐ナキ人ハ油ノ盡キタル燈心ノ如シ

○堪忍ハ無事長久ノ基ナリ

○堪忍ハ一生ノ相續

○世界ハ勉强耐忍ナル者ノ有ニ歸ス

○忍ブコアレバ乃チ濟コトアリ

○堪忍ノ德ハ人道ノ要ニシテ經典法訓ノ第一トス

○屡々我ヘ代ヘタル好晴嘸かし賑々敷事と奉存候就ては御參觀相成候に付御誘被下奉謝候幸に閑暇にも罷在候得ば時刻を圖り貴宅迄御伺ひ可申候不取敢貴答迄草々

●開業式參列誘引の文

本日は電氣鉄道會社の開業に付招待狀に接し候處尊兄にも御同樣の事と奉存候幸に好天氣にも有之候へば參列仕度候貴意如何哉多人數の事と相察候に付友人の噺相手無しも不興に付可成は御同伴仕度御誘引旁得貴意候拜答

●仝返事

拜復小生も電氣鉄道會社より案内狀に接し候處如何可仕哉と躊躇罷在候折柄御高引に預り多謝此好天氣に徒らに草屋に引籠り候も不本意に付御同伴可仕候就ては午前十時を相圖に

ことあり之れが驅除法を考ふるに其多く飛來の時刻に方り圃間に於て蠶類を燃やし光を覗ぐれば彼等の多數は之に翩飛して火中に投ず而して悪く焼死するなり

○大根の葉に虫のつきたるを驅除するの法

大根葉虫の害を爲すや甚だ困却するものなるが故に今此驅除法を左に畧く可し其方法は藤て辛を製し置き夏日鮪鰯等の類に其三分の

樹ハ實ヲ結ブコトナシ

○忍怒ハ分時ノ狂氣ナリ

○忍ノ盡クル所ハ後悔ノ始マル所ナリ

○谷ニ止マル者ハ小丘ヲ超ユルコヲ得ズ

○天下ノ事未ダ忍ブニ成リテ忍ビザルニ敗レザルハ有ヲス

○爭論ハ一方ノ堪忍ニ終ル

弊宅を出で尊門を叩き可申候條右御了知被下度此段御回答迄如此御座候卿々不備

●買物に誘ふ文

本日は初天神にて露店も例年の如く盛なる事と存候就中植木盆栽類ハ何れも今日を目的に御座候得へば適意のもの可有之と存候就ては夕景より散歩旦參詣ながら冷かしに罷越度御差支も無之候へば御同道仕度此段得貴意候也

●仝返事

御華書到來披見仕候儲今夜ハ初天神祭參詣旁植木盆栽の賣品有之由に候得者小生も二三品相求め度候に付貴君に伴なはれ今夕景より該地へ罷出可申候に付いづれ尊宅へ御伺ひ可申候間何分御同行被成下度奉願候先は右御返信

一の食盥を合せ瓶に入れ置き該虫の發生するや鹽辛汁一升に水三升を混じて鍋にて煮立て藁箒にて洗くべし但し之を日中に於て施すは宜しからず早朝に於てするを要す然らば該虫は必らず斃死すること疑なし彼の馬酔木煎汁は殺虫には効あれども作物の味を害するものなり然るに此法は大根の味をも佳良ならしむるの益あり未だ此法を知らざれば試るべし

養蠶

○短慮ハ功ヲ成サズ

○徐々トシテ歩行スルモノハ久シケレ共疲レズシテ遠キニ行クヿヲ得ベシ

○時日ト耐忍トハ桑葉ヲ蠶ニ與ヘテ細緻ニ變ゼシムル

○失敗ノ事ハ眞正ノ勉勵スル人ノ爲メニハ極美ノ教訓トナル

○猿猴ハ最善ノ巧師ナリ

○人ノ智識ハ失敗ヨリ

まで不全

●戰利品參觀に誘ふ文

拜啓仕候陳者當地博物場に於て昨日より平壤及ひ鳳凰城の戰利品陳列相成候趣昨日參觀者の噂には隨分小兒の玩弄物に類似のものも有之中には又可驚利器も有之或は捧腹絶倒の思を催し或喚驚一番する品も有之候由何も後學の爲と存候得者本日ハ一見仕度御在宿に候はゞ是より同伴仕度御都合相伺候早々不具

●仝返事

戰利品到來に付博物場に展列相成普く衆庶の觀覽を許され候趣是迄新聞等に散見致候圖面にてさへ哄笑を喫し候に今其實物を見ば定めて臍を撚る樣の事も有之候はと一覽仕度折柄高誘を蒙り候に付早速貴宅迄拜趨御同伴可相

願候右貴答まで匆々再拜

●古器物展列會の同道を約する文

拜啓仕候西京より熊谷鳩居堂の主人某所藏の古器物携帶にて來阪備一亭に於て展列會を催し候ら某紳士及ひ某華族の珍藏をも觀覽に供し候由中には賣買品も有之趣に承り及候へば御同癖の事とて午後より御同伴仕度御差支無之候はゞ午食後弊舍まで御來車奉待候他に御鑒定を願度品も有之候先は御誘引まで草々不一

●同返事

貴翰拜讀先刻より花月庵宗匠も參觀仕とて誘引の爲め御來會に付後刻までに同伴貴家まで參上可仕候由に依りては交易も致候由に付一二品持參仕度此度貴兒にも御考も御座候ハゞ御携帶被遊候ては如何哉書外拜晤の節に讓り

○種子の撰ひ方

種種を撰ぶには左の二件を目的とせざるべからず

第一　健全の種を撰擇せざる可からず

第二　種類の眞好なる種種を撰擇すべし

如何なる種種の眞好にして完全なるものなるやと云ふ各得失あるものなれば先づ左に一二を別記して取捨の參考に供す

第一　赤熟　此種は絲莖多く絲質強くして優等に位する種類なれども

リ學ブコト勝利ニテ學ビ得ルヨリ多シ

○人トシテ一モ失誤ノ事ヲ爲サヾル者ハ決シテ一モ發明スルヿアラザルベシ

○居家久シク和グル者ハ能ク忍ブニ本ヅク

○忍ブヿヲ知ツテ忍ブニ所スルノ道ヲ知ラザレバ其失尤モ多シ

近來糸綫太く且つ細大不揃ひなりとの説盛なり之れらは製種家の原繭撰び方如何にあるものにして此種も良種を加ふれば漸次製絲上に適當する樣になること考へらる故に先づ改良を遂ぐるまで兵庫縣下などは見合す方なるべし

第二青熟　此種も前の赤熟より變じ來れるものなるべしと雖ども前者に比すれば繭の形も稍々少さく糸の量も少なき代りに其糸綫は細く先づ製糸に適當するものとして可なり是等が當時の優等品なるべしと思はるゝなり

第三又晉　此種は青熟に比して繭の形ち小さく糸綫も適當なれども糸の量は前者に及ばざるもの多し

第四小石丸　此種は前の又晉より撰出せしものにして其繭の形小さくして堅しと云ふ所より此の茹の起りたるものなるべし繭の形は前者より短かく縊れ目の深き繭にして糸質稍ゝ

○農業の部

○苦中ノ苦ナ喫スル人ナ人ノ上ノ人トモ云フ

○早ク成ルモノハ破レ易ク遲ク成ルモノハ堅固ナリ

○掴ニシテ速ナルハ巧ニシテ遲キニ如カズ

○賢者ハ終ニ始メ愚者ハ始メニ終ル

㊫節儉ノ部

○努力ト節儉ハ家ヲ富スノ根源ナリ

○黄金種ナク獨リ勤儉ノ家ニ生ズ

○節儉ハ家事ヲ治ムルノ精神ナリ

○儉約ハ安閑ノ基礎ナルノミナラズ又仁惠ノ根元ナリ

○儉約度ヲ誤ルハ者ニ變ジ安分解ヲ謬ルハ卑屈ニ流ル

○富ニ居テハ節用ヲ德トシ貧ニ居テハ困勉テ德トス

○驕奢ノ心ハ家ヲ破リ節儉ノ心ハ其身ヲ存ス

候草々謹言

●碁會に誘ふ文

近來は久敷不快輸贏候處追々御上達の事と奉存候本日ハ某禪寺に於て碁會を開き候由にて案内に接し候就ては午後三時より御同伴仕度烏鷺奮先生も臨席まて中々盛會の趣に御座候先ゝ御誘迄如此に御座候會費は五十錢と申事に御座候草々

●仝返事

花書飛來難有拜讀扨御申越の趣了承仕候就ては小生ハ碁會へ參會仕度と存居候處へ幸ひ尊意を忝くし速かに決心仕り本日は必ず參會仕候間本日正午頃より貴宅へ相伺可申候に付是非に御同行被成下度願上候不備

●誘引を斷る文

拜啓昨日はパノラマ縱覽御誘引被下是非御同伴可仕旨御答申上置候處朝來無餘所用向にて愚妻共奈良の親戚迄爲罷越候に付留守居無之就ては甚殘念の至に候得共今日の御高誘には相背き候間不惡樣御承引被下度候御歸館の節御立寄被下御話相伺度幸に到來の品ゝ有之候に付鳴酒を温め御待申居候右は御斷迄如此御座候早々不備

●仝返事

以手紙申上候扨只今御申越の通り本日は御差支有之候に付「パノラマ」見物御見合之趣委細了承仕候先は右御答まで早々不一

●湯治誘引の文

一簡啓上仕候此頃は暑氣日增しに甚しく候處御老兄愈御清勝奉賀候然らば野生義親友の勸

可なるものなり

第五姫蠶　此種は兵庫縣下には飼育するもの多き由なるが糸量小なくして余り良種にはあらざるべし

抑も蠶種の鑑定は甚だ六ケ敷ものにて上作の繭を以て製したる種か不作の繭を以て製したる種か良繭を以て製せしか惡繭を以てせしか又は玉繭を以て製したることは卵面にては容易に鑑定し能はざるなり故に健全良好の蠶種を購ふには其製造家の

○珠玉寶ニアラズ節儉是寶ナリ

○節儉ノ要道ハ小利ニ意ヲ注ガンヨリハ寧ロ小費ヲ省クニ如カズ

○節儉ヲ守ランヨリハ寧ロ奢侈ノ心ヲ禁ゼヨ

○利子ヲ取ランヨリハ利子ヲ出スヿ勿レ

○入ルヲ量リテ出スコトヲ爲セ

○負債ハ製儉ノ鋒刀

めにより昨年の夏期休暇に有馬温泉へ入浴仕候處頗る効能有之候樣相感じ候に付今年も保養旁二週日間程滞留の見込にて湯治致し度候老兄御意如何若し御同遊被下候得ば日々碁戰之友を得て大慶之事に候右視穎申上候敬白

●仝返事

愈々御安福奉賀候陳者今般の夏期休暇を以て御保養を兼ね御鬱散の爲め有馬温泉へ御入浴被遊候に付き御高誘を蒙り難有奉謝候實は小生も持病之爲め年々寒氣に向へ候得ば難義致候に付佳朋有之次第湯治仕らんと存居候處にて願ふてもなき僥倖に候へば何卒御同伴被下度且又御出立前一寸御通知被下度先は要用のみ拜復

●凌雲閣に同遊を勸むる文

養蠶の豐凶より攝論の如何まで能く見届けたる上にわらざれば安心して購ふことは出來ざるなり然れども遠く距りたる地方より購求するときは其事實を確めることもならざるが故に近來諸方にて行ふ所は一郡若くは其最寄にて申し合せ一養蠶期中より彼地へ一兩人を派遣し傍ら養蠶法をも研究させ其養蠶の實況を見て蠶種を製せしめ自ら持ち歸りて飼育者に分配するなり斯くすれ

ヲ錢ラス

○朝餐ヲ奢侈トス共ニスレバ午餐ハ儉シ乏ト共ニシ晩餐ハ汚名ト共ニス

○富貴ニ至ルノ道ハ平坦ニシテ恰モ市ニ行ク路ノ如シ其依ル所ハ唯二語ノミ曰ク勉强曰ク儉約

○吾富ハ我産業ノ大ナルニ在ラズシテ吾ガ需用ノ小ナルニアリ

一書拜呈仕候然ば此頃の好天氣續きにて暖和相催し候る好時節と相成候へば明日休暇に乘じ早朝より天神橋を散歩仕りうれより北の凌雲閣に登覽仕度就ては是非御同伴相願候也

●博物場遊覽誘引の文

愈御清福之段奉賀候却說今日の新聞紙に當地博物場に於て新奇之品陳列相成る由廣告有之候て貴兄に於ても御承了之事と存候就ては幸ひ明日は日曜に候へば万事繰合せ九時頃より出掛け一覽仕度候貴意如何哉若し御同意に候はゞ御同伴可申候早々不具

●神社參拜に誘ふ文

紙上を以て申上候却說御承知之如く明日は今宮の初戎子祭りにて每年ながら相賑はひ候事と存候間快晴に候はゞ弟妹共引連れ參拜仕り

ば流出人の旅費も掛り大事の模なれども一二人の旅費位は各家の收獲上に就きて見るときは容易に便すべきなり若し之をも行はざれば十分信用ある製造家に就きて製糖中より注文するを第二の策とすべし

○糖糸の純雜を驗する法

糖糸と他の織物原料即ち羊毛、木綿、亞麻等と合せたるものを分析するの方法は近頃ジーベルソー氏の發明に因て知らるゝに至れり氏は初め糖糸と野蠶糸との混合物を分析して其混合の割合を量りたり却說試驗の方法は「コロールアエン」を沸騰せしめ驗知せんと欲する物質を其液中に入沈するにあり蠶糸は此液体ポーメー氏の驗液器にて僅に四五度のものに於て直ちに溶解すれども之に反して野蠶糸は右の試業液即ち「コロールアエン液なり」驗液器六十度以上の强度を示す時に非ざれば

○著ルモノハ富テモ足ラズ儉ナルモノハ貧クシテモ餘リアリ

○一滴ノ草露モ積レバ覺ニ湖水トナル

○金錢ノ入リ來ルベキ途上ニハ門戸ナシ

○金ヲ働カサヽル人ハ實ニ金ノ番人ナリ

○愚者ハ妄ニ財ヲ貯ヘ智者ハ適宜ニ財ヲ用ユ

度他に御差支も無之候ハヾ御同行相願度候也

● 茸狩誘引の文

拜啓愈御多祥御勉學之段奉賀上候陳者明日は運動旁何處へ茸狩仕度候若し貴兄にも御差支無之候はゞ御同遊は如何に候哉一應御窺ひ申上候也

● 觀劇に人を誘ふ文

拜啓陳ば今度東京の名優市川雁十郎等外數名來阪して辨天座に於て大岡名譽敵談及び有名の福地櫻痴居士脚本に係る曾我兄弟の復仇を演せらるゝ由就ては御同樣嗜好の道に候へば本日十時頃より見物仕り度貴意如何御差したる差支も無之候はゞ是非共御同伴仕度先は御誘引迄早々不一

● 仝返事

○一人ノ身富貴ナレバ親戚之ヲ畏懼シ貧賤ナレバ之ヲ輕易ス況ヤ衆人ヲヤ

○富貴能ク人ヲシテ幸ナラシメ又能ク人ヲシテ不幸ナラシム

○家產ハ先祖ヨリノ預リモノト思ヘ

○勘メバ貧キニ勝ヲ愼ハ禍ニ勝ツ

○点滴ノ重モ積レハ遂ニ槽ニ滿ツ

○滿腹ハ人ノ前ニテ

御來示の如く這回東京より屈指の俳優來阪ありて辨天座にて開場致し居る由是非共一度見物仕り度存じ候處幸ひ御高誘に預り奉謝候殊に藝題も新趣向之由に候へば何は兎もあれ正午より御宅へ向け參上仕り御同伴可申先は返事迄匆々不備

● 觀兵式見物誘引の文

拜啓寒氣甚しく候處愈々御淸福奉賀候却說明日は例年の通り陸軍始にて練兵場に於て觀兵式擧行有之候由就ては御同覽如何に候哉万一縱覽券等も未だ御求めにも不相成候はゞ當方に有之候間御心置なく御來駕被下度此段奉願候也

● 仝返事

愈御淸康奉賀上候扨て明日は例年の通り城南

決して溶解することなきなり

故に両繊糸の混合物に就き其混合の割合を知らんと欲する時は只之を「ポーメー」氏の験液器にて四五度に至れるコロールアエン液中に沈入すること凡そ一分時間なるを以て足れりとす斯くすれば繊糸の部分は瞬間に溶解するも野蚕糸に至りては著しき変化を受けざるべし蚕糸は羊毛、木綿、亜麻等の混合を験定するも亦た同様なり

○窓ノ汚点ハ金ニテ拭フ

○飯リアル日ヲ待ッテ金ヲ蓄ヘント欲セバ遂ニ貯フルノ時ナシ

○袋ノ口ノ善ク締ルハ物ノ一杯入ラヌ中ナリ

○金ハ儲クルニ術ナク之ヲ貯フルニ術アリ

○借金ノ為ニ起キヨリハ寧ロ貧サズに於て観兵式の挙行有之由御誘引被下忝く奉存候小生は素より縁故無之未だ縦覧券とても無之候へ共御来示に依り御邪魔可仕候早々拝復

◎借用の部

器具を借りに遣す文

拝啓陳者今朝突然某地の友人来遊之処同氏は兼て圍碁を嗜み候へば以て半日の閑を消し度就ては恐入候へ共碁局御明に候得ば暫時拝借仕り度自然御閑暇も候はゞ御来遊被下度此段併せて願上候早々不悉

金子借用を乞ふ文

以手紙申上候愈々御清康奉賀上候偖突然之義に候へ共至急金圓入用出来致し少々不足を相生じ候ゆ付甚だ御申兼之至りには候得共来る何日迄御繰合せの上金百圓拝借仕度若し御聞届被下候はゞ早速証書持参仕るべく候右御報を得度何分宜ろしく奉願候也

書籍借用を乞ふ文

秋涼稍〻候し候処愈御達者之段何より奉賀上候さて御大切の日本外史暫時拝読仕度一読次第返納可仕候自然御許可に相成候はゞ何卒此者へ御渡し被下度此段御依頼申上候早々不尽

全返事

偖只今は日本外史御入用の由にて御申越に相成り慥かに承知仕候依て御使に附し候間御緩りと御覧被下度候也

返済金の延期を乞ふ文

○家雞飼養法

第一配偶の頭数　配偶の頭数は雄一羽に雌八羽乃至十二羽を以てす此を飼雞家は一群と云ふなり放飼の際は数群を雑居せしむべからず何となれば其中強雞あるときは弱雞の挙尾を妨くる者あるが故に卵を産すること自然と不同なるべし故に成る丈け雞居せしめざるを要す

第二食物　玉蜀黍を細末にして与ふること最も緊便とす然れども一シテ渡ルニ如カズ

○借債ヲ生ゼンヨリ何日モ寧ロ喫セズシテ眠リニ就クをベシ

○節スルニ制度ヲ以テス財ヲ傷ラズ民ヲ害セズ

○浪費ハ鑢ノ如シ家財ト身トヲ磨滅ス

○銭アレバ常ニ銭ナキノ日ヲ想ヒ安楽ナレバ常ニ病患ノ時ヲ思へ

○金ヲ借リニ行クモ口ヲ開ク

物のみを以て足れりとせず故に米麥を雜へ又蕎麥馬鈴薯日向薬の實其他庖厨の菜物を與へて可なり食物の量は一羽に付き大凡そ一合の割合を以て朝夕二度與ふるは可なり其余は飼雞場に在て諸虫を啄去する故に飼料を與ふるに及ばず然りと雖ども冬時之出なきを以て其心して適當の食餌を與ふべし

第三卵の孵化　均しく牝鶏の中にも卵を孵するには巧拙あり中にもカシワと稱する牝鶏に孵せしむれば腐敗することの少しとす其大きさカシワの卵の如き者ならば六を孵化すべし時としては八頭を孵化すべし然し悪く孵化することなくとも一二を損するに過ぎず左れば抱せしむる卵の大小により折衷すべきなり

第四飼鶏掃除　頭數多きに至れば耕作を害するの恐れあり因て鶏舎掃除を怠んには始めより鳥の爲めに損害せられざる植物を植ゆべし

ノハ雛ヲ取リニ行クモノナリ

○衣服ハ成丈ケ分チ體裁ヲ整フル彩色ト云フニ過ギズ

○庖厨ヲ小サクスレバ家産ヲ大キクスルモ猶且延引候節ハ證書通りに御執行被成下度先は御願迄早々不備

◉祝賀の部

官に就くを賀する文

前略承り候へば貴兄には這回某官に御就任相成候由誠に以て御結構の御事と奉賀候付ては實に吾輩までも肩身の廣き心持いたし欣賀に堪へず是れ全く平素の御才徳と勉勵との然らしめたるものと存じ候先ず書中を以て御祝賀申上候何れ其内參上万々御祝ひ可申候早々

婚姻を賀する文

拝啓承り候得ば御令息様には今回某氏の令嬢たれ殿を御迎へ被成候由誠に以て御一家御繁昌の基と奉賀上候就ては甚だ麁末には候へ共此品御祝の印までに獻上仕候間御風味被下候得ば幸甚何れ不日參上萬々御祝賀可申上候へば不取敢以書面右様迄早々不盡

全返事

尊書拝見仕候悴事今般某氏と婚儀相調み先々安心仕候付ては早速御聞込に相成り候て結構なる品幷びに御贊辭に預り實に難有深く御禮申上候何卒御閑暇に候へば御枉駕有之度先は右御禮まで斯くの如くに御座候早々不悉

降雨のときは雨を凌ぐべきを要すれば鶏舎には專ら棕櫚を植え付くるを宜しとす棕櫚畑は常に鬱蒼たれば凌雨場となるを以てなり例令ば養鶏場に五羽の鶏を飼養せんには一反歩の地を二大區とし一區を小五區に別ち一群づゝにして放遊せしむべし

第五巢の構造　場所により便否を異にす故に先づ可成空氣の流通を能くし掃除を怠らず鶏の健康を保たしむべし

向は東南に面せしむべし巢の中床には小石を敷き平常乾燥ならしむるをよしとす棲木の下にも板を横へ糞受となし二十日又一ケ月に一度づゝ此板を取り出し清潔に洗除すべし鶏糞は肥料となし遣た有功の者なれば洗汁と雖も猥りに捨つべからず巢箱は中に卵を産するものなれば又其設なかるべからず是は巢中棲木の下に附すべし中に綿を入れ温和にして且卵の轉轉せざるを要す

○農業の部

○玩弄物ハ金ヲ失ヒ又志ヲ失フ本ナリ

○無キ時ニ辛抱有ル時ニ節儉

○繁榮ハ動モスレバ浮華ト宿ヲ同ウス

○錢ハ耳ナクシテ聞クベシ錢アルキハ鬼ヲモ使フ況テヤ人ヲヤ

○客嗇ハ慈惠ヨリ却テ經濟ノ理ニ反ス

○奢者ハ心常ニ貧シク儉ナル者ハ心常ニ富ム

○醜ハ人ノ尊ブ所ニシテ儉ハ人ノ賤トスル所ナリ

○儉ニ非ズンバ以テ廉ヲ養フ無シ廉ニ非ズンバ以テ德ヲ養フ無シ

○志驕侈ナルキハ則チ心肆マナリ志客嗇ナルキハ則チ心鄙シ

○力ヲ勉ムルハ富ニ赴クノ道路ナリ德ヲ務ムルハ福趾ニ向フ道路ナリ

○金穀節儉部

二百九十六

安産を賀する文

拜啓陳ば御賢室昨宵御平産殊ニ男子にて御母子ともに至極健全の由誠に大慶之至りに奉存候嘸々御老人樣に於ても御滿悅の御事と奉察候就ては甚だ粗末の品にハ候得共此品聊か御祝ひのしるしとして爲持上候御叱留被成下候はゞ幸甚の至りに御座候先は右御祝まで如斯に御座候也

全返事

御尊書之如く愚妻昨夜分娩仕候に就ては早速御聞込に相成候て結構なる御祝儀に預り難有奉存候就ては母子ともに至極健全に有之候間御宥慮被下度猶又明晩は午後何時頃より聊か內宴相開らきたく候間是非御來駕被下度先は御禮かたがた右御案內申上候拜復

病氣全快を賀する文

拜啓此程より御病疾にて御痛慮あらせられ候處藥石速かに其功を奏し御全癒被遊由目出度奉存候此品些少に候へども進上仕り候御病后の御養生にも相成り候はゞ恐惶之至りに御座候早々頓首

年賀を壽ずる文

拜啓御祖父樣御事今年は丁度古稀の御高齡に被爲成候由にて御賀筵御催し之趣き小生等迄も御招待被下難有拜承仕り候人生七十古來稀と申し候へば御親父樣の如く御健全なるは稀中の稀と存候全く高德の應報にて聖代の人瑞と可申候就ては此物聊か御祝儀までに進呈仕候早々拜具

全返事

○普通門○祝賀の部

二百九十七

べし

○病雛の治療法

飼鶏中一種の傳染病あり其病性最初は呼吸に苦しみ漸次口鼻へ粘液を出し甚だしきに至つては両眼を閉ぢ食物を求むる能はずして斃る此際には卽ち該病を疫したる鶏は速かに他の健全なる鶏と隔離して傳染を防ぎ斯くして慥の白根の莖だ大ならさるものを一寸二三分に細切し之を温厩中に投入して蒸焼し病鶏に與ふるなり一度に右の如きを三四本位一日に四五回給與すること數日なれば果たして治療するものなり是れ余が現に實行して有効なれば世の養鶏家に頒つ

○又一説

傳鶏中呼吸病などに罹るは卽ち食餌の良と不良とに起因す該病に罹りたる病鶏を治療するには玄米に鶏卵を交へ糂よく調和して日々之を食餌とせば生育上大に有効なり

○犢牛の育て方

牛の産後に於ける數日

○金錢ヲ愛スルノ心

ハ金錢ヲ增スニ循テ愈々增ス

○嗚呼黄金ヨ汝ハ痛苦ト心配トノ間ニ生レタル諂訹者ノ父ナリ汝ヲ有ツハ恐懼ナリ汝ヲ有タヌハ痛苦ナリ

○浪費者ハ子孫ノ財ヲ盜ミ守錢奴ハ自己ノ財ヲ盜ム

○金錢ヲシテ金錢ノ働キヲ爲サシメザレバ死石ヲ抱ケル

衆雲拜誦仕候陳者祖父賀筵の御祝儀として美珍の御肴澤山御惠投被下難有何とも御禮の申樣も御座なく痛入申候素より御賛辭には相當り不申候得共斯く長命を保ち候て小生等の幸福にて是も全く聖代の御恩報と奉存候尚明日は早々より御來駕被下度待入申候先は御禮旁如斯に候也早々頓首

◎學校卒業を賀する文

拜啓仕候扨ては御賢息樣今度高等小學全科御卒業被成殊に御成績も優等の由御滿足の御事と奉賀上候乍輕儀英和字彙一部御祝として進上仕候先は御祝詞迄如斯に候早々不尽

◎全返事

衆雲拜見仕候却説愚子儀も鬪俸にも此度高等小學全科卒業及第仕り候に付ては早速御祝詞を蒙り且有益の書籍御贈り被下難有拜納仕候尚前途頗る遙かよ候へば將來永く諸君の御教示に預るべく候先は右返事迄何れ不日參上之節萬々御禮可申候再拜敬具

◎家屋新築落成を賀する文

一筆啓上仕候承り候へば先度より御別莊新築被成居候處愈々御落成相成候由慶賀此事に御座候就ては早速參上御祝ひ可申の處取込申候に付書中を以て御歡申上候絨氈一枚乍輕品御受納可被下早々不一

◎謝禮の部

◎器具を借りたる禮狀

以手紙申上候先日は甚だ失禮の義御願申上候處早速御承諾被成下御秘藏の物品御持せ被下

間の乳汁即ち初乳は之れを平常の乳汁に比するに一種の固形物を含蓄すること夥る多しとす而して之れに多量なる蛋白質を包含せるも脂肪及び糊分に至りては極めて僅少なるを以て容易に消化し得べく且つ之を寛下剤に用ゆるも其効少なからざれば腸胃の停滞物を排除するに於ても亦た極めて妙なりとす故に初生の犢牛を養育せんには徒らに程々の食資を用ゐんよりは只其母牛の乳汁を以て足れりとす然り而して追々と日数を経過するに従ひて初乳は自から漸次に其性質を変化し凡そ一週日後に至れば全く常に復して其滋養分も常乳に異ならず斯く初乳の常乳に復したる後は犢牛を養育するに其母牛の乳汁を以てするも或は他牛の乳汁を以てするも其利害に於ては更に異なるところなし凡べて乳汁は幼畜の生活上一日も欠くべからざるものなり故に生産後

銭ヲ浪費スベカラズ一圓ハ只一銭ノ堆積セルモノヽミナリ

○償欠ハ自主ノ人ヲシテ奴隷トスルモノナリ

○節倹朴素ハ人ノ美徳ナリ

○一片ノ断雲モ以テ太陽ヲ蔽フニ足ル

○土地財本労働ノ三ツノ者ハ人其財産ヲ得ルノ基本ナリ

○後張ノ準備ヲ為シ今ノ用度ヲ節シ善

奉感謝候御蔭にて無事に相済ませ申候厚く御礼申上則ち返完仕候間御査収被成下度此品粗末ながら御子供様へ御分配成し被下度先ヶ御礼まで餘は不日参堂万々可申謝候早々再拝

㊐饗應後人に謝する文

拝啓先日は参上仕り意外の御厚饗に預り忝く御礼申上候其節は痛く泥酔仕り如何致して帰宅仕候哉今に夢の如く前後不覚定めて失礼の挙動有之候はんと心配致し居り候何卒御海恕被下度奉謝候其節拝借申候提灯只今御返却申上候右御礼旁如斯御座候御家内様へ宜しく御傳言被下度候也早々頓首

㊐粗忽を謝する文

拝啓過日御示談の趣大抵は埒明可申と相考へ直ちに御引請申上候得ども先方中々思の外頑固にて種々と申募り万手秘術を尽し候へども到底小生の手に付き合ひ不申追々白数を費し今日に至りて否申上候ては貴兄の御困却萬々察し上げ候へども右の次第にて悪しからず御承知ありて他の御可然人を御差し向けに相成候様致され度右陳謝まで如斯に候巨細ハ拝眉の節に譲り可申候頓首再拝

㊐醫師に謝する文

拝啓陳ば此程は長々病床に打ち臥し殆んど泉下の客と相成るべくの處尊君一診后ち御蔭を以て速に快方仕り十数日の間に復元仕り回生の鴻恩難有拝謝仕候就ては乍軽少御薬禮一封粗菓料一封御禮の験までに進呈仕候御笑納可被下候猶近日拝顔の節御禮申述べく候早々不尽

は少なくとも大凡二週間計りは專ら乳汁のみを以て飼養するを肝要なりとす斯の如くなして生育宜しきを得ば徐ろに乳食を去りて常食に就かしむべきなり其常食に就かんとするの際と牧畜家の須らく注意を要すべき處にして意を用ゐすんば或は其体質を損し或は其生長を妨ぐるのみならず遂だしきと斃死せしむるもあり要するに只其生育期の變する時に於て務めて急激の變を避けしむることに意を用ゆべきなり

求メテ寡少スルハ義ナリ儉以テ家法トスルハ禮ナリ儉以テ子孫ニ傳フルハ智ナリ

○不用ノ物ハ一毛ニシテモ尚ホ價高シ

○孤弱困滯モ錢ニアラザレバ扳ケズ怨仇雖深モ錢ニアラザレバ解ケズ令聞笑談モ錢ニアラザレバ登ラズ

○窮ル者ハ逸樂ヲ好ミ儉ナル者ハ恬淡ヲ好ム

●野菜を贈られしを謝する文

尊園に御手栽の紅菜送り被下折柄某氏來會一盞相慰けの者に致し候處別に風味宜しく奉賞玩候何れは拜顏之上御禮可申述候仍暑毒御家中へ宜敷御傳言を乞ふ拜復

●惠物を問合す文

拜啓陳ば先夜は參上仕り久々の御物語りに不圖長坐仕り御迷惑之段奉謝候其砌煙草入貴宅へ忘れ置き申さず哉歸宅致し候て相探がし候へども何處にも無之定めて貴家に忘れ置き候歟と存じ候仍本爾御伺ひ申上候也早々

尺牘門

●新禮ヲ賀スル文

玉曆茲ニ新タニ萬象相雍キ福祉輻リ至ル松蓋翠竹以テ千門ノ万年ヲ表ス伏シテ惟フ瓊体清康龜齡ヲ添フ慶暢ニ堪エズ弊堂モ亦瓦全馬齒ヲ加フ幸ニ尊慮ヲ煩ス勿レ謹テ尺緒啣カ斯ノ吉辰ヲ賀ス

（頻語）鳳層維新○千戸萬門旭旗風ニ舞ヒ松翠葉綠春ヲ呈ス○尊家ノ萬祥ナル知ルベシ○犬馬ノ齡ヲ添フ○晉ニ倍シテ愛願ヲ垂レ賜ハンコトヲ祈ル

●同復文

鳳紀初メテ頒ツ慶徵津々此ノ首祚ヲ開ク夙ニ芳書ヲ辱フス展拜披閱シ高家迎陽ノ嘉祥ヲ審ニス洵ニ以テ抃賀スルニ堪タリ寒家モ亦無恙歲ヲ重ヌ冀クバ高慮ヲ安ゼヨ肅復ス

（頻語）早ク賀新ノ誉ヲ惠セラル○動靜ノ萬福ナル慶スベク賀スベシ○幸ニ年齒ヲ加フ○敢テ賀詞ニ答フ○都テ永陽ヲ期スルノミ

●紀事論說文門

○應擧ノ書ヲ記ス

應擧晩秋野亭ノ圖圖花葛花桔梗天竺龍膽等雜卉數十種雖披掩映青綠粉末縱橫迹沫彩奪目ヲ奪フ書成テ後幷ビ銀泥ヲ用ヒ亂點露花凝結ノ狀ヲ作ス青想大墜其徒ノ得テ企テ及ブ所ニ非ザルナリ

○大雅堂ノ墨竹ヲ記ス

予嘗テ京師裕子惠ノ家ニ於テ明人便面書畵ヲ觀ル許ルニ三十餘裝シテ屏風ト作ス並ニ名家

尺牘類語

新正賀

三微緒ニ入リ萬象鼈ギ羅ナリ○玉曆朗ヲ正ス○三陽辰ヲ啓ス

福履吉ニ迪ンテ察セヌヲ知ル可キ也○福祉享嘉○曷ゾ催ス躋ニ勝ン○慶暢ニ勝ス

朝來氣暖ニシテ四海新ヲ迎フ○曙色融々○千里同泰

想フ已ニ足下早ク風

眞跡珠玉輝ヲ合セ一堂ニ照一耀ス最後ニ更ニ一屏ヲ出ス風竹ヲ作ス竿大イサ尺余葉モ亦之ニ稱フ廻ヲ池翁ノ筆也揮筆動乍チ縱狂雲倒ニ奔リ怒濤横ニ卷ク觀ル者爽然自ラ失ス蓋シ此翁膽力許大大山ヲ壓シ江海ヲ呑ム前ノ觀ル所ノ便面書畫悉ク丘壑行潦嶼ニ神彩ヲ減ズルヲ覺ユルナリ

○雲井瀑布ノ二櫻ヲ記ス

天下ノ名花首トシテ芳野ヲ推ス芳野ノ名花首トシテ雲井ノ瀑布ノ櫻ヲ推ス瀑布ノ櫻ハ數千株連屬ニ附緣ス下ヨリ之ヲ望メバ銀河ノ倒ニ落ツルガ如ク雲井ノ櫻ハ則縹緲高山ノ巓ニ在リ昔テ元弘帝ノ叡賞ヲ邀フ御製有リ新築集ニ載ス世ノ芳野ニ遊ブ者ハ徒ニ一目千本ノ盛ヲ稱シテ而シテ二櫻ニ及バズ豈ニ眞ニ花ヲ賞スル者ナラン哉

○鶴ヲ記ス

鶴ハ一名ハ仙禽羽毛一ナラズ白鶴尤モ佳ナリ足ノ高サ三尺喙ノ長サ光ヲ占テ○諒ニ亦吾ガ兄○君ガ家ヲ料リ得タリ○造化ノ數衆ノ寒梅雪枝ニ滿ヲ東風尙ホ料峭柳伸ビス鶯啼カズ只徒ニ閑人ト爲リ爐邊ニ古詩ヲ繙ク高閣近狀異ナキヤ否ヤ此ニ薄酒ヲ奉ズ聊カ鬱悶ヲ省センコトスルノミ伏シテ叱入ヲ祈ル此ニ寸箋ヲ以テ左右ヲ候ス

（類語）餘寒猶ホ料峭トシテ去ラズ○柳眼未タ開カズ猶召未ダ嬌ビズ○今年ノ寒ハ去年ニ比シテ多シ○日ニ爐邊ニ橫臥スルノミ○雖デ起居ヲ候ス

同復文

黃雲白雪徒ラニ縮首爐ヲ擁スルノミ今衆箋ヲ得テ以テ足下ノ起居ヲ知ル且ツ賜フニ香酒ヲ以テス洵ニ以テ手足ヲ伸スニ足ル多謝ス今又貴介ニ托シ粗品ヲ呈ス若シ晩酌ノ興ヲ補フアラズ奇榮ナリ書余拜芝ニ尽ス

春寒人ヲ問フノ文

數衆ノ寒梅雪枝ニ滿ヲ東風尙ホ料峭柳伸ビス鶯啼カズ只徒ニ閑人ト爲リ爐邊ニ古詩ヲ繙ク高閣近狀異ナキヤ否ヤ此ニ薄酒ヲ奉ズ聊カ鬱悶ヲ省センコトスルノミ伏シテ叱入ヲ祈ル此ニ寸箋ヲ以テ左右ヲ候ス

（類語）餘寒猶ホ料峭トシテ去ラズ○柳眼未タ開カズ猶召未ダ嬌ビズ○今年ノ寒ハ去年ニ比シテ多シ○日ニ爐邊ニ橫臥スルノミ○雖デ起居ヲ候ス

同復文

黃雲白雪徒ラニ縮首爐ヲ擁スルノミ今衆箋ヲ得テ以テ足下ノ起居ヲ知ル且ツ賜フニ香酒ヲ以テス洵ニ以テ手足ヲ伸スニ足ル多謝ス今又貴介ニ托シ粗品ヲ呈ス若シ晩酌ノ興ヲ補フアラズ奇榮ナリ書余拜芝ニ尽ス

トシテ雲井ノ瀑布ノ櫻ヲ推ス瀑布ノ櫻ハ數千株連屬ニ附緣ス下ヨリ之ヲ望メバ銀河ノ倒ニ落ツルガ如ク雲井ノ櫻ハ則縹緲高山ノ巓ニ在リ昔テ元弘帝ノ叡賞ヲ邀フ御製有リ新築集ニ載ス世ノ芳野ニ遊ブ者ハ徒ニ一目千本ノ盛ヲ稱シテ而シテ二櫻ニ及バズ豈ニ眞ニ花ヲ賞スル者ナラン哉

○鶴ヲ記ス

鶴ハ一名ハ仙禽羽毛一ナラズ白鶴尤モ佳ナリ足ノ高サ三尺喙ノ長サ

臘雪作ニ沖テ梅兄ヲ先ツ妍シ○池頭凍解ケ○柳眼金ヲ舒ブ

（類語）既ニ春ニ入リテ氣猶ホ多ノ如シ○爐ヲ擁スルノ他餘事ナシ○木綿衾裡ニ居諸ヲ送ルノミ○偶マ美祿ヲ惠セラル以テ寒風ニ敵スベキナリ

友ヲ招キ花ヲ賞スル文

一雨初メテ度リ春光頻リニ觀ヲ改ム弊園ノ櫻花既ニ笑ヲ呈ス此際花ニ席シ白ヲ浮ベ快笑シ以テ一日ノ清歡ヲ爲サント欲ス兄其レ肯テ來臨セン乎伏シテ答報ヲ竢ツ

（類語）春風暖ヲ送リ庭梅始テ開ク○瀕夕春信ノ庭ニ入ルヲ見ル○友人ヲ曾シテ看花ノ筵ヲ設ケントス○岩シ叡ヲ枉グラルレバ花ト共ニ至榮トス

同復文

淑氣融々百花競テ開キ吾人ヲシテ勃々トシテ游情ヲ起サシム忽チ芳召ノ衆箋ニ接ス余豈ニ高賜ヲ辭センヤ將ニ趨テ之ヲ拜セントス匆卒

四寸丱頂赤日修額短尾行必ラズ洲渚ニ依リ止ル必ス林木ニ棲ル心性閑放音響清高時有リテ雌雄對舞シ宛轉觀ル可シ若シ其飛舞セシメント欲セバ宜シク其餌ヲ俟テ食ヲ遠所ニ置キ掌ヲ拊テ之ヲ誘ヘバ則翼ヲ奮テ舞フ調練之ヲ久フス則ヲ一タヒ掌ヲ拊ツヲ聞カバ必然トシテ起舞ス

○象ヲ記ス

某地ニ象アリ性烈甚怒ナリ曾テ一日怒ヲ發シ檻ヲ遁シテ狂走ス市人皆逃竄ス內一婦其兒ヲ抱クヲ忘ル衆爲メニ危懼ス以謂ラク必ズ象ニ死サレント象來近ツキ忽チ鼻ヲ以テ兒ヲ抱キ路石ノ側ニ置テ去ル衆怪テ其故ヲ問フ益シ婦實來ヲ以テ衆ト爲ス象ノ過グルニ迨フ每トニ則余菜ヲ以テ象ヲ倒フ象是ヲ以テ其德ニ報ズルナリ

㊂遊記

○墨堤花夕ノ遊ヲ記ス

雪カ雪ニ非ラズ雲カ雲ニアラズ淚々一色吾レ此ニ茜僊ヲ辨シテ卸テ某ノ里ヲ約シテ同往ス○轡ヲ竝ベ○醉スンバ歸ラサル耳

春遊答

吾ガ殿レタルニ非ズ事ノ紛冗ヲ奈ンセン○遂ニ跗蹋ニ及ブ

春色人ヲ惱マス豈ニ一醉ヲ憚ン○飜日熙和

諸兄慰訪此ニ在リ○卽チ以テ忖逐セン

以テ暢晤スベシ○

一叙○先ツ映儀ヲ辱フス

約ニ春遊ヲ贈

正ニ洛陽三月ニ屆ツギン○尊閫ノ梅花ハ近境ノ素賞スル所○必ズ陪席ヲ乞フベシ○何ソ眷信ニ辜負スベケンヤ

春遊ヲ誘フ文

光風和ヲ吹キ紅絲江南ニ洽シ鳴呼一年ノ樂此ニ在リ聞ク櫻祠ノ春正ニ中ナリト將ニ明日ノ閑ヲ偷ミテ杖ヲ曳ントスソレ一朝風雨ニ逢テ良期ヲ失セン乎豈悔ユトモ及ブ可ンヤ足下意アラバ幸ニ節ヲ枉ゲヨ

（類語）是山是川方ニ春遊ノ好候トス○李白桃紅山又山○空シク芳春ニ負クハ爲サヽル所○乞フ共ニ遊バン○同ジク隣醵ニ策タン○他事ヲ以テ辭スル勿レ

同復文

環拱ノ山川和氣ヲ鍾メ檢露野ニ襲キ濃艷庭ニ拜復

（類語）韶光遊ビヲ促ス○忽チ寵招ヲ蒙ル何ノ幸カ之ニ過ギン○尊閫ノ梅花ハ近境ノ素賞スル所○必ズ陪席ヲ乞フベシ○何ソ眷信ニ辜負スベケンヤ

春遊ヲ誘フ文

光風和ヲ吹キ紅絲江南ニ洽シ鳴呼一年ノ樂此ニ在リ聞ク櫻祠ノ春正ニ中ナリト將ニ明日ノ閑ヲ偷ミテ杖ヲ曳ントスソレ一朝風雨ニ逢テ良期ヲ失セン乎豈悔ユトモ及ブ可ンヤ足下意アラバ幸ニ節ヲ枉ゲヨ

（類語）是山是川方ニ春遊ノ好候トス○李白桃紅山又山○空シク芳春ニ負クハ爲サヽル所○乞フ共ニ遊バン○同ジク隣醵ニ策タン○他事ヲ以テ辭スル勿レ

同復文

環拱ノ山川和氣ヲ鍾メ檢露野ニ襲キ濃艷庭ニ

笑フ此レ正ニ華城ノ盛春ナリ豈造次モ花王ヲ忘ル可ケンヤ今ヤ佳誘ヲ蒙ル豈乏ニ負クニ勝ヘンヤ正ニ應ニ百事ヲ廢シ高蹤ニ倍スベシ拜復ス

（類語）遊ハ素ト僕ノ自ラ做ル所ナリ○足下ニ先ンゼラルヽ耻ヅ○淸晨拿門ヲ叩クベシ○若シ一雨ニ遇ヘバ實ニ一年ノ憾事ナリ○今ヨリ旦ヲ竢ツ

梅雨ニ友ヲ招ク文

濕雨兼旬綠愈々暗ラク鶯聲益々老フ書窓寂寞況味蕭然自ラ秋ノ如ク瞥騰空シク凡邊ニ欠伸スルノミ偶々某友劉公ヲ來ラス孤酌洵ニ惜ム可シトス倘シ吾兄泥途ヲ厭ハズ以テ娛ヲ俱ニスルアラバ徒ニ魏齊ノ援ノミニアラズ不尽

（類語）梅雨霽々豈モ亦晉シ○弥ニ蛙鳴ノ唾ヲ媒スルアリ○獨書窓ノ下ニ閑坐スル何ゾ無聊ヲ破ブルヲ得ンヤ○君

其花爲ルヲ知ル也月光ハ水ヲ射波光花ヲ浮ベ月花水ト映發シ之ヲ水晶宮ト謂ハン乎將タ銀世界カ一身飄々恍鶴ニ跨リ風ニ御シ玄圃閬花ノ間ニ遊ブ者ノ若キナリ光色空明ノ中四顧徘徊トシテ人ヲ見ズ唯冷香沁ニ肌骨一ヲ覺ルノミ

○石卷山記

三河ニ奇山ナシ唯一ノ石卷山有リ其山ト爲ル一腹以上ハ全骨ニシテ肉無シ特立數千仞益シ迷物者一州ノ奇石ヲ收ヲ分タント欲ス○幸ニ三領ヲ加ヘ日

○豈ニ命ニ爽ンヤ

賞花賜

敝莊一種ノ垂絲海棠○燁々トメ方ニ開テ高門ヲ訪ハントス多謝ハ拜芝ニ在リ敬復

（類語）梅雨眠ニ宜シ○懶眠方ニ足リテ復タ餘事ナシ○此ノ佳招ヲ領ル何ヲ以テ辭セン○何ゾ泥濘ヲ厭ハンヤ○陰森人ヲ惱ス鬱悒散ズルニ由ナシ

暑中友ヲ問フ文

祝融熱ヲ放ツ甚フシテ餘中ニ坐スルガ如シ矧ンヤ弊廬一些ノ涼ヲ假ルノ術ナシ知ラズ瓊堂清涼ナルヤ否ヤ是ニ候問ノ微意ヲ表スルノ爲メ聊カ西瓜一果ヲ奉呈ス莞存アラバ幸甚々々

（類語）炎威赫々敵スベカラズ○開ク窓晷鍼九十度ニ過グ○今夕水樓ニ會シテ涼酌ヲ儻サレ○氷片以テ足下ノ燃ヲ分タント欲ス○幸ニ三領ヲ加ヘ日

賞花啓

奇庭ノ奇花○正ニ十分ノ輪盈ニ餘ル○春懷ニ富ム○太ダ憎ム可シ○忽チ宿召ヲ辱フス謝々○雅鷹弟ガ若キ俺才○豈ニ雅命ニ負カンヤ○敢テ即往ヲ將テ以テ酒試ニ應セン○笑ヲ取ン

上巳贈

萬點ノ明霞一株ノ桃

來諭ノ如ク連日ノ陰雨人ヲ苦シム實ニ甚シ會雅招ヲ辱フシ何ノ喜カ之ニ如ン正ニ泥濘ヲ破テ高門ヲ訪ハントス多謝ハ拜芝ニ在リ敬復

（類語）梅雨眠ニ宜シ○懶眠方ニ足リテ復タ餘事ナシ○此ノ佳招ヲ領ル何ヲ以テ辭セン○何ゾ泥濘ヲ厭ハンヤ○陰森人ヲ惱ス鬱悒散ズルニ由ナシ

暑中友ヲ問フ文

祝融熱ヲ放ツ甚フシテ餘中ニ坐スルガ如シ矧ンヤ弊廬一些ノ涼ヲ假ルノ術ナシ知ラズ瓊堂清涼ナルヤ否ヤ是ニ候問ノ微意ヲ表スルノ爲メ聊カ西瓜一果ヲ奉呈ス莞存アラバ幸甚々々

（類語）炎威赫々敵スベカラズ○開ク窓晷鍼九十度ニ過グ○今夕水樓ニ會シテ涼酌ヲ儻サレ○氷片以テ足下ノ燃ヲ分タント欲ス○幸ニ三領ヲ加ヘ日

賞花啓

奇庭ノ奇花○正ニ十分ノ輪盈ニ餘ル○春懷ニ富ム○太ダ憎ム可シ○忽チ宿召ヲ辱フス謝々○雅鷹弟ガ若キ俺才○豈ニ雅命ニ負カンヤ○敢テ即往ヲ將テ以テ酒試ニ應セン○笑ヲ取ン

上巳贈

萬點ノ明霞一株ノ桃

抬シ以テ此ノ拔ルヲ示スカ某歲某月某日余崇山ヲ過ク卽チ山下ノ村ナリ時ニ天色空濛煙雲往來山ノ四面變幻出沒更ニ一層ノ奇觀ヲ加フ蚤立之ヲ久フシ去ル能ハズ

○舟行ヲ記ス

天鏡河流レ急ナリ上流尤モ進シ船朋村ヨリ横山村ニ至ル時ニ雨後水肥ヘ流レ益急ナリ舟人棹ヲ執リ力ヲ綿メ之ヲ撐フ進ム寸ニシテ退ク尺終ニ達スル能ハズ蒜東坡ニ夕書ヲ學ブ急

來ラバ以テ積鬱ヲ散ズベキナリ

同復文

來諭ノ如ク連日ノ陰雨人ヲ苦シム實ニ甚シ會雅招ヲ辱フシ何ノ喜カ之ニ如ン正ニ泥濘ヲ破テ高門ヲ訪ハントス多謝ハ拜芝ニ在リ敬復

（類語）梅雨眠ニ宜シ○懶眠方ニ足リテ復タ餘事ナシ○此ノ佳招ヲ領ル何ヲ以テ辭セン○何ゾ泥濘ヲ厭ハンヤ○陰森人ヲ惱ス鬱悒散ズルニ由ナシ

暑中友ヲ問フ文

祝融熱ヲ放ツ甚フシテ餘中ニ坐スルガ如シ矧ンヤ弊廬一些ノ涼ヲ假ルノ術ナシ知ラズ瓊堂清涼ナルヤ否ヤ是ニ候問ノ微意ヲ表スルノ爲メ聊カ西瓜一果ヲ奉呈ス莞存アラバ幸甚々々

（類語）炎威赫々敵スベカラズ○開ク窓晷鍼九十度ニ過グ○今夕水樓ニ會シテ涼酌ヲ儻サレ○氷片以テ足下ノ燃ヲ分タント欲ス○幸ニ三領ヲ加ヘ日

同復文

燄暉ノ宝徽々ノ涼モ容ルベキナク半畝ノ竹園以テ爽音翠影ヲ爲スナク七難八苦正ニ日ノ西山ニ傾クヲ待ツノ外又他ナシ忽チ高使ノ佳聘ヲ辱スアリ謹テ領ス感謝感謝園池ノ荷花一衆硯北ノ清娛ニ供ス豈ニ敢テ之ヲ酬ユト云ンヤ蕭復

（類語）些涼到ルナシ○半ハ是レ病人ナリ○涼ヲ趁フテ幌轉スルノミ○一片口ニ入ル両腋忽チ清涼ヲ覺フ○悪渡頻ニ行ハルトモ加餐萬々

納涼ニ友ヲ誘フ文

祝融烈怒天燬ケ地沸ク處トシテ避クベキ地ナシ只ダ浪華中ノ島ノ邊以テ是ヲ避クルニ足ルノミ足下夫レ外策ヲ以テ之ヲ辭スルナク來駕

流ニ泝ルガ如シ氣力ヲ用ヒ尽シテ舊處ヲ離レズ余始メ坡ノ論ヲ以テ謾ニ然リト爲ス今此河ニ泝ル實舊處ヲ離レザルノミナラズ又舊處ヲ退ク但ダ此ノ際両崖絶壁奇勝言フ可カラス其ノ一處ヲ遄退スルニ因テ縦ニ之ヲ覧ルヲ得タリ亦急流ノ賜ナリ

○嵐山舊遊ヲ記ス

天下ノ名花古今首トシテ芳野ヲ推ス余以爲ラク芳野山有テ水無シ未ダ嵐山ノ最佳ナルニ如カサルナリ嵐山花ノ多キ芳野ニ遜ルト雖ドモ嵯峨牙トシテ水滑駛ス花時ニ方リ之ヲ望ム槎ノ浮ブ橋ノ臥人ノ來往坐立宛ンド畫圖ノ中ニ在リ余閙フ梅花ハ月瀬ヲ以テ最ト爲ス而シテ櫻花ハ嵐山ヲ以テ最トナス皆山川ノ勝ヲ兼ヌル故ナリ余曾テ之ニ遊ブ纔ニ夕ニ至リ去ル能ハズ既ニ月ノ出ヅルニ過フ益〻絹ヲ覺フ遂ニ留リ宿ス翌早旭日ノ升ルヲ候ヒ復タ出デ、之ヲ覩ル芳野儼然溪山ニ溢ル又一奇トナス嵐

花○林塘露ヲ蹴ヒ○羽觴ヲ飛ハス而メ猥通載ヲ歌ヒ戦ヲ酔フ○情ハ古今ニ浹ル實舊處ヲ離レザルノミナラズ又舊處ヲ退ク但ダ此ノ際両崖絶壁奇勝言フ可カラス其ノ一處ヲ遄退スルニ因テ縦ニ之ヲ覧ルヲ得タリ亦急流ノ賜ナリ

○嵐山舊遊ヲ記ス

天下ノ名花古今首トシテ芳野ヲ推ス余以爲ラク芳野山有テ水無シ未ダ嵐山ノ最佳ナルニ如カサルナリ嵐山花ノ多キ芳野ニ遜ルト雖ドモ嵯峨牙トシテ水滑駛ス花時ニ方リ之ヲ望ム槎ノ浮ブ橋ノ臥人ノ來往坐立宛ンド畫圖ノ中ニ在リ余閙フ梅花ハ月瀬ヲ以テ最ト爲ス而シテ櫻花ハ嵐山ヲ以テ最トナス皆山川ノ勝ヲ兼ヌル故ナリ余曾テ之ニ遊ブ纔ニ夕ニ至リ去ル能ハズ既ニ月ノ出ヅルニ過フ益〻絹ヲ覺フ遂ニ留リ宿ス翌早旭日ノ升ルヲ候ヒ復タ出デ、之ヲ覩ル芳野儼然溪山ニ溢ル又一奇トナス嵐

ヲ是レ望ム期今夕ニアリ

（類語）今夕涼ヲ某河ニ納レント欲ス○舟ヲ大川ニ泛テ以テ霊間ノ熱ヲ滌ハントス○請フ絲竹ヲ携ヘテ來レ○僕舟ヲ艤シテ待ツ○閨君ヲ伴ハヽ更ニ妙

同復

高梧修竹ノ日ヲ遮ギルヲ苦蒼蠅飛蚊ノ人ニ逼ルアリ僕モ亦頻リニ納涼ノ志アリ忽チ雅誘ヲ辱フス豈ニ適從セザランヤ書外ハ拝眉ヲ期ス畧答

（類語）暑熱晩ニ至リテ猶ホ散セズ○河邊ニアラザレバ以テ暑ヲ避クベカラズ○泛舟納涼ノ清誘ヲ承ク何ゾ辭センヤ○期ニ先チ琴ヲ抱テ會セン

七夕人ヲ迎フ文

乞巧ノ樓頭弦月斜ニ掛リ白露空ニ凝ル嗚呼當夜兒女ノ瓜菓ヲ羅ヲ天下一夕綿々ノ情通カニ

キ芳野ニ遜ルト雖ドモ

ト雖ドモ○曷ソ追慕セサラン

倘瓊筵ヲ啓キ流ニ臨ンデ一醉セハ○眼際古ニ高シ○謹テ當ニ後塵ニ歩ス可シ

送花贈

百卉叢中最モ愛ス可キ者○君カ爲ニ自ラ數莖ヲ摘デ○特ニ案下ニ供シ○更ニ後梅先春ニ詩ル

（類語）兒女ノ戯ニ類スト雖ドモ○此夕是レ何ノ夕ゾヤ○鳥鵲橋頭欲露既ニ降ル○忽チ清招ヲ承ク○命ニ從ヒ兒ヲ携ヘテ庭ニ趨ラン

観月ニ誘フ文

桂魄團々逐宵其ノ佳妙ヲ極ム想フニ今夕ハ是下界ヲ惱マシム愛ニ一宴ヲ開テ三四友ヲ會セント欲ス足下ソレ枉駕アルヤ否ヤ伏シテ賁報ヲ俟ツ

（類語）聞ク陰曆ノ七夕ニ當ルト○兒女ノ喜ビ物ノ比スベキナシ○竿頭綵線ヲ懸ケ以テ祭ラン○兄幸ニ令嬢ヲ伴フテ來レ○兒等特ニ之ヲ待ツ

同復文

碧霄洗フガ如ク雲雨交々收マル嗚呼是レ乞巧ノ當夜ナリ會一酌ヲ試ミントスルノ際盛招ヲ辱フス豈命之レ趨ラザランヤ拝復ス

（類語）兒女ノ戯ニ類スト雖ドモ○此夕是レ何ノ夕ゾヤ○烏鵲橋頭欲露既ニ降ル○忽チ清招ヲ承ク○命ニ從ヒ兒ヲ携ヘテ庭ニ趨ラン

観月ニ誘フ文

桂魄團々逐宵其ノ佳妙ヲ極ム想フニ今夕ハ是

山ノ景ニ於テ庶幾クハ之ヲ詩ス

○攝州ニ遊ブノ記

庚午四月六日攝州ニ赴ク翌午高津神祠及ビ四天王寺ニ謁ス其規制ヤ觀ル四天王寺堂宇門廊最モ巨麗ト爲ス龍樓嶋角金碧焜耀大下ノ壯觀ヤ極ム寺下居民輻湊殆ンド千余家ナリ而シテ高津ノ神祠甚ダ險陋纔ニ四五宇ノミ蓋シ仁德天皇ハ吾ガ國ノ聖王而シテ厩戸皇子ハ嶽我馬子ノ崇ヲ逆フヤ纔ニ人倫ノ教ヲ蔑棄ス其寺其盛ナル彼カ如シ崇否顚倒隆替地ヲ易フ孔子曰ク邦道有ルニ貧シク且ツ賤シキハ恥ナリ邦道無キニ富且ツ貴キハ恥ナリト蓋シ小人ノ榮トスル所ハ乃チ君子ノ恥ヅル所古今同轍譯爽ト共ニ慨歎ヒ誠攝人之ヲ詩ルニ必ズ天王寺ノ壯觀ヲ以テス京都ノ諸大刹ト雖モ有ルコト無シト按ニ聊カ之ヲ書シ以テ其感ヲ解ク云フ

ン

送レ花答

金谷ノ奇葩○衆芳ト共ニ一混セズ○開イテ歳春深キ處ニ向フ○現芳ノ賜千金ヲ身クシ○而メ一管ヲ思フ○小瓶中ニ時ヘテ拜翫ス奇花ヲ賜フヲ蒙ル鄙懐ヲ慰ス○感謝何ソ極ラン○眞ニ花王ナリ

約ニ遊山ニ赴キテ桃源ヲ尋ント欲

レ望ナリ豈ニ年中ノ好期殊ニ獲難キノ良夜ナラズヤ嗚呼月アリ酒ナシ酒アリ友ナシ此良夜ニ羞ヅ卽チ聊カ蕪筵ヲ矮室ニ開カントス知ラズ高雅ノ貴臨ヲ獲ルヤ否ヤ伏シテ佳報ヲ望ム

（類語）觀月ノ良夜○今年モ亦既ニ仲秋トナル○桂花香ヲ吐キ玉兎珠ヲ弄ス○君家ノ水樓ニ登ラハ清光掬スベキナリ○靈鷲ナク微風ナシ○此良麾ヲ奈何ン

同復文

銀河聲ナク山河影アリ宿鴉駭キテ飛叫シ星辰亦光明ヲ讓ル此ノ良夜ヲ奈何セン爰ニ高招ヲ領ス多謝々々晡時趨テ佳席ヲ汚サン拜復ス

（類語）今年ハ去年ノ雲雨ニ似ズ○若シ徒ニ過サバ實ニ一年ノ恨事ナリ○此ノ嘉會アリ何ソ遊フヲ竭サン○詩纔ヲ携ヘ將ヲ高樓ニ上ラン

觀菊ニ誘フ文

議ス可キ者ハ固ヨリ多シ然レドモ高津神祠其甍此ノ如シ而シテ四天王寺其盛ナル彼カ如シ崇否顚倒隆替地ヲ易フ孔子曰ク邦道有ルニ貧シク且ツ賤シキハ恥ナリ邦道無キニ富且ツ貴キハ恥ナリト蓋シ小人ノ榮トスル所ハ乃チ君子ノ恥ヅル所古今同轍譯爽ト共ニ慨歎ヒ誠攝人之ヲ詩ルニ必ズ天王寺ノ壯觀ヲ以テス京都ノ諸大刹ト雖モ有ルコト無シト按ニ聊カ之ヲ書シ以テ其感ヲ解ク云フ

ス○明月閭鄉ニ烟ヲ擡ヒ務ヲ罷メ○恰モ縱賦酔ヲ酬ルニ宜シ

尙ホ冀クハ足下翅ヲ翼レ○一ニ天遊ヲ共ニセン○四方ヲ優遊ス

遊山答

嵩點ノ烟巒久シク負ク○襟懷光モ切ナリ○尙然鉢ヲ投ス○烟霞ニ嘲傲ス○共レ實ニ一世ノ雄ナリ

秋光漸ク老ヒ風景蕭條人腸ヲ斷ツ此際只吾人ヲ娯樂セシムルモノ獨リ霜ニ傲レルノ黃花アルノミ荒園ノ花既ニ爛熳奇香人ヲ襲フ此花又落ナバ又繙テ觀ルベキナシ豈賞セザルヲ得ンヤ乃チ枉駕ヲ促ス兄其レ塵事ノ煩冗ヲ以テ辭スルコト勿レ不悉

（類語）可愛ナルハ霜ニ酔フノ紅葉ナリ○嵐峽ニ遊バント欲ス○秋遊ハ此時ヲ以テ然リトス○一日ノ清遊ヲ共ニセン○駒ハ繫グベカラズ玉趾ヲ勞セヨ

同復文

回首スレバ洞枯レ林瘦セ又昔日ノ觀アラズ唯高節ノ黃花アルノミ會高召ノ衆雲ニ接ス多謝々々正ニ万事ヲ廢シ爭趨拜賞セントス略答

（類語）眺タ楓林ノ錦ヲタ照ニ曝ラスヲ見ル○遊情禁スベカラズ○三尾ノ名夙ニ之ヲ聞テ來タ之ヲ踏マス○諸フ必

○高遠城ニ題ル記

孤城屹然トシテ喬木四圍スルヲ望ムニ兜形ノ如キ者ハ我高遠城ナリ流水溶々トシテ郭ヲ挟ンテ西ス水光樹色ト相映ズル者ハ三峯藤渓ノ二川ナリ城中校舎アリ進徳ト曰フ環ラシ植ユルニ櫻ヲ以テス絃誦ノ聲花間ニ在リ城ヲ過テ東スレバ練兵場ナリ鼓音谷ニ震シ砲響山ヲ崩ス是余平生目慣レ耳熟スル所ナリ余外ニ在ル四年壬申ノ春偶歸省ス時ニ國勢一變シ周郭敬ンテ高興ヲ奉ジテ是レ速ク○星ヲ戴テ而メ發セン○是連日快晴心腸頗ル清爽ヲ覺ユ昨友人和ノ龍田ヨリ歸リ言フ觀楓ノ佳候今ナリト阿兄閑暇アラバ共ニ錦雲彩霞ノ間ニ逍遙スル亦宜カラスヤ期明朝アリ果シテ肯ズルヤ否ヤ佳咎ヲ竢ツ

（類語）花ノ隱逸ナルモノ○三徑已ニ荒ルト雖モ菊花獨リ英ヲ競フ○清香馥郁トシテ來ル○菊ヲ以テ名ヲ掛ヨスルハ某園トス○乞フ共ニ賞セン

●同復文

天氣澄霽楓林霜ニ飽ク龍田山ノ風光懷フニ堪タリ忽チ手教ニ接ス雀躍曷ゾ堪ヘン明早速ニ高門ヲ叩カン因テ茲ニ復ス

（類語）僕亦某ノ菊花ヲ賞セントスルコト久シ○忽チ玉音ニ接ス○秋風搖落ノ日ニ開ク○古人ノ之ヲ賞スル亦宜ナラズ同ジク遊バン○飄酒ヲ屢ニシ訪ハン

●觀楓誘引ノ文

連日快晴心腸頗ル清爽ヲ覺ユ昨友人和ノ龍田ヨリ歸リ言フ觀楓ノ佳候今ナリト阿兄閑暇アラバ共ニ錦雲彩霞ノ間ニ逍遙スル亦宜カラスヤ期明朝アリ果シテ肯ズルヤ否ヤ佳咎ヲ竢ツ

（類語）花ノ隱逸ナルモノ○三徑已ニ荒ルト雖モ菊花獨リ英ヲ競フ○清香馥郁トシテ來ル○菊ヲ以テ名ヲ掛ヨスルハ某園トス○乞フ共ニ賞セン

雲旗空シク招キ遂情何ゾ解セン○（闕湯）沸酒○艾酒ニ奉邀シ船ヲ小欵ヲ踰ム

綠暗ク紅稀ナリ○天中ノ佳節ニ値フ○獨酌興無ク○惻々トヲ烟閨ヲ增ス

端午贈

梅雨贈

茅檐颯々トメ烟雨絕ヘス○林稍梅金彈ニ着ク○凡ニ隱レテ而シテ眠ル○夢ニ鄰舂ニ遊ブ○宰予ヲ學ブ

樂ム所何事ゾ○掴律

端午答

喬木莫伐殆ンド盡キ城墉頽殘花地ニ委シ絃誦ノ聲銃炮ノ響ト得テ聞ン可カラズ唯寂寞タル一荒墟ノミ嗟余年ヲ閱ミスル僅ニ三十七世事變遷既ニ此ノ如シ知ラズ數十年ノ後此鄉果シテ如何ゾヤ之ガ爲ニ躊躇之ヲ久フス獨リ花落チ鳥悲ムノ歎ニアラザルナリ

◎亭記

○萬來舍記

舍ヲ萬來ト名ク衆客ノ來リ遊ブニ供スルナリ既ニ客ト曰フ主有ル可ルカナ○萬宇ヲ拋テ相從ハン

◉天長節ニ人ヲ招ク文

南山ノ臺北山ノ棨聖君万壽期ナシ鶴空ニ舞ヒ芝庭ニ生ズ我君德偉ナル哉壽ハ南山ノ如ク福ハ東海ノ如シ茲ニ瑞節ニ値フ士民奚ンゾ擊壤謳歌セザランヤ茲ニ今夕某樓上ニ宴ヲ開ク足下辭スルナク來臨ナクンバ我心豈ニ娛マン伏シテ佳酬ヲ候フ順首

（類語）聖節ニ値フ○昇平鼓腹魚ハ水ヲ忘レ洪化傾頭葵ハ陽ニ向フ○謹テ小宴ヲ開キ寶算ノ限リナキヲ祝セントス○乞フ速ニ來レ

●同復文

嗚呼我ガ皇我后仁德以テ下民ヲ照臨シ上下和睦シ周召途ニ在リ野ニ遺賢ナク聖德四海ニ洽シ卽チ天長ノ佳節賞ニ祝シテ更ニ祝スベシ忽

キカ先ツ來ルノ客ヲ主トシ後チ來ルノ客ヲ客トス早ク歸ルノ客客トナリ後ニ留ルノ客ハ主トナリ去ルニ送ラズ來ルニ迎ヘズ議論爲ス可シ厭話坊グス碁ヲ囲ミ棋ニ對シ酒ヲ酌ミ文ヲ作ス唯客ノ好ム所危坐箕居共ニ好シ扼腕拱手兩ナガラ可ナリ來ル者ハ拒マズ去ル者ハ留メズ與有レバ則居リ與盡レバ則去ル而シテ客盡ク明朝又來テ主ト爲ル以テ客ノ來ルヲ待ツ嗚呼人世亦猶此舍ノ如ノ相

一猶ヲ呈ス○敢テ一博ヲ求ム○多幸ノミニ而シテ可ナラン乎速刻當ニ赴クベシ不盡

（類語）吾儕草莽ノ臣モ此ノ昇平ノ德澤ニ浴スルモノ實ニ我ガ皇ノ慈仁ニ感レ依レリ○刻ヲ追フテ趨リ祝スベシ○祝辭ヲ獻シ祝盞ニ醉フベシ

寒中人ヲ訪フ文

光陰流ルガ如ク春往夏來リ夏去テ秋來リ而シテ又冬ニ入ル霜冷カニ雪寒ク殊ニ風威刃ノ如キヲ奈何セン高閣近狀如何伏ンテ惟ミレバ万福此ニ不勝ヲ具シテ左右ヲ伺候ス叱置セラルレバ奇榮ナリ不宣

（類語）盃盤淋漓ノ地ヘ難シ○挙体健全ナリヤ否ヤ○空シク燈火ト親シムノミ○偶マ猪肉ヲ贈リ來ルアリ○敢テ挙罰ニ獻ジ聊カ勤靜ヲ候ス

樂デ以テ日ヲ永クスベキナリ

○隣花櫻ノ記

客有リ來リ余ニ告ゲテ曰ク幸將ニ半バナラントス而シテ花盛ニ向フ者ヲ觀花ニ意無キ乎若シ爛漫ノ時ヲ待タント欲セバ則チ後ニ開ク者獨リ盛ンナリ而シテ先ツ開ク者將ニ半バ枝ヲ謝セントス況ンヤ寇風暴雨計ル可カラザル者有ルヲヤ請フ子ト出遊シ以テ一日ノ樂ヲ取ラン亦可ナラズヤ余曰ク諾ト遂ニ客ト郊山ヲ遊

惠臨セヨ願テ俟ツ

約レ乘レ涼蹈

炎威灼々トノ渕ク金ヲ消スルヲ覺フ○小軒○避ノ可キ處無シ○一些ノ風涼ヲ假サズ

卻チ杖ヲ牽カント欲ス○特ニ人ヲ着テ邀ヘ客ル○只柏莚フニ寘ンハ可也○敢テ回音ヲ俟ツ

乘レ涼答

聖ニ涼算アル無シ○殊ニ人ニ毒スル有

同復文

嚴霜忡短カク密雪山白ク寒威稜々只ダ龜首鼈身以テ僅ニ爐邊ニ屈坐スルノミ今ヤ衆雲ヲ扉シ欣喜何ゾ限ラン不佞全盧無異幸ニ意トナス勿レ後刻拜晤謝スル所アラントス時下幸ニ自愛セヨ拜復ス

（類語）四面雪ニ封ゼラレ僅ニ炉邊ニ趑趄スルノミ○酒力ヲ以テ寒ヲ破ルノミ○好下物ヲ惠セラル何ノ幸カ之ニ過ギン○僕ニ丹醞アリ貴价ヲ煩シ以テ獻ス

觀雪ニ誘フ文

曉起戸ヲ寄セバ皓然一白恍トシテ白銀界タリ又タ是レ詩家ノ妙境此際豈ニ山陰ノ一棹ナカル可ンヤ此ニ使ヲ馳セ鄙意ヲ述ブ唐突ノ罪幸ニ寬恕セヨ

（類語）湖風雪ヲ吹キ四山ノ樹々皆花ヲ開ク○銀世界ト疑

賢シ人家ノ花ヲ觀ル殆ンド遍シ既ニシテ一年屋ニ還リ北樓ニ登レバ則四隣ノ花爛漫中ニ在ルガ如シ樓上自リ之ヲ下視スレバ美ニシテ艶ナリ少年ノ人頭綰巾ヲ著ケ春風ノ中ニ飄揚タルガ如シ曳々トシテ雲ノ如ク皎々トシテ雪ノ如シ是ニ於テ酒ヲ酌ミ詩ヲ賦シテ之ヲ樂ム久シテ乃チ造化ノ妙ヲ知ル人ナシテ勢利ヲ忘レ囂吝ヲ消シ悠然トシテ自ラ得セシム蓉風沂水ノ樂ト雖ドモ恐クハ過リ〇家々乞巧是レ又一年ノ業事ナリ〇今夕何ノ夕ゾ乃チ佳期アリ〇星闌皎皎タリ

殷勤ニ裹暑須ラク多キ
情ヲ見ル可シ〇半夜語リ殘ス〇起來晛望スレハ白露空ニ凝ル〇想フ已ニ時叙未タ央ナラズ〇皖チ洗フテ〇君ヲ邀テ共ニ賞セン〇天上ノ佳期七夕答

ギズ因テ北樓ヲ名ケテ隣花ト曰フ夫レ四隣ノ花ヲ以テ家庭ノ花ト爲ス隣花ハ則チ我ガ花ナリ其ノ彼ニ在ル我ニ在ルト亦何ゾ擇ン乎荷モ此義ヲ推セバ之ヲ充テハ則チ君子人ノ善ヲ取テ以テ己ノ善ト爲ス者猶ホ此ノ如キノミ吾是ニ於テ大益ヲ得タリ斯ノ義也吾將ニ表シテ之ヲ出シ以テ大舜善ヲ取ルノ遺意ニ附セントス豈ニ唯一時櫻ニ名ク而已ノミナランヤ遂ニ之ガ記ト爲ス

ハル〇勇ヲ鼓シテ郊外ノ好景ヲ探ラント欲ス〇眞ニ詩人ノ餘所ニスベカラル所ナリ

同復文

北風凜々飛雪紛々詩人ノ料此ニアリ矧ヤ夜來ノ積雪近來多ク見ザルノ所万山一望銀世界カト疑ハル豈ニ余輩ノ默止スルノ時ナランヤ厚ク芳命ヲ賜ハル刻下正ニ高門ヲ叩カン餘情ハ拜眉ノ秋ニ讓ラン拜復ス

（類語）天公ノ巧妙ナル枯林一夜ニ銀玉ヲ鏤バメ〇玲瓏タル一帶ノ白玉〇誰レカ此ノ淸景ニ負クベケンヤ〇馬背ニ跨ガリ尋盧ヲ訪ハン

歲暮人ニ寄スル文

落櫻咋ノ如ク一瞥ノ間四序荐リニ更ハリ既ニ歲杪ニ際ス嗚呼吾人歲ト共ニ老ヒ業成ナラズ功收ラズ徒ニ室ヲ掃テ新陽ヲ待ツノ外亦偶ヲ

シ此ニ聊カ薄典ヲ脩スム餘ハ春日ノ和愿ヲ待テ貴邸ニ拜趨セン不一

（類語）歲云ニ暮ル矣〇日月ノ滔流人ヲシテ歎カシム〇歲月人ヲ待タズ〇塵事匆忙往テ訪フニ由ナシ〇謹テ歲楢ヲ賦ス〇來陽ヲ待テ緩話スベシ

同復文

人身草露ノ如ク居緒電影ニ似タリ歲爰ニ除ク東風已ニ候ス嗚呼今年モ亦將ニ尽ク青山白髮ノ嘆ナキニアラズト雖モ既往ハ咎ム可カラズ來者ノ追フベキアルヲ知ル爰ニ席ヲ掃テ、春風ヲ待ツ會衆雲ニ接シ高閣起居ヲ審ニスルヲ得タリ且佳品ヲ賜フ感佩々々貴价ニ托シ粗品ヲ贈ル希クバ叱留アレヨ拜復

（類語）白駒ノ隙ヲ過グルガ如シ〇往事ヲ回顧スレバ轉タ痛恨ニ堪ヘザルナリ〇歲暮ノ厄況ヲ厚ス感荷已ムナシ

◎紀戰
○北條朝時入京ヲ
記ス
朝時ノ北陸道ニ出ヅルヤ徒軍四萬官軍夥ヲ張リ寒原ノ塞ヲ扼ス朝時夜ル數十牛ヲ收メ薪ヲ其角ニ束子之ヲ火ス膈テ官軍ニ赴ク官軍夥發ス東兵乃チ塞ヲ踰ユ市振ニ至ル官軍險ニ據リ柵ヲ設ケ東軍ノ騎兵海ヲ渡ル而シテ步兵柵ヲ破ル礪並山ニ戰ヒ盛遠ヲ殺シ定範ヲ走ラス進テ赤時京都ニ會ス
○平家水島ノ捷ヲ
記ス
閏十月源義仲足利義清高梨高信海野幸廣ヲ遣シ來リ犯ス而シテ身之ニ繼ク官衙通盛教經三百余艘ヲ以テ進ヘテ之ヲ擊ツ水島城ニ據ル源氏千餘艘ヲ以テ陸ヲ負フ教經城ノ東北門ヲ出テ敵ヲ挑ム敵五千騎ヲ以テ攻ム教經伴リ走ル官衙通盛舟師ヲ將ヒ島ノ西南ヨリ左右翼ヲ繞チ之ヲ遶グル教經躡ジメ舟ヲ連子テ板ヲ布キ以テ進退ニ便ニス親ラ射テ高信ヲ殺ロス北兵

碧霄洗フ如ク雲雨突々收ル○雨散シ星河朗々タリ○兒女殷勤瓜菓庭ニ羅ヌ
○天上一夕纖纖ノ情
週ニ闈中ニ落チテ展轉トシ而ノ望ム○曰ヲ側テ、望ム○且ク松醪ヲ把テ浩酔ス○豈ニ此ノ夜ノ情趣ニ負カン哉
中秋贈
萬里晴光○蟾光滿ル如シ○玉樓歌舞雲
○新春ヲ待テ拜晤スベシ
●婚姻ヲ賀ス文
寒修其撰ヲ謬ラサル云ヲ待タサルナリ既ニ六禮悉ベテ終ル瑞氣門ニ溢ル子孫繁盛期スベキナリ寸芹馳セ貢シ聊カ祝意ヲ表ス莞留アラバ榮トナス不尽
(類語)洞房華燭ノタ○良緣ヲ以テ婚儀ヲ了セリト○一門ノ繁盛賀スベキナリ○恭シク一檜一看ヲ呈シテ賀意ヲ表ス○他日趨テ賀スベキナリ
●同復文
有家ノ一女我ニ許ス固ヨリ玉ヲ種ウルニ緣ナシ只薪水ノ勞ヲ助クルノミ固ヨリ祝賀スルニ足ラズ忽チ眷辭ヲ蒙ル且賜フニ盛儀ヲ以テス謹テ之ヲ領ス感愧曷ンゾ勝ヘン姑ク此ニ申謝ス

蚓竅忽盡ク宜シ
○此ノ夏夜ニ負カシムル莫カレ○詩酒甚タ佳ナリ
中庭清贍スレハ皎々人ヲ照フ○盞ヲ洗ヒ更ニ酌ム○月下遨遊ス○恨クハ靈ニ栁スルノ手段ナキヲ
仲秋答
氷輪湧瀲金風微扇ス
○梧桐秋早ク芭蕉夜長シ○吳歌楚舞○靜ニ祇ブ一室謹テ嘉貺ヲ領ス故廬浸濕居ル可ラズ且ツ高車
(類語)敢テ良緣ト云フニアラズト雖モ○賜ニ薪水ノ勞ヲ免ルノミ○却テ厚儀ヲ蒙ル感々謝々○敢テ親懇ヲ通ゼント欲ス玉趾ヲ枉ゲラルレバ幸甚
●轉宅ヲ賀ス文
宅ヲトシテ住ミ意ヲ決シテ喬ニ遷ル吁新ニ就クコト渴ノ水ニ於ケルガ如ク舊ヲ去ルコト敝履ヲ棄ツルガ如シ大丈夫ノ作爲自カラ殺ト異ル想フニ鄉黨和睦室家益々福多カラン此ニ謹テ薄物ヲ貢シ賀意ヲ表ス莞留アラバ抃喜ニ堪ヘズ
(類語)足下本ト喬松ノ性ナリ○今地ヲ擇ンデ移シ栽ユ其枝葉ノ繁茂スル知ルベシ○是ヨリ隆盛ナルベシ○何ゾ渴仰ニ勝ヘンヤ○閭門ノ萬福ヲ頌ス
●同復文
謹テ嘉貺ヲ領ス故廬浸濕居ル可ラズ且ツ高車

水戰ニ習ハズ日蝕曀冥ニ屬ス我兵之ニ乘ズ北兵遂ニ大ニ敗走ス追撃シテ戮溝幸厩ヲ斬ル首ヲ獲ル千二百級

○敎經奮戰ヲ記ス

敎經射テ敵ヲ殺ス數十百人箭竭ク長刀ヲ抽テ奮戰ス舟ヲ寨テ前ム向フ所披靡ス知盛之ニ謂ハシメテ曰ク敵ナカラン乎多ク殺ス何ヲカ爲センと敎經ノ曰ク諸ト乃チ輕甲短刀淺經ヲ紫ム衆經急ニ身ヲ挺キ舟ヲ超ヘテ走ル敎經從フ能ハズ手ヲ戰ニシテ焉ヲ

ノ明月

恍トシテ身ノ水精宮裏ニ在ルヲ疑フ○

盃ヲ擧テ共ニ歡ヲ盡サン

（類語）僕ノ居ヲ移スヤ端ナクモ尊聽ニ觸レ○水ニ利アラザルヲ以テ茲ニト居ス○唯ダ地ヲ轉ズルノミ何ゾ高誨ニ警ランヤ○慚愧已ム無シ

病氣見舞ノ文

近來伺候ヲ欽ク疎慢ノ罪遁レ難シ仄ニ聞ク玉体調ヲ失スト驚該ニ堪ヘズ是レ時候感應ノ爲ス所ナリ切ニ宜ク保愛スベシ幸ニ過テ勞心ヲ爲ス勿レ是レ祈ル鷄子一筐聊カ左右ニ奉シテ以テ尊恙ヲ問フ莞入セバ榮トナス

（類語）聞クガ如クンバ時例ニ違フト○近狀如何ン○頗ル意ヲ安ンセズ○時ニ寒暑ノ順ナラザルニ値フ○諸フ紳ヲ安ジ徐ニ全治ヲ圖レヨ（）醫藥ヲ加ヘヨ

重陽答

野菜菱菊滑賞ニ負カス○此ノ景此ノ時共ニ吟遊セン○欣然一醉

人生能ク幾何ヲ得ン哉○宴々セシム勿レ○倘佳肴ヲ饋ル拜領盃ヲ含ム○竊召ヲ蒙ル明邊テ敬ヲ承ケン

冬至賀

春意暗ニ浮ブ管灰云ニ飛ブ○愁坐自ラ嘆ズ○光陰梭ノ

日ク孰レカ能ク我ヲ虜スル者我且ニ娘朝ト語ントスト安藝太郎其ノ第二郎陸ヒ其卒皆力人ナリ走テ之ニ就ク敎經卒ヲ蹴テ水ニ墜ツ兩人雙挾シテ跳テ海ニ入ル時ニ年二十八

◎紀事

○蒲何ノ事ヲ記ス

沛公成陽ニ至ル諸將皆爭テ金帛財物ノ府ニ走ル之ヲ分ツ何獨リ先ツ入テ秦ノ丞相御史律令圖書ヲ收メ之ヲ藏ス

沛公具ニ天下阨塞戶口多少強弱ノ處民疾苦ス

慶々芳慮ヲ煩ス夜來ヨリ煩熱漸ク去リ又過日ノ比ニアラズ之ニ例順セバ恐クバ全痊五日ヲ出デザルベシ伏シテ乞フ幸ニ省慮アレヨ嘉品惠來何ヲ以テカ謝セン多謝病中採筆意ノ如クナラズ惓々感謝ス

（類語）昨來熱氣順ニ趨ク○日ナラズシテ回陽スベシ○幸ニ高念ヲ勞スル勿レ○若シ閒アラバ來テ徒然ノ情ヲ慰セヨ○足下ノ交誼ニ厚キヲ謝ス

久ク違ハサル人ニ寄スル文

袖別以來匆々既ニ幾星霜ヲ經玄襟ヲ想望スル毎ニ惟タ頭ヲ仰デ屋梁ノ月影ヲ看ルノミ想フ兄起居果シテ平安ナルヤ否ヤ今動靜ヲ詢知スルニ及デ深ク故人ノ爲メニ喜ブ敬ンデ尺素ヲ修メテ奉候ス雲海万里懸戀ニ任ユルコトナシ

ル所ノ者ヲ知ル何秦ノ圖書ヲ得ルナ以テナリ

○諸葛孔明ノ事ヲ記ス

諸葛亮政ヲ爲ス私ナシ馬謖素ヨリ亮ノ知ル所ト爲ル敗軍ニ及ビ流涕シテ之ヲ斬ル而シテ郤其後李平廢立皆亮ノ慶スル所ト爲ル亮ノ喪ヲ聞クニ及ンデ皆歎息流涕卒ニ病ヲ發シ死スルニ至ル史ニ稱ス亮誠心公道ヲ布キ刑政峻ト雖ドモ而カモ怨ムル者無シ眞ニ治ヲ識ルノ良才ナリ而シテ其材國ヲ治ムルニ長ジ將略長スル所ニ非ルヲ謂フハ則チ非也

○伊企儺節ニ死ス

ルヲ記ス

欽明帝二十三年新羅任那ヲ侵シ我ガ官府ヲ毀ル大將軍紀ノ男麻等ヲ遣シ新羅ヲ討ズ我ガ軍利アラズ軍人伊企儺處ノ爲メニ擒セラル虜勳誘降ラシム從ハズ刀ヲ抜キ之ニ逼テ曰ク汝須ク言フ可シ日本ノ將我ガ臂肉ヲ啖ヘト伊企儺大ニ呼テ曰ク新羅王予ガ臂肉ヲ啖ヘト竟ニ殺

如シ

說々笑々○萬事眼ヲ經テ齒莽スル勿ンバ○則チ學其中ニ在ン

冬至答

雪ハ明窓ヲ擁ス○陽光漸ク回ル○喜ヒ見ル窓梅漸ク肥ユルヲ

適マ綺招ヲ辱フス願クハ至教ヲ聆ン○以テ旗邊ニ囲坐ス可シ

雪中贈

紙ニ臨ミ不盡注切

（類語）分袂昨ノ如シ回顧スレハ既ニ三星霜○參商相隔タル○僕ノ足下ヲ懷フヲ以テ足下ノ僕ヲ思フヲ知ル○雲山万里相見ルニ由ナシ○時ニ鴻鯉ヲ惠セヨ

●同復文

別來既ニ遼遠頻リニ丰神ヲ渴望ス愧ヅラクハ聞問ヲ通スルコト能ハズシテ而シテ反テ芳音ヲ辱フス更ニ腸廻ノ資ト爲スニ足ル嗚呼然リト雖ドモ山川迢遞トシテ掌ヲ抵ツテ心ヲ談ズルニ由ナキヲ奈何セン謹ンデ毛楮ノ二字ヲ惜リテ轉タ寸悃ヲ達ス至悃至悃

（類語）指ヲ儉ムレバ裘葛三タヒ更ハル○遽然ト改年○日トシテ懷々往來セザルナシ○波濤萬里曷レノ日カ相見ルヲ得ン○唯タ鯉魚ノ相思ヲ談ズルアル耳

●書ヲ借ル文

ムルニ長ジ將略長スル所ニ非ルヲ謂フハ則チ非也

○伊企儺節ニ死ス

ルヲ記ス

欽明帝二十三年新羅任那ヲ侵シ我ガ官府ヲ毀ル大將軍紀ノ男麻等ヲ遣シ新羅ヲ討ズ我ガ軍利アラズ軍人伊企儺處ノ爲メニ擒セラル虜勳誘降ラシム從ハズ刀ヲ抜キ之ニ逼テ曰ク汝須ク言フ可シ日本ノ將我ガ臂肉ヲ啖ヘト伊企儺大ニ呼テ曰ク新羅王予ガ臂肉ヲ啖ヘト竟ニ殺

六出繽紛○詩家ノ滑景○路人想フニ藍關ニ迷ハン○玉樹群ヲ呈ス佳山瑞ヲ獻ス

波倒トシテ何ソ嚴威ニ抗セン○稼穡ノ瑞○豐登ヲ祝セン○此レ乃天賜ナリ奚ゾ疑ン哉

雪中答

鹽ヲ散ジ絮ヲ飛ス○是レ一幅ノ畫圖○玉鱗縹緲トノ前ヲ埋沒ス○山河

涼風颯然トシテ書窓ヲ浸シ燈火稍親ムベシ吾人勉學ノ好時節タリ僕頃ロ綱鑑易知錄ノ必讀ヲ感シ書肆ヲ索メドモ得ルヲ得ズ聞ク君該書ヲ藏スト希クバ僕ニ數日借覽ヲ得セシメバ何ノ賜カ之ニ如カンヤ故ラニ小奴ヲ走シ合セテ片楮ヲ呈ス頓首再拜

（類語）秋風樹間ニ生ジ涼味襲ニ稱フ○是ヨリ讀書ノ好時トナル○珍藏ノ某書借覽ヲ蒙ラント欲ス○數日ヲ閱シテ返璧スベシ○賤价ニ付セバ幸甚

●同復文

衆雲ヲ辱フス阿兄命ズル所ノ書近來久シク無用ニ屬シ篋裏ニ呻吟セリ敬ミテ之ヲ塵堆ノ中ニ拔キ貴价ニ奉ズ倘シ夫レ用ニ供ルヲ得バ專用留置何ノ妨ゲカアラン倉卒拜復ス

（類語）貴諭之ヲ了ス○示ス所ノ書久シク篋底ニ藏シテ藏

サル

○若狹義婢ノ事ヲ記ス

義婢名ハ綱若狹小松原ノ人父ハ角右衛門家貧賤ニシテ捕魚ヲ以テ業ト爲ス綱年十五鄰人松見氏ニ仕フ松見ノ兒来ダ慧サ兒レズ則チ綱常ニ懷ニス一日綱其兒ヲ負ヒテ出ヅ瘈狗ノ走ニ遇フ綱曰ク吾レ聞ク瘈狗ニ傷ク者ハ死スト乃兒地ニ伏セ己身ヲ以テ之ヲ覆フ則狗來リ綱ヲ齧ム傷ク數創流血甚シ既グ然レ兒ノ歷死ヲ恐レ四股地ニ據リ以テ腹下ノ兒ヲ全フスルヲ得タリ松見其事ヲ聞テ走テ之ヲ救フ則綱唯ダ言フ質子慈ナシト後チ死ス實ニ明和六年巳丑七月三日ナリ事邦君ニ聞ス乃チ錢ヲ其父ニ賜ヒ以テ邑ノ西德寺ニ葬ル爲メニ石ヲ立テ其義ヲ旌ハスト云フ

○孝子ノ事ヲ記ス

元明ノ朝大和國ニ孝子許智麿ナル者有リ後母ニ譖セラレ父ノ家ニ入ルヲ得ズシテ悲色ナシ孝謹愈篤シ又果安ナル個ノ襠面皮○晉ノ作ン○郎ヲ憲然ヲ斫ル

雪見答

一陣ノ風○但ダ見ル玉女花ヲ散スルヲ○獨リ闌干ニ倚ル○偶雅情ヲ致サル豈ニ昔人ノ豪興ヲ臆フセン○白ラ雪ヲ衝テ而ノ往ク可シ

歲暮贈

歲月云ニ暮レ○日諸月諸○一年ノ俗塵ヲ斷遂ス○蕭然タル○個ノ襠面皮○晉ノ作ン○郎ヲ憲然ヲ

●饗應後人ニ贈ル

昨延歎ヲ辱フス投轄ノ情何ヲ以テ謝セン加フルニ高樓山水ノ清景アリ既ニ芳醪鮮膾ニ飽キ復清風白月ノ興ヲ添フルニ會フ不知不識ノ間陶然醉鄕ニ入ル何ノ樂カ之ニ過ギン私ニ思フ酬醉快談ノ間禮敬ヲ欠グコトアルベキヲ今ニシテ之ヲ懷フ恍然トシテ記スル能ハザルナリ請フ幸ニ閨君ニ謝セヨ借來ノ塗燈价ニ付シテ趙完ス餘事拜芝ヲ期ス拜

（類語）昔者竊招ヲ蒙リ酒ハ美祿肴ハ鮮膾僕ノ飮ヲ解セザルモノ亦不覺酩酊ス○醉步蹣跚殆ント地ニ就カズ○昏來實ニ此ノ如キ快樂アラザルナリ

●未タ逢ハザル人ニ寄ス

雷名ヲ聞クコト久シ而シテ未ダ謦咳ニ接スルヲ得ス常ニ以テ憾ト爲ス伏テ思動履万福ナヲ

ヲ白霊ス

只憶フ數竿ノ竹○閒シテ著ケス○雲容慘澹林巒皓然○壓折ス

雪見贈

限無キノ風流○無邊ノ光景○個中ノ天地○又タ是レ詩家ノ妙境ナリ○仙濛ヲ荘ダヨ

只道フ是レ俗了人ナリト○獨リ覩賞ヲ恐ニスルヲ惜ム○僕亦道ノ主人ト魚ニ飽カシムルノミ○存留寬覽ヲ賜ハヽ却テ幸ナリ○貴价ニ托ス諳フ査收セヨ

●放蕩生ヲ戒ムル文

足下嘗テ宋儒ノ語ヲ擧ケ僕ニ告グ酒色ハ人ノ大慾聖賢皆ナ這裏ヨリ工夫ヲ做スト而シテ僕側ニ聞ク足下ノ近狀前日ノ言ト大ニ反セルヲ若シ果シテ風聞ノ如クナラバ僕豈ニ默止スルヲ得ンヤ知テ告ゲザルハ朋友ノ義ニ負ク足下宜シク思フ可シ大ニシテ家ヲ滅シ小ニシテハ其身ヲ亡ス皆ナ足下ニ因ルナリ僕足下ノ知ヲ辱スル久シ亦タ足下ノ善ク人言ヲ容ルヽヲ識ル故ニ聊カ意中ヲ吐露ス幸ニ省思セヨ

（類語）足下ノ近狀遙ヲ得ザルモノアリ○足下ノ顯才ナルニ似ズ近者花柳場裏ニ耽ルト○少シク意ヲ留ムルアラハ僕等ノ幸ナリ○他人他ニ匪ラス炳察セヨ

ル者アリ父母兄弟ノ際人得テ間然スルナシ其妻亦善ク舅姑ニ事フ已ガ生ム所ノ子ト妾ノ子八人ト撫育一ノ如シ夫亡シ志ヲ守ル鄉里ノ民皆感シテ化ス詔シテ門閭ヲ旌表ス

◎觀記

○觀螢ノ記

某川ノ螢其名四方ニ高シ而シテ余未ダ嘗テ一觀セズ常ニ以テ憾ト爲ス今茲五月某日螢戰ノ斯ト爲ス往テ觀ント欲ス友人某笑テ曰ク足下多病風露ヲ冒シ遠遊ス然トシテ尚水嘆スルニ足ル者識ラズ將來千ル所何ノ狀ゾ○心ヲ安ンスルニ地ヘズ○趣ノ向ヲ知ラス○悅有ツ可シ

歲暮答

寒往キ暑來ル○節物人ヲ催ス○客中日月ヲ爭ヒ○暄涼景ヲ促シ既ニ葛ニシテモ裘ス門外人喧シク一歲將ニ除セントス○僕日前古書畫數帖ヲ得タリ眞假未タ之ヲ判スルヲ得ズ今夕僚友ヲ邀ヘテ評定ヲ請ハント若シ玉趾ヲ枉グルヲ蒙ラバ何ノ幸カ之ニ加ヘン席ニ淸娛ニ供スベキノモノナシ唯タ天上ノ美人當ニ水樓ニ入ルベシ敢テ實階ヲ掃テ待ツ肅啓

（類語）風ニ爽名ヲ聞ク望河ノ念ニ切ナリ○永夕謁ヲ通ズルノ緣ナキヲ憾ム○懇々ノ情日トシテ已ムナシ○若シ貧臨ヲ蒙ラハ野堂光ヲ放ツノミナラズ亦以テ多年ノ宿懷ヲ散ズベキナリ

●同復

忽ナ玉音ニ接ス幸々甚々僕ノ足下ニ眷々タル唯傾葵ノミナラザルナリ窃カニ良媒ナキヲ憾ミトス既ニ淸招ヲ蒙ル何ヲ以テ辭スベケン期ニ先テ高門ニ攀ヅベシ切ニ恐ル淸趣ヲ擾ダス

恐ノ害アリテ益ナシ

余之ニ應シテ曰ク忽誠ニ之ヲ求ム物皆吾ガ師ナリト遂ニ車ヲ命シ往ク數里某川ニ抵ル日既ニ暮天色晴黑車ヲ下リ水畔ニ步ス熠燿タル靑光風ニ隨テ高低ス鳴蛙閒々鼓ヲ擊ツガ如シ忽チニシテ螢相聚ル千ニシテ萬萬ニシテ億々ニシテ兆群ヲ爲シ隊ト爲ル東西相分レ陣ニ對スルガ如キナリ二三ノ螢東西交々飛行シ人ノ令ヲ傳フルガ如キナリ既ニシテ隊々相進ミ東軍コトナカラントヲ情緒盡キズ都テ拜話ニ讓ル稽首拜白

（類語）素ト瞻仰ノ情ニ切ナリ○名聲ヲ夙聞スル久シ未タ謦咳ヲ聆クニ由ナシ○一タビ雲談ヲ開カント欲シテ能ハズ○今夕何ノ幸ゾ淸招ヲ辱クス○何ゾ之ニ背クベケンヤ○當ニ盛席ヲ汚スベシ

●誘ハルヲ辭ス

昨夜陽臺雲霧ノ媒○猶鴈ノ歡方ニ殷ナリト○玉帳氤氳（類語）一年ノ秋遊唯此時ヲ以テ然リト爲ス○秋霜葉ヲ染メ四山錦繡ヲ粧フ○外邪ノ犯ス所トナリ臥褥輾轉スルノ痛恨ノ情ニ耐ヘズ

四山ノ楓樹方ニ霜ニ醉ヒ秋遊ノ情日ニ切ナリ偶マ嵐峽ノ遊ヲ促サル神飛ビ魂揚ガル奈何セン夜來時氣ノ冒ス所トナリ以テ風スベカラズ夫ト作ン耳○反テ僕ヲ歡ヲ獻ル好遊ニ辜負ス恨タル深シ私ニ思フ水靈山伯ノ憎ム所トナルカト請フ幸ニ憐察セヨ楮ニ臨ミ

西軍接戰方ニ酣ナリ紛々紜々結ンデ而シテ解ケズ合シテ離レズ上下轉鬪シテ西軍遂ニ散亂ス其狀利ヲ失ヒ走ル者ノ如キナリ遂ニ去リ洲渚ノ間ニ覩ル千萬螢聚屯ス更ニ數萬ノ螢アリ北ヨリ來リ襲フ者戰ヒ甚ダ劇シ合シテ一團青玉塊ト爲リ水中ニ落ツ既ニシテ一隊ノ兵至ル夾ミ之ヲ攻ム北來ノ螢遂ニ利アラズ間陣ト爲リテ而シテ退ク嗚呼奇ナル哉螢ノ戰ヤ元龜天正ノ戰ヲ以テ之ニ喩ヘン東西相陣スル者是レ關原ナリ洲渚間ノ戰是レ川中島ナリ夫レ螢ノ物タル一小羽虫ノミ固ヨリ此ニ志慮アル者ニ非ラズ而シテ其奇正開合ノ妙亦以テ戰陣ノ法ヲ曉ル可シ乃チ記シテ以テ友人某ニ示ス

○瀧澗楓ノ記

瀧澗大城ノ北二里ニ在リ蓋シ其地王寺村ニ屬ス東ヨリシテ來ル者王寺神祠ヲ經テ瀧澗ニ至ル南ヨリスル者之ニ反ス余約ス仁卿ト南ヨリシテ遡ツテ路ヲ失フ乃チ一枝ノ溪ニ緣リ○未ダ便ヲ得ズ共ニ幸ナリ拜具

（類語）百花ノ爛熳タルモ既ニ昨夢ト共ニ散ズ○此間富貴花始テ葩ヲ破ブル○紫ヨリ培養ノ功ニ乏シケレバ花モ例年ノ比ニ似ズ○伏シテ愛翫ヲ祈ル

同復

春花開キ盡キテ復タ物ノ歡娛ニ供スベキナシ忽チ國色天香ヲ寄セラルル乃チ覺フ瓦屋亦富貴ノ境ニ入ル直ニ騰瓶ニ插ムニ清香万斛坐間ニ溢レ以テ塵俗ノ氣ヲ掃フニ足ル何ノ貺カ之ニ過ギンヤ謹ミテ謝ヲ言フ

（類語）瓶中水泊レテ花モ亦彫ナシ○花ノ求ムベキナシ○倘マ國香ヲ贈ラル天香座ヲ壓ス○花中ノ富貴ナル之ヲ舍テ、他アランヤ○謝辭盡キズ

歸省ノ人ニ寄ス

君ハ東都ニ學ビ僕ハ魔城ニ游ブ地ノ相去ル五ミ○足下ノ消息却テ僕ヲシテ恨ヲ長クセシム○切ニ望ム一枝ノ惠アランコトヲ

招カルヲ辭ス

忽チ雲箋ニ接ス承ク今夕烏鷺ノ戰アリト爲メニ僕ヲ召ス謝々僕前日ノ收アリ一タビ恥ヲ雪ガンコトヲ期ス當ニ手ニ唾シテ奔ルベキナリ奈セン客アリ江門ヨリ來ル遊事ノ爲メニ遠來ノ款ヲ廢スベカラズ請フ炳亮セヨ

（類語）今夕碁戰ノ催アリト乃チ僕ナシテ燭ヲ秉ラシメントス○僕會稽ノ恥アリ理當ニ一快戰ヲ試ムベシ○如何セン○風疾ニ罹ル○洵ニ伎癢ニ堪ヘズ

花ヲ贈ル

九十ノ春光將ニ暮レントシ千紅万白亦泥塵ニ委ス適マ園中ノ木芍藥蕾ヲ破ル謹ンデ兩三枝ヲ献ズ若シ机前ノ清娛ニ供セラルアヲハ花ト

チ亦神祠ニ先ダツ祠下一水環クル流レ極メテ駛シ即チ瀧瀨ノ流ナリ板橋チ渡リ左折行クコト數十步路ノ左僅道アリ之チ登リテ祠側チ出デ穿テ祠前ニ出デ行クコト數百步右ハ則チ平野曠冥左ハ則チ密林陰翳鏘然流泉ノ音チ聞ク泉香ニ醉テ疎林ニ入レハ則チ丹楓千株艷妍霜ニ醉フ此瀧瀨ト爲ス紆余シテ下リ右折シテ水涯チ行ク二十步可リ一堰アリ竹棚チ崖ニ架シ茶餅ナ售ル茅店シテ憩フ會

葛ゾ榮慶セサラン哉

○嘉納チ賜ハル幸甚

得ヒ子答

荊妻分娩子母平順○兒母患ヒ無シ○若シ其レ成長セハ命ニ委スル耳○只髣髴乾チ待ツ

想フニ亦一疑兒○昨一子チ擧ス後チ無キノ憂チ慰ス○定個ノ爲貽○亦何チカ待ン哉○褒儀チ蒙ル愧領容謝ス○

千里相見ザル亦三歲一タビ芝眉チ接シテ舊雨ノ情チ叙セント欲スルコト久シ忽チ此盛夏ニ於テ各暇日チ得各父母チ省シ終ニ相見ルノ歡ビチ得ントハ實ニ望外ノ幸ナリ今夜某水樓ニ一酌シ隔年ノ情チ語ラント欲ス請フ他事チ以テ辭スルコトナカランヲ

（類語）歸期チ憶フテ歸期チ數フ一日ニアラズ倏チ此ニ相會セントハ實ニ意ノ至ラザリシ所ナリ○一タノ歡晤チ得バ以テ多年ノ積懷チ散ズベキナリ

●同復

思依々ノ間忽チ衆雲チ厚クス一讀相會スルガ如ク再讀足下ノ昨日ノ足下ニアヲザルチ知リ相見ント欲スルノ情轉タ切ナリ乃チ一書チ寄セテ舊好チ温メントスルニ先ダチ足下ノ書チ獲タリ何ノ幸カ之ニ加ヘン定メテ思フ珍談奇

日子チ下ル栗遠山某南路ヨリシテ來リ掌チ抵テ歡チ叙シ相與ニ棚ニ馮リ眺屬ス水廣サ六七步蒼鬱深沈酵チ爲サズ小艇アリ架ス前岸古寺アリ寺下斷崖數十尺小瀑洶々（ヒソヒソ）密青中ヨリ噴出ス匯テ瀏ニ入ル余衣チ掘ゲ此ニ至ル盥嗽ス味極メテ清冽而シテ丹楓影チ瀏水ニ倒ニシ夕陽映射シ紅波岸ニ漲ル時ニ爽風一陣山ノ西南ヨリシテ來ル墜葉紛飛シ青苔綠水ノ間ニ亂点ス恰カモ落花ノ東風二月

（類語）相見ザル三年○一日三秋ノ情ニ堪ヘズ○同シク歸省シテ舊情チ温ムルチ得ル亦夏暇ノ賜ト云フベキカ○今タノ會貴命コレ從フベシ

●戰地ニアル友ニ寄ス

想起ス足下ノ馬關埠頭ニ纜チ解クヤ炎威赫々燬クガ如シ而シテ今ヤ暖和ノ氣ニ當ルソノ間八九月而シテ地ノ相距ルモノ千万里未タ審カニセズ夏葛冬裘平安チ保ツヤ否ヤ　皇軍嚮フ所前ナク旭旗ノ颺ル所賊皆辟ク實ニ開闢由來未タ聞カザルノ快戰激鬪僕之チ新紙上ニ閱シテ身其境ニアルガ如シ況ンヤ足下ノ如キ其地チ踏ミ其血チ履ミ耳チ轟スルノ砲聲中ニ立チ眼チ眩スルノ劍花裡ニ馳セ親シク大閫中ニア

話ノ願チ解クモノアルベシ命ニ從ヒ時チ待テ會スベシ万其時ニ在リ不備

馳感倍々遲シ賀誕啻

伏シテ惟フ遐齡松柏ト茂チ爭フ○美ナル哉大壽○乃チ言フ德有レハ壽有リト○只見ル謏ラザルチ

此ノ日謹ンテ大誕ニ逢フ○南山チ壽トス○海屋籌ニ壽チ添フ

誕日答

馬齒長ズルニ已ニ亟ニ從欲○犬馬ノ齡

ル モノ其快果シテ夫レ幾何ゾヤ僕之ヲ見ル毎ニ身ノ兵籍ニアラザルヲ憾ミトナス今ヤ媾和既ニ成ル三軍ノ凱旋當ニ日アルベシ僕等日ヲ期シテ足下ノ恩容ヲ見ンコトヲ待ツ友ノ其地ニ行クアリ謹テ起居ヲ候ス餘情拜話ニ在リ時氣漸ク炎天ニ向フ自重万々

（頴語）百戰百捷ノ報日トシテ耳ニセザルハナシ○想フ君ガ千軍萬馬ノ間ニアリ叱咤手ニ唾シテ三軍ヲ指揮スルヲ○我ガ國古今曾テアラザルノミナラズ凡ソ洋ノ東西ト時ノ古今トヲ問ハズ蓋シ斯ノ如キハアラザルベキナリ○僕等四千萬同胞ト共ニ兄等ノ凱旋ヲ待ツ○僕体軀孱弱兵馬ノ間ニ馳驅スル能ハザルヲ慨トス○炎威將ニ盛ナラントス諸子自愛セヨ

佳節人ヲ招ク

今日何レノ日ゾヤ實ニ是レ我ガ　睿聖ナル

○百雨昏々トメ自ラ無能ヲ愧ヅ○七十年夢ノ如シ○遊戲一場ノ夢

未タ許サス心頭一覺ニ到ルヲ○嘉言慇懃徑ニ榮貶ヲ領ス○

（頴語）過當ト爲ス○錦心繡口○感謝罄サス

上棟嘏

斷建鼎々高ク雲外ニ倣ラク○瑞氣靄々タリ○人ヲシテ曠ク望マシム○洋光

既ニ成ル三軍ノ凱旋當ニ日アルベシ僕等日ヲ期シテ足下ノ恩容ヲ見ンコトヲ待ツ友ノ其地ニ行クアリ謹テ起居ヲ候ス餘情拜話ニ在リ時氣漸ク炎天ニ向フ自重万々

（頴語）百戰百捷ノ報日トシテ耳ニセザルハナシ○想フ君ガ千軍萬馬ノ間ニアリ叱咤手ニ唾シテ三軍ヲ指揮スルヲ○我ガ國古今曾テアラザルノミナラズ凡ソ洋ノ東西ト時ノ古今トヲ問ハズ蓋シ斯ノ如キハアラザルベキナリ○僕等四千萬同胞ト共ニ兄等ノ凱旋ヲ待ツ○僕体軀孱弱兵馬ノ間ニ馳驅スル能ハザルヲ慨トス○炎威將ニ盛ナラントス諸子自愛セヨ

佳節人ヲ招ク

今日何レノ日ゾヤ實ニ是レ我ガ　睿聖ナル

杉ヲ折ヲテ斷文ヲ織ル因緣ハ桑木ヲ周ラシテ之ヲ疎ニス其造ル所ノ式象牙細螺木石ヲ碎截シテ倣飾ス寔ニ文房ノ雅器ト爲ス益シ工人柴山ノ遺ト云フ右邊ニ大ナル銅餅アリ玉蘭碧梅白山茶ヲ合挿ス枝横ハリ葉起リテ婆娑然トシテ芳氣人ヲ噴クガ如シ其ノ側盆種獨頭蘭アリ花藍紛披シ孤莖實ヲ結ブ又線香香箸灰匙一餅粛爐一座研山一架アリ前後離立趣ヲ爲ス左邊ノ果藍ハ佛手銀榴蓮房

○百雨昏々トメ自ラ無能ヲ愧ヅ○七十年夢ノ如シ○遊戲一場ノ夢

未タ許サス心頭一覺ニ到ルヲ○嘉言慇懃徑ニ榮貶ヲ領ス○

（頴語）過當ト爲ス○錦心繡口○感謝罄サス

上棟嘏

斷建鼎々高ク雲外ニ倣ラク○瑞氣靄々タリ○人ヲシテ曠ク望マシム○洋光

增ニ映ス

足下德門永ク章々ヲ啓ク○福ヲ受ルヿ何ソ量ル可ケン○薄微物ヲ具ス○以テ寸忱ヲ呈ス○叱留セハ是幸

上棟答

西江佇ヲ取テ以テ結搆ヲ營ム○卜築成リ矣○同志ノ雅ヲ邀ヘ○兀坐樽ヲ談シ自ラ醒メ自ラ醉フ○騷客

謹テ嘉物ヲ領ス○拜

文武皇帝陛下ノ降誕ニ當ル僕等莫莽ノ臣タルモノ之ヲ祝セズシテ可ナランヤ午後三點將ニ啓ク○福ヲ受ルヿ何ソ量ル可ケン○薄微物ヲ具ス○以テ寸忱ヲ呈ス○叱留セハ是幸

上棟答

西江佇ヲ取テ以テ結搆ヲ營ム○卜築成リ矣○同志ノ雅ヲ邀ヘ○兀坐樽ヲ談シ自ラ醒メ自ラ醉フ○騷客

謹テ嘉物ヲ領ス○拜

（頴語）天長ノ佳節ニ會フ誰カ　聖德ヲ謳歌シテ而シテ聖算ヲ壽セザランヤ○此ノ昇平ノ世ニ値フモノ誰ノ賜ゾヤ○賀席ヲ設ケ以テ祝意ヲ表セントス

同復

僕等ノ多幸ナル此ノ昇平ノ世ニ生レ昇平ノ國ニ住ス寤寐亦聖德ヲ頌セザルベケンヤ而シテ今日　聖誕ノ佳節ニ中ル何ゾ寶算ヲ壽セザルヲ得ンヤ忽チ招書ヲ辱クス欣喜已ムナシ時ヲ

（頴語）天長ノ佳節ニ會フ誰カ　聖德ヲ謳歌シテ而シテ聖算ヲ壽セザランヤ○此ノ昇平ノ世ニ値フモノ誰ノ賜ゾヤ○賀席ヲ設ケ以テ祝意ヲ表セントス

同復

僕等ノ多幸ナル此ノ昇平ノ世ニ生レ昇平ノ國ニ住ス寤寐亦聖德ヲ頌セザルベケンヤ而シテ今日　聖誕ノ佳節ニ中ル何ゾ寶算ヲ壽セザルヲ得ンヤ忽チ招書ヲ辱クス欣喜已ムナシ時ヲ

藕根扶撃相依リテ臭味同ジカラズ葡萄紫珠累々トシテ色ヲ爭ヒ而シテ水仙ノ根ヲ露ハシ蓼ヲ衒フル者柿子ノ酣紅唖フニ堪タル者散置伍ヲ爲シテ神韻幽深其上ニ盆景ヲ添フ錦盤疎竹清妍愛ス可シ屏上ニ小牌ヲ掲ゲ署シテ曰ク東京ノ製工蒿場鎌吉遇ル偶三圓五十金ト又貿單一紙ヲ副フ往年澳國博覧會審査長官ヨリ贈リシ所ナリ

◎傷

○東昌孝子傳

孝子ハ其姓名ヲ失ス父母並ビニ歿テ疾ム買ヲ業トシ以テ養フ既ニシテ婦ヲ娶ル一子ヲ生ム居ル所樓有リ家ヲ挙グテ其中ニ屯宿ス一夕隣人火ヲ放シメズ孝子ノ宅ニ及ブ孝子急ニ起キ其父ヲ脱ス復タ火ヲ冒シテ入ル父之ヲ止ム願ミズ會大風起リ火隣ナル遮シ覚ニ出ツルヲ得ズ母及ビ妻子免ル者無シ孝子猶両手ニ母ヲ抱持シ解カズト云フ康熙六年予東昌ニ客タリ海寇日北其事ヲ述ブ孝

謝既ズ○即カ以テ膝ヲ容ル、耳

◎番遷贈

煙火錦ノ如シ○恰モ足下ノ番轡ニ値フ○天胖地祝徳ヲ移シテ隣ト爲ル○美ナル哉栗ヒ哉○日ヲトシ趾リ賀セン○往テ賀ス可シ志安宅ヲ圖ル○吉ヲトシテ番ニ遷ル○大丈夫ノ作爲自ラ別ナリ

番遷答

忽チ華箋ニ接ス感々謝々僕本ト樗散ノ資ソノ成ルナキハ豫メ之ヲ知レリ唯ダ空シク歳月ヲ過スヲ恥ヅ故ヲ以テ且ラク家人ノ醤ヲ嘗メント欲スルノミ承ク徧ヲ枉ゲテ遠ク送ラントス何ソ情ノ厚キヤ唯タ期末タ定マラズ幾スル

◎友ノ遊學スルヲ臨ス

聞ク足下英才ヲ懐テ將ニ東都ニ學バントスト知ラス行李既ニ成ルヤ否ヤ期定マラバ當ニ野醸ヲ携ヘテ祖餞シ陽關ノ詩ヲ歌フベキナリ足下幸ニ明ニ以テ期ヲ示セヨ

（類語）行色且ツ匆々タリ○陽關三疊ノ曲ヲ歌フベシ○未タ審ニセズ上途矣レ何レノ日ニアルヤ○敢テ歸衣ヲ飜ヘシテ隣リ賀セン○異土ソレ自玉セヨ

◎同復

（類語）此ノ時ヲ舎テ、ソレ何レノ日ニ於テスベキ○獨リ行クノハ衆ニ與ニスルニ如カズ○友ノ伴フベキナシ○足下ノ鴈ナ命スルアラバ僕當ニ其尾ニ附スベシ○一報ノ恵ヲ垂レヨ

◎同復

（類語）足下ノ至情ナル感何ソ限ラン○行期尚ホ定マラズ僕居ヲ徙ス日有リ○鶺鴒ノ情○雲樹宏闊ナルヲ欲セス時ニ數聚ノ心朋ヲ延キ○少ク塵界ヲ忘レン

入學賀

源泉混々晝夜ヲ舎ズ○今兄塾ニ入ル實ニ以テ賀ス可シ熟讀思惟○其ノ源ヲ時子得ル○以テ難キ無カルヘシ○游ヲ勉メ

入學答

暑カラス寒カラス眞ニ是レ一年ノ樂時ナリ僕日者某地ニ遊バント欲スルモ好侶伴ナキニ困シム足下同癖ノ人ナリ倘シ驥尾ニ附クコトヲ得セシメハ誠ニ以テ僥倖トナス乞フ好音ヲ惠ノ前當ニ尊庭ニ趨リテ別ヲ叙スベシ敬復

子曰ク夫人倉卒ノ際ニ當テ至性乃チ發ヲ見ル生ヲ得ズト雖モ孝子慌ツルナシ想離ハ人ノ時ニ有ル所ナリ彼ノ妻者クバ子未ダ免ツ脫セザル者有ラザルヲ見ルナリ嗚呼是ヲ以テ孝子ヲ賢トス孝子名ヲ求ムルニアラズ都ノ人從テ愚ス子有司ニ聞セズ慨ス可キナリ

○五柳先生傳

先生何ノ許ノ人タルヲ知ラザルナリ亦其姓字ヲ詳ニセズ宅邊ニ五柳樹有リ因テ以テ號ト爲ス閒靜少言榮利ヲ慕ハズ讀書ヲ好ム書ダ解スル求メズ會意有ル毎ニ便チ欣然食ヲ忘ル性酒ヲ嗜ム家貧シテ常ニ得ル能ハズ親舊其此ノ如キヲ知リ或ハ設酒シテ之ヲ招ク造リ飲ム輒チ盡ス期必醉ニ在リ既ニ醉テ退ク曾テ情ヲ去留ニ悋マズ環堵蕭然風日ヲ蔽ハズ短褐穿結簞瓢屢空シ晏如タリ常ニ文章ヲ著シ自ラ娛ム頗ル己カ志ヲ示フ感テ得失ニ忘ル此ヲ以テ自ラ終フ贊ニ曰ク黔婁曰ク貧ニ非ラズ志ヲ立ル亦遙タ易スカラス○晩生ノ如キ質魯ナリ○忍ンデ努力ヲ加フ○賀ハ陳慵並ニ指點ニ賴テ無知ヲ免レン○謹テ嚴命ヲ蒙リ謹ヲ奉ス○心ニ銘ス感佩仕官贈

久シク倾巻ニ屆ル○志剛キ情腸ク○榮名週ニ聞フ○名書ヲアラン○何ゾ支吾アラン

仕官ヲ賀ス

足下ノ當世ノ經綸ニ富ムハ夙ニ世ノ許ス所今ヤ翼ヲ新日本ニ振フ曷ンゾ雀躍ニ堪ユベケンヤ兼シク不肖ヲ具ヘ以テ賀意ヲ致ス幸ニ留存アランコヲ祈ル赴任夫レ何ノ日ゾヤ一タビ趨テ別ヲ叙セント欲ス不備

同復

僕某ノ遊ビヲ爲サント欲スルコト日アリ唯タ友ナキヲ歎ズ何ソ意ハン足下先ヅ同行ヲ促サントハ僕閑散ニ困シムノ徒ナリ日時ノ如キハ足下ノ命ニ乞レ從フベシ請フ更ニ期ヲ洩ラセヨ

（類語）夢ノミ馳ス○一件ヲ得ンコトヲ望ム○忽チ雅約ヲ承ク○行李尚ホ未タ戒メズ○發車更ニ岡三日ヲ緩ンセヨ

讀テ此ニ拜賀ス恙々不肖私心戰々トシテ用ニ適セザルヲ恐ル何ソ圖ラン忽チ賀詞ヲ辱クシ併セテ厚貺ヲ蒙ル切ニ愧悚ヲ增スノミ就任ノ日未タ期スルヲ得ズ時ニ先ダチ一タビ高門ヲ叩テ謝ヲ述ベ併セテ別ヲ綴スベシ肅拜

（類語）足下素ト利器ヲ懷抱ス○今者某地ノ有司ヲ命ゼラルト○天下ノ爲メニ賀スベキナリ○北上下和睦シテ民風ヲ改善センコト日ヲ期シテ待ツベキナリ（以上贈詞）

僕等何ゾ此重任ニ當ラン○過テ大命ヲ受ク○唯タ非任ニ堪ヘザルヲ恐ル、ノミ○夙夜以テ報スル所ナカルベケンヤ○即テ厚儀ヲ忝クス何ヲ以テ之ヲ謝センヤ（以上答詞）

火災ヲ訪フ

警鐘火ヲ報ス立テ窓ヲ推セバ方ニ公家ノ邊ニ

ヘル有リ登限ニ臻々タラズ富貴ニ汲々タラズ其レ茲若人ノ儕ヲ言フ乎鵬ヲ翻ヒ詩ヲ賦シ以テ其志ヲ樂ム無懷氏ノ民カ葛天氏ノ民カ

○山部赤人傳

山部赤人和歌ヲ以テ聞ユ柿本人麻呂ト名ヲ齊フス稱シテ山柿ト曰フ論者以爲ク人麻呂赤人ノ上ニ立ヲ難シ赤人人麻呂ノ後ニ立ヲ難シ後世稱シテ和歌ノ仙ト爲ス神龜ノ初メ紀伊ニ從フ天平中吉野離宮ニ陪シ侍ニ應シ歌ヲ作ル詩ヲ奉日ニ詣ル神兵ニ至リ伊豫温泉ニ浴シ幸行島鍬馬浦ニ遊ブ又東遊不盡山ヲ望テ作ス所ノ歌世ノ稱スル所ト爲ル

○浪華節婦ノ傳

浪華夫婦與ニ居ル者有リ夫惡疾ニ罹ル而シテ妻之ニ事フル甚ダ謹ム夫其他ニ行ヲ勿ム亦ダ肯ゼサルナリ一日屋後ヲ覩ル其壁腰破フニ杉皮ヲ以テス裡皮ニ一社ヲ奠有リ釘ニ貫カル獨蓋々然タリ之ヲ怪ミ數々就テ驗視ス其雖往來之惠ム○諸兄ヲ待テ宴ヲ設ケ之ヲ請フ兄等試ント欲ス○即チ冠蓋ヲ屈シテ散遊セヨ

三徑ノ松菊妄ニ存セサル耳○小軒幸ニ膝ヲ容ル、ニ足ル○以テ五ニ酔フ可シ○懇ロニ回答ヲ乞フ

約ニ小飲ニ答

即早諭ヲ辱フス○塵務總出ヲ奈セン○雅命ヲ領スルヲ猶ズ

昨夜隣巷過テ火ヲ失ス風位矮屋ヲ覆フ而シテ幸ニ池魚ノ殃ヲ免ガル蓋シ天ノ僕ノ貧窮ヲ哀ミテ然ルノミ早ク賀詞ヲ蒙リ添フニ美祿鮮魚ヲ以テス感謝何ソ堪ヘン家中混亂筆硯塵ニ埋マル万縷他日ニ讓ル拜復

（類語）何ノ僥倖ゾヤ池魚ノ覩ヲ免ガル○陰德ナシ何ソ陽報アラン唯ダ天ノ寡貧ヲ憐ムニ外ナラザルナリ○家中混炎々タリ驚テ使ヲ走ラシムルニ幸ニ公家ニ及バサリシト報ズ是レ天與ノ慶ナリ豈ニ賀セザルヲ得ンヤ乃ヲ謹テ酒ト肴ヲ具ヘ以テ頌ス莞留ヲ蒙ラバ幸ナリ

（類語）祝融怒ヲ發シ○聞ク災ヒ貴家ニ及バスト何ノ幸カ之ニ過ギン○所謂陰德アルモノハ陽報アルモノカ○野釀山肴ヲ以テ祝意ヲ表ス

同復

昨夜隣巷過テ火ヲ失ス風位矮屋ヲ覆フ而シテ幸ニ池魚ノ殃ヲ免ガル蓋シ天ノ僕ノ貧窮ヲ哀ミテ然ルノミ早ク賀詞ヲ蒙リ添フニ美祿鮮魚ヲ以テス感謝何ソ堪ヘン家中混亂筆硯塵ニ埋マル万縷他日ニ讓ル拜復

（類語）何ノ僥倖ゾヤ池魚ノ覩ヲ免ガル○陰德ナシ何ソ陽報アラン唯ダ天ノ寡貧ヲ憐ムニ外ナラザルナリ○家中混敢テ命ヲ忽ニセズ○趨リ侍ス○寵召ヲ承ク

寵召贈

往ニ叩ニ雅名ニ赴ク

○方外ノ珍味靈ク世ノ常ニ異ナリ○殊珍異肴今ニ至ルマテ吻頰ニ在ル如シ

況ンヤ宿醒ノ尚ホ存スルヲ雖ヌ○曷ゾ恩酔ヲ忘ン○餘ハ渙一々謝スルニ由ナシ

出產ヲ賀ス

聞ガ如クンバ麒麟瑞ヲ呈シ昨弄璋ノ慶アリシト未ダ其聲ヲ聞カズト雖モ英資タルヤ知ルベキナリ敢テ綉衣一領ヲ捧ゲ以テ之ヲ祝ス莞存セラル、ヲ得バ幸甚ナリ時下特ニ三飯ヲ加ヘヨ

（類語）鸞鳳祥ヲ呈シ○弄璋ノ慶（男子）○弄瓦ノ慶（女子）○令誰ヲ產スト○聊カ湯餅ノ筵ニ奉ズ○呱々ノ聲ヲ聞ザルモ英物タルヤ知ルベシ

同復

昨一子ヲ擧グ幸ニ嗣次ヲ得タルノミ亦唯タ豚犬ナルノミ事早ク尊聽ニ觸レ賀詞ヲ辱クシ且ツ厚賜ヲ拜ス何ノ辭カ之ヲ謝セン今夕聊カ湯餅ノ小宴ヲ開カント欲ス若シ車ヲ枉ゲラルレ

ヲ哺ス故ニ久シテ死セザルナリ妻爲メニ憐ミ然以テ夫ニ告ケテ曰ク吾家旦ツ其儕ヲ饋スル況ンヤ人ヲヤ貧人永ク死セズ姜將タ何ク之ン夫猶自ラ安ンゼズ因テ速死スルヲ計ル河飢殺スヲ聞キ買テ之ヲ食フ坡血數升ニシテ蘇立ニ癒ユ終身夫妻ト爲ル外史氏曰ク是レ賢天ニ非ラズ乎妻ノ節出ニ激テ全シ夫ノ疾魚ニ激シテ癒ユ夫妻皆善人ナリ天蓋人ト猶信ナリ

○東涯伊藤先生ノ傳

先生諱ハ長胤字ハ原藏京都人仁齋ノ長子ナリ東涯又憶々齋ト號ス三四歳能ク字ヲ知ル仁齋常ニ子弟ヲ警戒シ曰ク汝等志ヲ立テ須ラク第一等ノ人タルヲ期スベシ長スルニ及ビ博聞强記善ク文ヲ屬ス深ク經術ニ堪タリ克ク家學ヲ繼述ス人ト爲リ沈靜寡默悉倫謹愼口人ノ過ヲ言ハズ紀伊侯其名ヲ聞キ之ヲ聘ス就カズ辭關公卿往々弟子ノ禮ヲ執ル是ノ時ニ當リ俊傑輩

五內ニ銘ス○正ニ趨リ承ルヲ圖ル○俗務紛紜要緊ノ推シ難キニ及ブ○特ニ召命ニ負ク○敬テ辭シテ趨カス

不レ赴答

恰モ回瞬ニ接ス○竝ニ情ヲ悉ノ告ルヲ蒙ル○勢ヒ逃グ難クハ敢テ强ヒ階ハス

須ク要安ニノ然シテ後ヲ相待ツベシ

ヒ能ク死ニ事ヘンコトヲ祈ル

◎書ノ例

書トハ尺牘ト殊ナルコトナキガ如クナレドモ尺牘トハ單ニ日用文ヲ漢譯セシニ止マリ書ノ長篇大作アルニ似ズ專ラ簡短ヲ主トセリ依テ以下ニ作例數篇ヲ錄シ尺牘ト書ト同工異趣ナルヲ示ス

上ニ司成林公書

安積艮齋

信謹テ啓ス前月初八日尊翰門人森田生ヨリ達ス驚喜抃躍天ヨリ飛墜スルガ如ク伏テ台候ノ淸穆ナルヲ審ニス曷ンゾ慶慰ニ勝ヘン公職重ク事殷ニ密勿暇アラス而シテ眷受ヲ垂レ翰教ヲ數百里外ニ賜フ信不肖何ゾ以テ之ヲ得タル抑モ亦三十四年ノ舊知ヲ辱フスルニ由ルノミ感喜喩フル所ヲ知ラズ恭シク承ク前月天使ニ伴接シ隅田川彩鷁ノ遊ビアリト高製三首ヲ惠

昨寵臨ヲ賜ヲ○幸ニ衙門光輝ヲ生スルヲ得○寿踊ニ勝ヘズ

村醪野蔬殊ニ其敬ヲ失ス○遽タ傲慢ニ似タリ○一日ヲ枉ゲ斐シテ自ラ獻芹ヲ愧ヅ○奚ゾ謝ト云ブニ足ン

謹テ嘉召ヲ領ス○柔タ高堂ヲ瞻マス○既ニ恩德ニ酔飽ス○感銘涯リ無シ○

パ妙タル甚ダシ

（類語）豚犬ノ子ハ豚犬ナルノミ○兄ダ後嗣ヲ得タルヲ喜ブノミ○忽ヲ賀辭ヲ蒙リ且ツ美服ヲ惠セラル○何ゾ齒牙ニ揩クニ足ラン○今夕小宴ヲ開キテ祝意ヲ表セントス若シ賣醜ヲ蒙ラバ幸甚

死ヲ吊フ

驚キ聞ク尊太人仙遊シテ歸ラズト人ヲシテ五內爲メニ裂ケシム足下ノ孝ナル終天ノ恨想フベシ窃ニ恐ル身ヲ傷フコトナカランヲ祈ル哀ヲ節ニシ死ニ事フルコト生ニ事フルガ如クナランコトヲ謹テ香資ヲ捧ゲ茲ニ吊詞ヲ呈ス謹白

出シ各々旗幟ヲ一方ニ竪テ互ニ相詆排ス而シテ先生遺文中一語ノ他學術ニ及ブ者有ルコト無シ嘗麟嶼初メ物茂卿ニ學ブ心先生ニ嶺往ス遂ニ笈ヲ負ヒ之ニ遊ク茂卿固ヨリ以テ意ト爲サズ大宰純心甚ダ不平各贈言アリ麟嶼先生ニ泊リ出シテ之ヲ示ス先生突テ曰ク物先生襟度廓如想見スベシ大宰子亦慷慨氣節アリ其温厚物ト競ハズ蓋シ此ノ如シト人紙筆ヲ乞フアラバ則チ貴賤長少ヲ論ズルナシ皆立ロニ之ニ題ズ又他嗜好無シ終日栽花手ニ未ダ嘗テ卷ヲ釋カズ得ル所アル毎ニ則チ之ヲ劄錄ス著述身ニ等シ皆天下有用ノ書ナリ元文元年年六十七ニシテ卒ス私ニ諡シテ紹述先生ト曰フ内大臣華山公常雅之ニ銘ス中納言防城俊將家額ス右中將八條英朝書ス世以テ之ヲ榮トス紹述文集三十卷アリ世ニ行ハル子善紹嗣ク子孫世業ヲ承ケテ家聲ヲ隕サズ今ニ至リ其由宅ニ住

○一餐ニ過サル耳

貸借

貸借贈

啓者某物遽然用ヲ欠ク○足下ノ面允スルニ因リ○小介ヲ遣ク

若シ一用ヲ經バ敢テ奉還セン○往カシメ敬ンテ鼎借ヲ懇ス

貸借答

適尊諭ヲ承ク○命スル所幸ヒ便手ヲ得○聊カ棚下ニ供ス倘シ其ノ式ニ當ラバ○留用何ゾ妨ゲン○命ノ如ク備上ス

火災賀

爾カ閈ノ災ヒ不慮ニ及ビ○家室火勢ニ燼ス○遽然トメ大駭之ヲ品○来タ安セス

火災答

路遠シテ往救ヲ失フ○須ラク戚々タル勿レ

火災答

頃間忽チ風火ニ一燎セラレ○赫烈猶フ如ク○家ニ餘儲無シ然レ𪜈都ニ在ルノ日公談次之ニ及ブ蓋シ公ノ膏粱ヲ喜バスシテ唯淡是レ好ム亦盛德ノ一事故ニ附呈ス信奉別咋ノ如キモ候ヲ數月ヲ今昔ヲ俯仰シ之ガ爲メニ慨然タリ曹子桓踰ユ今世教ニ裨益有リ永ニ弊藩ノ子弟ヲシテ之ノ云フ所風流雲散シ一別雨ノ如キ者百世ヲ嚮フシテ而シテ相感スルナリ維レ時冷氣漸然千万保嗇シテ以テ區々膽仰ノ心ヲ副ヘヨ信順首再拜

寄友人書　富井勘粹

年月日某再拜白ス某兄足下別後五六年今ヤ僕成童ニ過ギ讀書作文未ダ知曉スル能ハズ省ミ深ク自カヲ恥ヅ而シテ足下ノ鄉校ニ在ルヤ聰明已ニ人ニ超絶スル才學鬱然文ヲ爲リ詩ヲ爲リ出ル毎ニ必ラズ人ヲ驚カス奮然東都ニ遊學スルニ及ビ羈馬ヲ天脫ス其進ムヤ駸々乎トシテ

スト云フ

◎論

○楠正成論

正成宇都宮氏來ルヲ聞テ戰ハズシテ退ク怯ゴ似タリ然レ𪜈其ノ僕ヲ遣テ士卒ヲ損セズ更ニ奇ヲ出シテ以テ敵ヲ走ラス是レ戰ハズシテ人ノ兵ヲ屈スルナリ謀略ニ老ヒタル者ニ非ラズンバ則チ能ハザルナリ易ニ曰ク師左次咎ム无レ未ダ常ヲ失ハズ正成ノ謂カ

○村上義光論

義光親王ニ從ヒ南紀ノ間ヲ廻歷セシヨリ以往百戰萬危其身ヲ顧ミズ終ニ親王ノ紀信ト爲ル属ニ千古ノ忠臣ト謂フ可シ親王嘗テ義光ヲ以テ北宮勝ニ比ス然レ𪜈熙ヤ徒ニ勇有リテ義ナシ義光父子ノ如キハ義勇ヲ兼子尽ス豈宮勝ガ能ク及フ所ナランヤ

○稚郎子論

予史ヲ讀ンデ稚郎子天下ヲ讓ツルニ至ル毎ニ未ダ嘗テ慨然トシテ卷ヲ拊フテ泣カズンバアラザルナリ昔者伯夷叔齊國ヲ讓ル孔子之ヲ賢シ夜半ノ盜ヲ畏ザル耳笑笑○弔セラルヲ辱フス◎謹テ命ヲ奉セン

慰病贈

節律不順○健者尚ホ則チ病ム○貴疾稍愈ル得失聞カズ僕ノ依然鄉人タルヲ免ル能ハザルヤ否ヤ○快掌遽ニシテ造候ヲ失ス○宜シク保重ス可シ○造訪闕如

病氣答

屢々雅問ヲ蒙ル○頃日痛楚少ク減シ坐臥稍寬ナリ○問ヲ承ク榮感ニ勝ヘス

醫贈

忽チ微疾ニ染ム○寒熱相厄ス○半臥進ム○安スカラス○敢テ國手ヲ煩ハス○特ニ妙劑ヲ乞フ○幸ニ生機有ン○卽刻枉駕ヲ乞フ

醫答

聞ク貴体順ヲ失スト僕ニ命シテ按治ス○後刻ヲ期ス敢テ趨候セン○病根アル可ヲサル所夫レ此ノ如クナレバ則返テ僕ノ毀譽知ラズ得失聞カズ曰ニ鷄犬糜鹿ヲ侶トスル者乃チ足下ニ勝ルナリ足下固ヨリ過ヲ知リ能ク改ム僕一言此ニ及ブ亦友誼ニ反カザラント欲スルナリ足下幸ニ深省悔悟スレバ則向キノ醜聲適サニ他日令譽ノ基タル所以ニシテ而シテ僕ノ友誼空シカラサルナリ僕將ニ來春花時ヲ以テ京ニ至リ足下ト相見舊ヲ語ラン時正ニ秋冷熟常ナラズ千万自愛セヨ某白ス

林長孺ニ與フル書　長野豐山

長孺足下天氣晴和想フニ高園ノ梅花已ニ香ヲ吐キ人ヲ襲フベシ弊舍逼促寒梅一株有リ氷ダ花ヲ開カズ人ヲシテ懊惱セシム病中無聊以テ日ヲ悄遣スル無シ聞ク足下家ニ石刻ノ米書天馬賦ヲ藏スト知ラズ僕ニ惜觀ヲ許スヤ否ヤ凡

シテ曰ク古ノ賢人ナリト孟子曰ノ伯夷ハ聖ノ清ナル者ナリト夫レ孤竹氏ノ子譲ル所ノ者ハ蔑爾タル小國ナリ而シテ孔孟乙ヲ美トス後世之ヲ称シ今ニ至リテ衰ヘズ稚郎ヂハ乃チ天下ヲ以テ其兄ニ譲レ𠮟受ケズ則チ菟道ニ遜レテ受ケズ則チ自殺シテ以テ其心ヲ決ス孔孟ヲシテ之ヲ聞カシメバ必ズ當ニ感歎讃美シテ暇アラサル可シ況ンヤ其國ニ生レテ其遺澤ヲ受ル者為ンゾ卷ヲ施フテ泣カザルヲ得ンヤ

除ク可シ

吊喪賀

令尊大人危篤ノ棄背ス○此ニ足下ノ悲痛ヲ想フ○痛悼及ブ無シ○吊ヲ致スニ忍ヒス少ク微尊ヲ寄テ用テ叅敬ヲ献ズ

吊喪答

不幸ニメ忽チ家父ノ凶變ニ遭フ○今ニメ承懽及ハサルヲ悔ユ○號痛何ソ臆ハン○厚賻ヲ蒙テ泣血拜領ス

ソ法帖書畫ハ雅士ノ珍秘スル所肯テ輒スク門ヲ出サズ古人皆然リ況ンヤ足下ガ藏スル所ハ石刻ノ佳ナル者而ルニ僕妄リニ求ム猶劉玄德ノ荊州ヲ借ルガゴトシ足下必ラズ其還サヾルヲ疑ヒ以テ僕ノ人情ニ近カラザルヲ笑ハン然レ𠮟僕老テ且ツ病ム久フシテ世俗ノ鄙棄スル所ト為ル獨リ賴ニ足下輩一ニ清雅ノ士過テ之ヲ存スル有ルノミ僕窶ンゾ敢テ俗士ニ求メン幸ニ足下之ヲ亮セヨ帖ハ一月ヲ留テ乃チ奉還セン儻シ賤价ニ付シ來ラバ尤モ妙ト為ス幷ヒニ梅花一枝ヲ惠マルレバ更ニ妙ト為ス

證券印稅規則

第一條　凡そ財産の授受及び契約の證書帳簿之此規則に循ひ印紙を貼用す

第二條　證書帳簿を分けて二類を為し其稅率は左の如し

第一類

右に掲ぐる所の證書帳簿は金高の有無多寡に拘はらず下に定むる所の印紙を貼用すへし但し當坐預り金引出小切手は大藏省に稅印の押捺を請ふことを得

一當坐預り金引出

○金圓借用證書

印紙　印紙

一金何千圓也

但し利子は金何圓に付一ケ月何程の定め

右の金高慥に請取り借用申候處實正也然る上は來る何月何日限り元利共無相違返濟可致候万一遲滯致し候節は保証人より辨償致し少しも貴君へは御損難相掛け申間敷為後日借用証書依而如件

住所身分

借主　何　某　㊞

年月日

保証人　何　某　㊞

○金子預り証

一金何圓也

但し利子一ケ月何程の定め

右の金員正に預り申處實正也利子之儀は前記の通りにて毎月何日無相違相渡し可申候若し又本金御入用の節は何時にても御渡可申候為後日預証依而如件

預り人　氏　名　㊞

年月日

保証人　氏　名　㊞

○敷金預り之証

印稅 五厘

一委任狀　全 五厘

一金高記載なき約定證文　全壹錢

一遺失物證文　全壹錢

一跡式譲證文　全壹錢

一譲與證文　全壹錢

一期限を定めざる預り金證文　全壹錢

一耕地小作證文　全壹錢

一雇人請合狀　全壹錢

一金高記載なき諸物預り證　全壹錢

一金高記載なき諸物借用證文　全壹錢

一地所家屋預り證文　全壹錢

一諸物品切手　全壹錢

一借地證文　借家證文　全壹錢

一賣買仕切書　全壹錢

一保險證文　全壹錢

一金何圓也

何市何町何番屋敷拙者持家貴殿へ貸し渡候に付き敷金として　年月日　全　何某印

何市(區)何町(何郡村)何番屋敷何

一間口　何間

一奥行　何間

此坪數　幾坪

此借地料　何圓何拾何錢

右貴殿御所有の（或は御差配被致候）地所何年何月より何年何月に至る何年何ヶ月間我等借用致し候處實正也借地料の義は毎月何日限り無相違相納可申若し一ヶ月にても遲滯候はゞ保證人引受け辨償致すべく候又右地所御入用の節は御通知有之候日より何日迄何日間に明け渡し可申候爲後證依而如斯

年月日　家主　何某印

住所　身分

○借地の證

何市(區)何町(何郡村)何番屋敷何

一間口　何間

一奥行　何間

此坪數　幾坪

此借地料　何圓何拾何錢

右貴殿御所有の（或は御差配被致候）地所何年何月より何年何月に至る何年何ヶ月間我等借用致し候處實正也借地料の義は毎月何日限り無相違相納可申若し一ヶ月にても遲滯候はゞ保證人引受け辨償致すべく候又右地所御入用の節は御通知有之候日より何日迄何日間に明け渡し可申候爲後證依而如斯

年月日　借地主　何某印

全　保證人　何某印

○荷物預證

一何品　何十個

澁紙又は菰但し一個に付

目方何貫目

右は何會社(汽船何丸)より着荷候處貴殿の御都合により來る何月何日迄當社へ預り置候事實正也御引取の節は此証と引替へ相渡し可申候依て後日の爲め證書如此候也

年月日　何某印

住所　身分

○賣品約定證書

何國産

一何品　何個

此代金何百何拾圓也

右は今般貴殿へ賣渡の契約相結び其手附金として金何十圓正に落掌候處明白也依て右品は何月何日限り殘金と引替へ皆濟御渡し可申候万一故障等有之違約の節は右手附金を倍し返却申べく若し又貴殿方にて殘金不足等有之候節は右物

全　壹　錢
一諸會社株券
全　壹　錢
一送金手形
全　壹　錢
一金　錢通帳
諸物品
一年以内一冊に付
全　壹　錢
一金　錢判取帳
諸物品
全　貳拾錢
一結社約定書
全　壹　錢
但結社約定書に金圓授受貸借に係る條項のりて之が効力を確定する證書帳簿は金高記載なしと雖第二類金高記載ある諸般の契約書に準し印紙を貼用すべし

左に掲ぐる所の證書は金高五圓以上のものに限り下に定むる所の印紙を貼用すべし

一營業に關する送狀
印紙　壹　錢
一營業に關する請取
書　全　壹　錢
右證書を通帳となすときは都て一年以内壹冊に付壹錢の印紙を貼用すべし

第二類

品當方に於て處分致し手附金は流失と致候依て賣品約定證書如此候也

年月日

住所身分
氏　名　㊞

○小作證書

何國何郡何村字何々
一耕地何反何畝歩
此小作米（麥）一ヶ年何俵（一俵何斗入）
或は金何程
右は貴殿御所持に有之候處何年間拙者引請定面小作致し候樣御約定取り結び候處實正なり然る上え地租其他雜費等は貴殿御名前を以て相納め且米（麥）金は豐凶に關せず毎年何月限り岐度相納可申万一延滯の節は保証人より返辨可仕爲後日依而小作證書如此候也

住所身分
小作人　何　某　㊞
年月日　全
保証人　何　某　㊞

○跡式讓證

一私儀今般跡式幷に家屋財産殘らず嫡子（長女）何某へ讓與候處實正也尤も次男（次女）何某へは何村何番地字何々田地（畑）何反歩相添へ遣し可申候段違背有之間敷依て爲後日親族連署を以て讓與候如件

住所身分
父　氏　名　㊞
年月日　全
親族氏名　㊞

○公債證書賣渡證

一金錄公債證書（又は何公債證）
六一四同ろ号（何千何百番何枚）
右何府（縣）士族何某宛名
此價格金何百何拾圓也
右の何々公債證書何枚是迄拙者買受け所持致居り候處今般右價金を以て貴殿へ賣渡代金慥に受候處實正也爲後日依て証如件

年月日

住所身分
何　某　㊞

○雇人請狀

住所身分
何　某

左に掲ぐる所の證書は金高の多寡に隨ひ下に定むる所の割合を以て印紙を貼用すべし但爲替手形約束手形は手形用紙を用ふへし

一金錢借用證文
一地所家屋賣買證文
一金高記載ある諸物品預り證文
一金高記載ある諸物品借用證文
一諸物品賣買證文
一金錢定期預り證文
一金高記載ある諸般の契約證書

金高壹圓以上貳拾圓未滿　印稅壹錢
金貳拾圓以上五拾圓未滿　仝　貳錢
仝五拾圓以上百圓未滿　仝　四錢
仝百圓以上百五拾圓未滿　仝　六錢
仝百五十圓以上二百圓未滿　仝　八錢
仝貳百圓以上三百圓未滿　仝　拾錢
仝三百圓以上四百圓未滿　仝　拾四錢
仝四百圓以上六百圓未滿　仝　貳拾錢
仝六百圓以上八百圓

右の者今般何年何月何日より何年何月迄貴殿方へ差遣候段確實なり給金の儀は何ヶ年何程と相定め唯今何程御渡し被下度候下跡金は追々御渡し被且又万一此者に對し如何樣の事出來候共一切請人より於て引受け貴殿方へは聊も御損惑相掛け申間敷候尤も本人病疾其他止むを得ざる事故にて定約中御暇に相成候節は代人及び給金等の儀は御差圖の通りに辨償致すべし後日の爲め請狀如件

年月日

住所身分
請人　何某　㊞

○荷物爲替手形の證

一何品　何程

右代價金何圓也

右荷物爲替の約定を以て代價の幾割引卽金何百圓御渡し申候依て屆先何府（縣）何町（郡村）何某殿へ送附候節は御規則の通り利子御拂有之べく其他總べて荷物爲替規則の通りに取計らひ候也

年月日

住所身分
何某

何某

年月日生

右の者何々修業の爲入校（塾）相願候上は御校（塾）則堅く相守らすは勿論本人身上に關する一切の事件は拙者引請決して御迷惑相掛け申間敷爲後日身元引受證書如件

年月日

住所身分
何某　㊞

何學校（塾）御中

○送り狀

一何品　何個

澁紙包或は菰包但目方何貫目

此代價何程

右ハ濱船何丸（商船會社）を以て差出し候間到着の節は御査收被下度候也

年月日

住所身分
何某　㊞

○身元引受證

住所身分
何某

○乳母奉公請狀

一私姉（妹）たれ儀夫の搆ひ無

未滿	全　貳拾六錢
全八百圓以上千百圓未滿	全　三拾貳錢
全千百圓以上千四百圓未滿	全　三拾八錢
全千四百圓以上千七百圓未滿	全　四拾四錢
全千七百圓以上貳千圓未滿	全　五拾錢
全二千圓以上二千五百圓未滿	全　六拾錢
全二千五百圓以上三千圓未滿	全　七拾錢
全三千圓以上三千五百圓未滿	全　八拾錢
全三千五百圓以上四千圓未滿	全　九拾錢
全四千圓以上	全　壹　圓

右賃證書を通帳と爲すときは其附込見積金高に隨ひ下に定むる所の印紙を貼用すべし

全高百圓未滿　印稅　四　錢
全高百圓以上總て諸證書稅率に據るべし

之に付拙者引受人相立ち何年（月）間給金何圓と定め乳母雇に差出し候處實正なり然る上は病氣又は乳汁不足に候とゞ代人差遣し可申万一此者に對し如何樣の儀出來候共我等引受け埒明可申候爲後日請狀如件

年月日

住所身分
請人　何　某　㊞
全
本人　何　某　㊞

○家作建物賣渡証

何（郡）區何町（村）何番地借地有之候何番戸

一建家　何棟　何十坪
此坪
內瓦葺二階造　何坪
全平屋建　何坪

右同所に有之

一土藏　何棟
但瓦葺二階建　何坪
同　三階建　何坪
附庭石飛石共別紙圖面之通り

（印紙貼用）

此代金何程

右は拙者所有の家作賣渡し右代價前書の金額落掌候事確實也此家作の儀に付他より故障等申出候節は我等引受け貴殿へ御迷惑相掛申間敷候爲後日建家賣渡證如件

年月日

住所
賣渡人　氏名　㊞
住所
保證人　氏名　㊞

○爲替手形書式

印
證

一金何圓也

右者先般輸送致候何品何程代價之內何程此度御地何（郡）區何町（村）何番地何某殿へ爲替に約束候間來る何月何日限り前全人へ可被致交附候也

年月日

住所
氏名　㊞

○建物共有契約証書

一建家瓦葺　壹棟　（但平家）

右拙者所有之處共有と爲し之を三分して各之を自分所有と爲すの約束を致し其二分の代價何程正に領收す因て共有證如件